

ONE MEIJI

～明治はひとつ～

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会

2018年総明会会報

紫紺の詩

明治中學校 校歌

校歌

作詞 武島 羽衣
作曲 楠見恩三郎

作詞 児玉 花外
作曲 山田 耕筰

一章

帝都の真中駿河臺
遙かに望む富士のねの
高きに理想の影追ひて
集る健児勇まじや

一、白雲なびく駿河台

眉秀でたる若人が
撞くや時代の暁の鐘
文化の潮みちびきて
遂げし維新の栄になふ
明治その名ぞ吾等が母校
明治その名ぞ吾等が母校

筆 向殿 政男

総明会とは

総明会とは、旧制、新制明治中學校、明治大学八丈高等学校、明治高等学校の卒業生ならびに同校に在籍したことがあるものの同窓会組織である。

総明会の設立の起源は、1912年(明治45年)開校時にあった「学友会」にまで遡ることができ、1926年(大正15年)1月の「同窓会」設立へと続く。その後中断の時期を経て1964年(昭和39年)有志による「明治中學校・高等学校同窓会設立発起人会」が設立、1年間の準備期間を経て1965年(昭和40年)に第1回同窓会が開催され現在の総明会へと続いている。

総明会の活動は、「会員相互の結束と親睦を図り、且つ母校のためにこれを賛助すること」を目的としており、総明会会員を対象とした年に1回開催される総会・懇親会を中心に、各委員会が企画する行事、「総明会チャリティーゴルフ大会」・「評議員・班・クラブOB・OG会」・60才以上の会員を対象とした「明明会」等を開催している。

その他、母校に対する活動として、卒業する高校3年生を対象とし、『明治大学付属明治高等学校建学の精神にのっとり、伝統ある校風のもとに学業に励んで優秀な成績を取めたことを賞する』、2007年度(平成19年度)からは、成績優秀者のみならず、班部活動、対外活動、学校行事など、学校生活全体を通じた活躍や貢献したもののへの総明会賞の授与、母校記念行事への寄付活動、クラブ活動への支援を行っている。卒業生に対しては、大学在学中の若手を通じての総明会活動紹介、同窓会開催支援や就職相談会の開催等を行っている。

この他、総明会会員である明治大学、明治高校の教職員を通じての組織基盤の強化、「法曹部会」による高校在校生を対象とした司法試験向けの各種支援も行っている。

なお、「総明会」の名称であるが、1970年(昭和45年)の第20回総会において、初代校長鶴澤総明先生の名前をいただき、且つ明治中學校・高等学校同期会と同窓生総体の連帯を意味するものとして命名されたものである。

紫紺の詩

揮毫

二章

学びの高嶺文の海、
嶮しく荒き行末を
懼れず笑みて進みゆく
我等が意氣は天を呑む

二、権利自由の揺籃の

歴史は古く今もなほ
強き光に輝けり
独立自治の旗幟し
高き理想の道を行く
我等が健児の意氣をば知るや
我等が健児の意氣をば知るや

「紫紺の詩」は総明会設立50周年を記念して総明会会員の皆様から寄せられた意見を基に決定し、総明会名誉会長向殿先生に揮毫いただきました。

三章

忠と孝の大糸を、
色どる正義、愛、誠
我等が胸をかざるべき
大和錦の美ならずや

三、靈峰不二を仰ぎつつ

刻苦研鑽他念なき
我等に燃ゆる希望あり
いでや東亜の一角に
時代の夢を破るべく
正義の鐘を打ちて鳴らさむ
正義の鐘を打ちて鳴らさむ

四章

世界に王たる日の本の
國民の基と身をなして
我等が校の名を揚げむ
我等が國の威を揚げむ

正義の鐘を打ちて鳴らさむ
正義の鐘を打ちて鳴らさむ

安部友巳先生 27年目の特別授業

今回の特集で真っ先にご登場いただくのは、今年度総明会の幹事学年である明仁会の名付け親である安部友巳先生です。原点に戻るために、そしてそれだけではなく、今後の在り方をいま一度、考えるために、迷える(?) 明仁会有志30名(十何故か平成改元会4名)が記録的な猛暑となった8月某日、調布校舎の高1-A組に集まった。それでは「安部劇場」の始まり~!



平成改元会の先輩



起立!
礼!
着席!



どうやら君たちが生き方に迷っているようなので、今日は**道徳の授業**をやることにする。

いや、もう何回もしているので大丈夫です



先生はお前たちの前では、ずっと、こうやってネクタイを締めて授業をしてきました。それは何故か? 先生はお前たちに制服をきちんと着ろ! って強制をしている。他人に強制するからには、絶対に自分に対しても強制をしなくてはならない。だから、俺はネクタイをするんだ。お前たちももし私服だったら、先生はネクタイなんかしなかったし、白靴下も履いた。

お前たちが生徒だった頃、教室にクーラーなんてなかったよな、そりゃ暑いに決まっている。だけど、俺は必ずネクタイをして授業をした。それは「ちゃんとしろ、コノヤロー!」って言うためにだよ。楽で涼しげな格好をしているのに、ちゃんとしろ! って言ったらおかしいだろ。中学高校時代は「大人と子供は違うから」という理屈には腹が立ったはずだ。そいつたことを書く。それが、やっぱり仁義ということだと思っただよ。

俺が必ずネクタイをして授業に臨む理由



卒業してから30年近く経って、
今、勉強の意味を
どう思っている？
社会に出て経験を積んだ後、
振り返ってみて、
高校時代になぜ学ばなければ
ならなかったのか、
意味を考えたことはあるか？



今日、ここで話す
道徳のテーマは
「**何のために学ぶのか？**」だ！



本当にそう
思ってるのか？

今のための
準備というか…



青木、発表してみろ。
中高時代に学ぶという
ことはなんだ？



深く考えたことあるか？
俺たちも自由に生きたいと
考えるのは学生の常だし、
今でもそう思うことも
あるかもしれない。
だけど、鳥や魚が本当に
自由かというのと、
そうじゃないよな。
何故だかわかるか？



例えば、この校舎にくるまでに、
空に小鳥が飛んでいるのを
見かけたりするわけだ。
鳥が飛んでいる。
そうすると、鳥は自由だなと
思うかもしれない。
一方、海に眼をむければ、
魚が泳いでいる。
自由泳いでいる。
だが、それは本当に自由か？



鳥や魚が生きている
空や海というのは、
自然に存在するものだ。
鳥は空を作ったわけじゃないし、
魚は海を作ったわけじゃないんだよ。
自然に存在していたものだから、
そこを飛んでいても
泳いでいても、
自由という感覚はない。
ところが人間は、
自然は作らない。
だけど社会を作った。
だから、そこに
責任があるんだよ、
人間としての責任が。
社会に対する責任が
人間にはある。
そのために学ばんだよ。



だけど、
欲望と必要、
これは区別して
おこななきゃいけない。



欲望とは
「心が欲しいまま」
というやつだ。



せっかく人間として
生まれてきたからには、
それに意味づけを
したいという
欲望はみんな
持っているよな。



いいんだよ！
多少のこだわりが
あっても、
じゃあ、このブランドの
ハブラシじゃなきゃ
絶対に磨かない、
なんて奴は
いねえんだよ。



いや、
ありますけど・・・。



例えば、
朝起きて歯を
磨く時に、
このハブラシと
歯磨き粉じゃ
なきゃいけない、
なんてのは
あまりないだろう？



欲望が向かう方向の1つは、
知的な好奇心だ。
だからそれを満たすために
勉強をするわけだ。



じゃあ、
どこに向かうか？



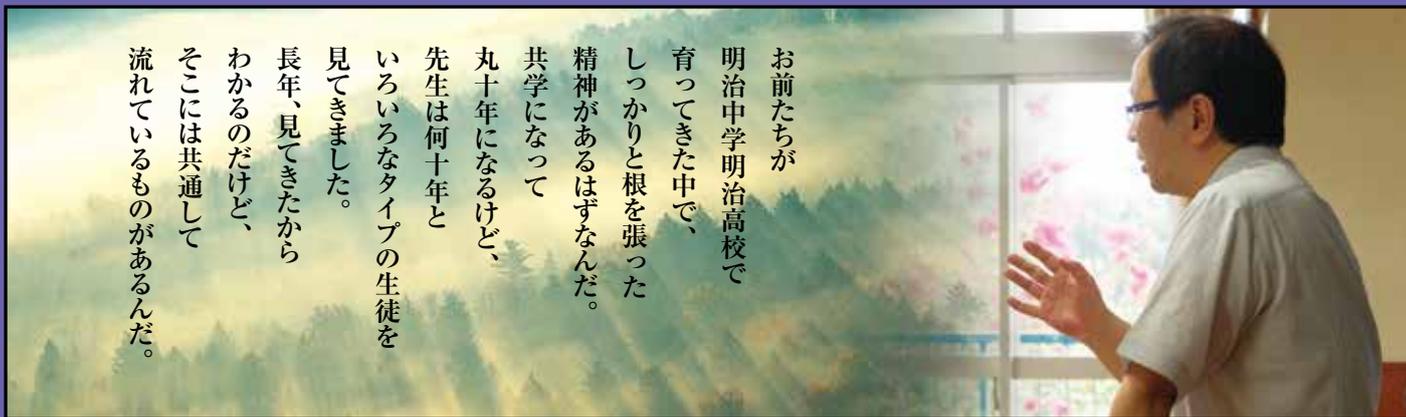
それが、必要なんだ。
欲望というのは
その上を行くわけ。
で、人間の欲望というのは
物に向かうだけじゃない。



真・善・美を求める、
といつても、
それには限界がない。
だけど、人間は
答えを求めたがるわけだ。
それが人間の欲望。
人間の欲望はその様に
広いということだ。



それから、
こういうのにも向かう。
「真・善・美」というもの。



お前たちが
明治中学明治高校で
育ってきた中で、
しっかりと根を張った
精神があるはずなんだ。
共学になって
丸十年になるけど、
先生は何十年と
いろいろなタイプの生徒を
見てきました。
長年、見てきたから
わかるのだけど、
そこには共通して
流れているものがあるんだ。

卒業して何十年も経って、
こうやって集まったりするとか、
横のつながりがあったりするとかということは、
普通の、例えば公立の学校を
卒業した人々には出来ないものな。
もしかしたら、一種のシエラシーのようなものさ
感じられるかもしれないと思いますよ。



それは何か？ それは、
ここに座ったことがあると
いうことだよ。

不機嫌



そのことだけは決して
忘れないでもらいたいと
思います。

だからこそ、
その繋がりゆえにわかる、
友達がやっていること、
友達が持っているものを
自分の生き方の参考にすることは、
恥ずかしいことでも何でもない。

お前たちには、
そういった意味での
「玉」を持って
卒業していったという
事実があるんだ。

特別授業を終えて
実際の授業と同じ50分間の予定で始まったのだが、気が付けば1時間を大幅に超えることに。誌面の都合で授業内容を全て掲載することは出来なかったが、かつて私達が生徒だった時と同じく、先生の話は融通無碍に展開してとどまることを知らなかった。
今も「生徒に迎合することは一切しない」と言い切る安部先生の教えは、それこそ私達が猿楽町の校舎で日々、薫陶を受けたものと一ミリも変わることはなかった。
安部先生、ありがとうございました。



いっしょにお元気でいってください！



**起立！
気を付け、礼！
ありがとうございました！**

特集



応援団結成70周年・ チアリーディング部創部10周年



平成30年、応援団が結成70周年、同時にチアリーディング部が創部10周年を迎えた。この節目の年に、改めて、応援団とチアリーディングがこれまで辿ってきた軌跡を追った。

《明治高等学校応援団史》

昭和22年度 野球部対都立二中との試合に全生徒が応援に参加。旧制中学5年大柴武男等がリーダーとなり応援活動を行う。

昭和23年度 新制高校へ改編。当時の明治高校野球部島岡監督から秋田・小田川・長谷川の3人が応援団結成の命を受ける。学校が校章・校名を染め抜いた紫紺の旗を作成。(応援団の文字は入っていない)

昭和25年度 野球部が甲子園出場を果たす。

昭和27年度 団バッジ、腕章が作られる。

昭和33年度 顧問に松枝正弘先生が就任。野球部、秋の東京地区予選決勝で王投手を擁する早実高に敗れるも後援の新聞社の関係で、春の甲子園に出場。6万人の観衆の前で、準決勝で中京商業に敗れるまで応援。

昭和35年度 応援団強化の意味から吹奏楽班が発足。

昭和39年度 昭和35年に呼びかけを始めた「東京六大学付属高等学校応援団連盟」を設立。

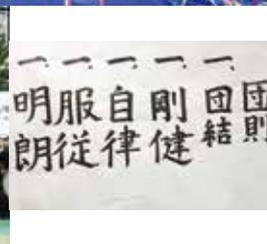
明治高、明大中野高、法政一高、法政二高、立教高、慶応高が加盟。

10月「第1回 六旗の集い」を立教タッカーホールで開催。

昭和48年度 加藤眞義(昭和36年卒)の呼びかけで応援団OB会が結成される。

昭和49年度 顧問に山田伸夫先生就任。この年より定年退職されるまで38年間、応援団の顧問を務められる。





応援団結成70周年・チアリーディング部創部10周年記念式典・祝賀会

6月3日(日)、明治大学 アカデミーコモン 暁の鐘にて、応援団創設70周年、チアリーディング部創部10周年式典が開催された。式典はアカデミーコモン1階の受付に団旗が立てられ、参加者を迎えるところから始まり、受付開始の午後1時30分を過ぎると、歴代OB・OGをはじめ、来賓を含め約350名が来場した。

昭和57年度 6月に新団旗作成、神田明神で入魂式。

昭和59年度 夏合宿・新潟県越後中里で4泊5日。羽織袴が作られ、紫紺祭にて明高節を披露

昭和61年度 7月、新大団旗作成。保坂吉彦校長も列席され神田明神で入魂式を行う。

野球応援用に白地にMeijiのロゴの入ったトレーナーが作成される。

平成3年度 平成4年1月15日、団員今井高志(平成5年卒)がNHK青春メッセージュに出演。応援団に関する弁論で喝采を浴び、特別賞を受賞。

平成4年度 コーチ制がこの年より導入される。

初代コーチに高村光昭(昭和37年卒)と吉田耕太郎(昭和45年卒)が就任。

平成8年度 11月17日、総明会が本校校庭で開催され、現役、OBによる応援披露がなされる。以後、応援団OBによる応援披露は総明会において毎年恒例となる。

平成12年度 初の生徒会長兼応援団長に吉川博樹(平成13年卒)が就任。

平成16年度 ザ・ノンフィクションの撮影開始

平成19年度 猿楽町校舎での最後の紫紺祭が開催される。参加校の減少等により、この年の「六旗の集い」をもって以後、休止となる。

平成20年度 調布校舎へ移転。共学化とともにチアリーディング部募集開始。

平成22年度 初の女性幹部が誕生。

第1回「紫紺の下に」を開催。

平成24年度 押田華穂(平成25年卒)が初の女性団長に就任。

平成27年度 第6回「紫紺の下に」にて、女性が初めて団旗旗礼(旗手長)と明高節(団長)を披露。

出展：明治大学付属明治高等学校応援団OB会

明治大学付属明治高等学校応援団結成70周年
チアリーディング部創部10周年記念史より引用(敬称略)



チアリーディング部創部10周年記念

草創期のメンバーと初代コーチ 当時の思い、そして後輩・現役団員へのメッセージ



明治高等学校・中学校が調布へ移転して10年、共学化とともに誕生したチアリーディング部も創部10周年を迎えた。伝統ある応援団の傍らで、全くのゼロからスタートしたチアリーディング部。その草創期を担ったメンバーと初代コーチが当時の苦勞と、これからの引き継ぐ後輩たちへメッセージを送った。

♥初代チア・春山愛美さん

―入団のきっかけと、当時の苦勞―



新入生歓迎会の

応援団のステージ

を見たときにかっこ

いいと思いました。

当時幹部だった先

輩から「おいでよ」

という話で、そのまま、あれよあれよという間に(笑)、チアリーディング部の第1期生として入部しておりました。

練習メニューは、ほぼ、木村コーチに決めて

いただき、ダンスの振り付けなども、当時

はコーチがやってくださったので、私たちは

踊る楽しさをひたすら教えてもらいました。

一方で合宿や文化祭の前などには、バシバシと応援団の規律をたたき込まれました。

苦勞と言えば、やっぱり、リーダー部とチ

アの亀裂、そこを埋めるのがすごく大変でした。当初は、先輩が私たちを過保護にしてくれて、自分達はその甘い蜜を吸っていました。でも、次の代は、私たちのマインドを変えたいと、ずっと思っていたんですね。あとは女子が入ってきて、「応援団なのに、なんであんなキャピキャピしてんだ」というところもあったのかなど。そのうち、中部員のリーダー部の子たちが、すれ違っても挨拶しないということがあって、「その態度って、どうなんだろう」というようなことなど、どんどん、溝が深まってしまいました。結局、最後はOBの先輩に仲裁に入っていたので、そこで何となく距離を縮めていって和解しような、話し合いの場がありました。話し合いの場でお互いの誤解が解けて、「じゃあ、うまくやっっていきましょうよ」と。

―後輩へのメッセージ―

社会に出て「高校時代は応援団でした」と言うのと、「ええ？」と驚かれます。ただ、その「ええ？」が否定的なものではなく、「あ、君、すごいね」ということなんです。世間的に見たらまだバンカラなイメージですが、応援団といってもチアリーディング部には華やかさも有り、応援団の花形としての自覚を持って楽しく活動していました。

ただ、すごくネガティブに言ってしまうと、応援団って異質な集団だったな(笑)。でもその中でチームワークや統率、秩序というものを、あんなに若いうちから叩き込まれる集団は、世間のどこを見てもないと思います。良い経験だったなと思っています。





ここでの経験は、他の人は絶対にしていなくて、社会人になって改めて振り返ると、大変だったからこそ大部分の思い出が残っています。必要じゃない記憶やつまらないことはどんどん忘れてしまいますが、今お話しをしていて、そのほとんどが自分の記憶に残っていることがとても大事な経験をしたという証明かなと思います。辛いことがあっても、本当に全力でやりきること、最後にはきちんと胸を張って、「私はやり切りましたよ」という、自分の財産になるので是非頑張ってください。

♥ 第2代チア・東儀沙弥さん

―入団のきっかけ、そして幹部として―



部活はダンス部を考えていたので、全く応援団は興味がなかったんです。新入生歓迎ステージで、そのときにあまりチアは見えていなくて、学ランの先輩がかっこいいなと思って、ただそれだけで入りました(笑)。苦労したのは、やっぱり次年度幹部の役職決めが大変だったことです。高IIにリーダー部がない、女の子しかない中で誰を団長にするのか、次のリーダー部を1年早く幹部に就けるのかなど、本当にいろいろなことを話して。結果的には、高IIチアリーダー部部の押田が団長という形で決まったのですけれども、そこに至るまでが個人的にも、精神的にも辛かったです。同期の団長も一緒に悩んでいました。

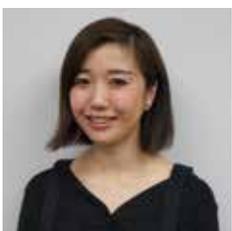
―後輩へのメッセージ―

大学でも入ってしまったのですけれども、やっぱり応援団は本当に変わった団体だなという、今もその思いは変わりません。卒団して、社会人になって、応援団でしてきたことは何一つ無駄にはなっていないのですが、今、現役団員を見ると「若いうちからあそこまでやるか」「先輩にそこまで必死に挨拶するか」などと思いつつも、「ああ、自分もやってたんだな」と、とても懐かしい気持ちになります。

やっぱり応援団でやってきた経験は、本当に私の中で宝物になっています。社会人になると、応援団の頃よりも辛いこととかもあるんですけど、それを時折思い出して、「いや、まだまだやれるだろ、自分!」みたいな感じで頑張ることがあります。きっと今、中学生、高校生の年齢で経験する辛いことや、年齢以上に大変なことも応援団ではいっぱい学ぶと思います。でも、くじけてはみんなでやりきったときに、あの頃やっていてよかったな、本当にいい思い出になったなど、そういう気持ちに絶対なれると思うので、みんな協力して頑張ってください。

♥ 初代コーチ・木村有希さん

―コーチの依頼を受けて―



コーチの依頼は吉田耕太郎先輩(監督)に言われたと思います。初めてだったので、素敵な機会を与えてくだ

さり、とてもうれしかったです。最初はダンスの楽しさと、「応援団とは?」から、応援団の規律まで、そういうものを両立して教えるのが結構大変でした。1年でこんなにも成長するのだと実感できたことが、とても印象に残っています。卒業して、1年後の「紫紺の下に」を見に行った際に、たくさん部員がいて、ダンスにもキレが出ていて、「あ、すごい成長したな」と思いました。普通の大学生にはできない経験をたくさんできたので、本当にコーチをやったよかったです。

―現役団員に一言―

そうですね、たくさん楽しいこともあったけれども、結構辛いこともあった上での楽しいことだったので、くじけそうになっても最後まであきらめないで、頑張ってくださいと思います。その頑張った先には、同期の絆とか、かけがえのないものが得られると思うので、「頑張ってください」と伝えたいです。



「ザ・ノンフィクション」

なぜ、応援指導班を追い続けたのか！
番組プロデューサー前田治行氏に聞いた。



前田 治行氏(昭和44年卒)
貿易会社勤務を経て、ドラマ脚本の執筆に従事。その後、ドキュメンタリー制作に携わり、NHKなどで数々の作品をプロデュース。平成15年から平成29年までザ・ノンフィクションの制作にあたる。現在もドラマ脚本などの執筆活動等を継続されている。

「番組を制作されるに至った経緯を教えてください。」

当時、テレビ番組の制作会社でプロデューサーをしていた。制作会社のプロデューサーだから何か提案しなくてはならず、何か題材を考えていた時に、昔、自分が所属していた応援団を取り上げたらどうかと思いついた。少々極端かもしれないが、今、疑問視されている教育の中において、一石を投じるような物を、という意味で企画書を書いた。それが2003年の9月頃。撮影開始は10月を予定していて、当初はその年に入学した、まだ幼さの残る中学1年生を取材するつもりだった。ただ、実際、取材に行ってみると、その年に入学した中学1年生(加藤君、岸君)が、夏合宿が過ぎて、ちょっと大人びた顔つきになってしまっていた。しかたなく、誰が入ってくるかわからない状態で、翌年の4月まで待つことにした。そして入ってきたのが高島君と岡田

君。まさにジャイアンとのび太のようで面白くって、キャラクターとしてはとっても良かった。そこから撮影がスタートした。

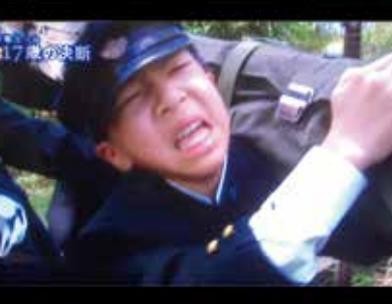
「番組を放映しての反響はいかがだったのでしょうか？」

1回目の放映をした後に応援団のOB会があって、何人かの先輩からは「何であんなの放映したんだ。これから応援団に入ってから来なくなるだろ」とお叱りを受けた。ただ、嘘を描いている訳ではないし、実際にやっている事を撮っているのだと話しをした。もちろん、同期の吉田(耕太郎、現総明会会長)が監督を務めていなければ、撮らせてももらえないし、彼(吉田氏)の中でも逡巡があったと思うけれど、同期の自分の頼みでもあって撮らせてくれた。その結果が大反響に繋がった。

社会的な反響も大きかった。内館牧子さんや林真理子さんが、雑誌なんかで取り上げてくれたりして、本当に多くの人がこの番組の事を知ってくれた。

「撮影で特に苦労された点を教えてください。」

1年間に30回ぐらいは学校に取材に行っただんじやないかな。合宿は春も夏も全部行ったし。共学になってからはカメラマンを2人連れて。その中で一番大変だったのは家庭を取材させてもらうこと。やっぱり家庭の姿は映さない訳にはいかないと思っていたけど、交渉して何とか了解してもらった。





—この番組は生徒の成長譚にもなっていますが、はじめから成長を追う企画であったのでしょうか？

もちろん、ドキュメンタリーだから追っていくつもりだった。長く追ってれば色々なものが出てくるし、追ってくるもの、訴えるものが出てくる。だからこの作品が評価されたんだと思う。ただ、取材している側としては辛かった。

—全体を通じて、前半と後半、特に後半は共学化—チアリーディング部が加わる構成となっていますが、もともとテーマを設定されていたのでしょうか？

もちろん、共学化は絶対にテーマとして取り上げなくてはならないと思っていました。山田先生とも頻りにコンタクトを取っていたから、「共学になったらチアリーダーを作るのか？」と聞いたたら、「俺は作るよ」と答えてくれた。

—そうして、最初から取り上げていた高島君、岡田君が高校2年の時に共学になって、春山さんたち女子がチアリーダーとして入ってきた。男だけの中でやってきた彼らは戸惑うわけですよ。中学から応援団として学んできた事とか、理不尽な事が通じなくなる。その中で軋轢が生まれたりもする。それを描こうと思った。

—今後この企画を継続する具体的な話はありませんか？

去年、高松君が卒業してすべて終わりにした。この先の予定はない。

—番組を見て応援団、チアリーダーに憧れて入ってきた生徒もいるのではないですか。そういう面ではかなり学校をアピールできた、貢献しているのではないですか？

実際、明治大学の知名度を上げることにかなり貢献していると思う(笑)。僕らが描いたのは明大明治だけど、結局は明治大学の付属なんだから。大学から表彰してもらいたいぐらいだよ(笑)。

—最後に、この番組を作るうえで伝えたかったことを教えてください。

縁の下の力持ちというか、応援団というのは人のために応援する。ネットでは「何でもこいつらこんな事してるんだ。(応援ではなく)自分達のためにやればいいじゃないか」とか、たくさん書かれたりもした。だけどやっぱり、今このご時世、他人のためにシヤカリキになって応援するってことがないじゃない。その素晴らしさを伝えたかった。極端だ、理不尽とか言われる中で、子供たちが耐えて、それこそ泣きながらも頑張るっていうのが素晴らしいじゃないですか。そういう事が伝えたかった。結果的にはその通りになったと思うている。



「花の中学生応援団 泣いて笑った成長物語」
著者：村井 明日香 (番組ディレクター)
出版社：朝日新聞出版
2013年3月12日発行





商品満載大空間!! へら鮒釣り用“へら竿”の超専門店!!

(有)へら竿のときわ

平成二年卒業明愛会 山中洋人

〒270-0115 千葉県流山市江戸川台西1-24-1-2F
 TEL: 04-7152-4900
 URL: <http://www.e-tokiwa.co.jp/>

- 営業時間** 平日10時～20時（日曜、祝日の営業日は10時～18時）
- 定休日** 毎週木曜日、第二、第四、第五水曜日、第一、第三日曜日
- アクセス** 東武アーバンパークライン江戸川台駅西口より徒歩3分

同窓会旗・部旗・横断幕
作成しませんか？



創業明治41年 信頼の 株式会社 トマック

〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-7-1 電話：03-3862-7351 FAX：03-3863-2319
[www://tanakahataten.co.jp](http://tanakahataten.co.jp) (HPよりカタログダウンロード出来ます) mail:info@tanakahataten.co.jp
 ★総明会会報誌を見たとお伝えください。特別サービスあり!★ (平成2年卒 小山和久扱い)

おかげさまで 81周年。

これからもライテックは、多様化していく
ものづくりとマーケットをそれぞれに追求し、
提供し続ける創造企業を目指します。

<http://www.lightec-inc.jp/>



つくる

『CREATIVE PRODUCTS / 創る、そして作る』

つなぐ

『CONNECTING MARKET / 市場をつなぐ』

つづく

『CONTINUE NETWORKING / 続くネットワーキング』

・・・3つのCで始まるキーワードの連鎖が、ライテックの目指す創造的企業の礎であると考えます。

R@Solution

クライアントと現場をつなぐ 新しいスタイルの現場監理をご提案

建築、内装、設備、IT、家具、引越作業等各
方面のプロフェッショナル達が集い、オフィス
や店舗の移転、改修、構築工事を専門とする
現場監理、プロジェクトマネジメント業務、各
種調査、製図作業、引越作業、家具・什器組
立施工作業を行う会社です。

株式会社アールソリューション
代表取締役 長坂 純司(平成2年卒業)
東京都豊島区東池袋1-34-5 いちご東池袋ビル5階
TEL 03-5985-8961 / FAX:03-5985-8961
<http://www.rsolution.co.jp/>



R@S

特集 1

『ONE MEIJI ～明治はひとつ～』を繋げる“学校”

- 1 安部友巳先生 27年目の特別授業
- 5 応援団結成70周年・チアリーディング部創部10周年
- 20 あなたの時はどうだった？「過程」解体新書
- 26 先生の創った「過程」？ もうひとつの「男坂」

特集 2

卒業生・在校生が繋げる『ONE MEIJI ～明治はひとつ～』

- 28 現役生徒に訊く！「未来の自分へ」
- 31 明治愛 それぞれのカ・タ・チ
- 34 平成16年卒・羽田圭介氏 特別寄稿
- 36 明治高校OBが明治大学国際日本学部長に就任！
鈴木賢志学部長インタビュー
- 39 公認会計士試験に卒業生10名が現役合格！
付属高ならではの強みと大学との関係性



- 14 第54回総明会総会・懇親会のご案内
- 18 総明会会長・校長挨拶
- 48 平成30年度 学校報告
- 58 OB・OG活動報告
- 92 平成30年度 総明会活動報告
- 99 前年度・次年度・本年度 幹事学年挨拶
- 101 第54回総明会 御寄付者一覧
- 102 総明会会則
- 105 編集後記

今年度幹事学年テーマ

「ONE MEIJI ～明治はひとつ～」について

明治大学付属明治高等学校・中学校の100年を超える長きにわたる歴史。それにより輩出された多士済々のOB・OG。1人の卒業生として、これ程、誇らしいことはありません。一方で、それに伴い、総明会会員の間においても多様な価値観が生まれてくることは当然であり、やむを得ないことと言えるでしょう。

その様な中で、今年、私たち幹事学年がテーマとして掲げる「ONE MEIJI ～明治はひとつ～」は、過去・現在・未来、さらには性別、世代、場所を越えて、全ての会員が「ひとつの明治」として結びつき合おうではないかということを提案するものです。

そこには、もし日頃の立場、意見などで異なることがあったとしても、同じ「明治」ということで、何かしら理解出来る部分がある筈に違いないという考えも込められています。

大切なのは、無理やり“束ねる”ということではなく、“多様性を認め合えること”ではないでしょうか。

この1冊および11月25日(日)に開催されます総明会総会・懇親会から、その様な私たちの思いを受け取っていただければ幸いです。

明治大学付属
明治高等学校・中学校 校長
安藏 伸治
(明治大学政治経済学部教授)

明治大学長
土屋 恵一郎

学校法人明治大学
理事長
柳谷 孝

第53回 総明会 懇親会

～世代をこえる明治愛～



『ONE MEIJI ～明治はひとつ～』



第54回『総明会』総会・懇親会のご案内

平成30年11月25日(日)

ハイアットリージェンシー 東京

日時：平成30年11月25日(日)

特別講演会 14:00～

総会 16:00～

懇親会 17:00～(受付開始 16:30～)

場所：ハイアット リージェンシー 東京 B1F

〒160-0023 東京都新宿区西新宿2-7-2

TEL.03-3348-1234(代表)

<http://www.tokyo.regency.hyatt.jp/>

※都営大江戸線「都庁前」駅直結



幹事学年からの挨拶

仲秋の候、明治大学附属明治高等学校・中学校卒業生の皆様におかれましては益々清祥のこととお慶び申し上げます。

早いもので本年の総会・懇親会をご案内させていただき季節となりました。

今年、第54回の総会・懇親会は私たち平成3年卒業「明仁会」が幹事学年を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

『ONE MEIJI ～明治はひとつ～』

母校も創立100年を越えて、明治高校・中学校を卒業されて全国はもとより世界で活躍されている諸先輩方が多数いらっしゃるのと同時に、これからの時代を担う後輩達も数多く輩出する名門校となっております。名実ともに「撞くや時代の暁の鐘」を実践しているのではないのでしょうか！

過去・現在・未来、そして性別・世代・場所をもこえて全ての会員が「ひとつの明治」として結びつき合おうという思いで今

年のテーマとさせていただきます。

明治大学附属明治高等学校・中学校のゆかりある方々はどなたでもご参加いただけます。型通りや流行りの同窓会ではなく、一人ひとり、そして明治の魅力を惹きたてる私たちがなりの「ONE MEIJI ～明治はひとつ～」をご提案させていただきます。現役学生からご年配の先輩方、男女関係なくどなたでもお気軽にご参加いただき、世代をこえた次の世代へとつながる同窓会を目指しています。

今年も総会・懇親会の会場を皆さまが通い慣れた新宿の「ハイアット リージェンシー 東京」にいたしました。今年は、例年に増して特別講演会や全体記念撮影など企画も盛りだくさん。もちろん、おいしいお食事やお酒も揃えてお待ちしております。「ONE MEIJI ～明治はひとつ～」です。校歌を歌って大いに盛り上がりましょう。

先輩後輩・同窓の仲間、そしてご家族の皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。

総明会 総会・懇親会企画

SPECIAL LIVE 2018 SOUMEIKAI

明治大学が誇る二大アイドルが総明会に集結!

Copia × めいじろう

共に踊れ! 友と踊れ! ~ ONE MEIJI ~

平成最後の総明会! 新時代の到来を前に、今年へのステージには昭和~平成アイドルの名曲が溢れます!

老若男女、ヒトからフクロウまで・・・

ひとつになってノリ上がりましょう!! Viva! 『ONE MEIJI』



特別講演会 明治大学OBの 本田直之×野尻佳孝が 再び明治に帰ってきた!



株式会社テイクアンドキヴ・
ニーズ
代表取締役会長 野尻佳孝
明治大学政治経済学部卒業



レバレッジコンサルティング
株式会社
代表取締役 本田直之
明治大学商学部産業経営学科卒業

人生に迷える若人よ、集え!!
ここに答えがきっとある!!!

豊かなはずなのに日本人の幸福度はなぜ低い?
古い価値観のままでは「新しい幸せ」を掴むことはできない。時代の最先端を駆け抜ける2人が、これからの時代を生き抜くための新しい生き方・働き方、本当の“豊かさ”を語る!

■開催時間 14:00~15:30(13:30受付開始)
■会場の都合上、先着120名様までとさせていただきます。

第五十四回 総会 式次第(案)
一、開会の辞
二、会長挨拶
三、議長選出
四、書記選出
五、議事
第一号 議案 会務報告
第二号 議案 会計報告
第三号 議案 監査報告
第四号 議案 その他
六、閉会の辞

会費のご案内

今年もあります!
便利な事前納付がお得です!

今年も会費事前納付制度を実施いたします。当日のお支払いにくらべ、**1,000円割引**させていただきます。ぜひ、ご利用ください。
事前納付のお振込み先につきましては、下記をご覧ください。

	当日払い	事前納付
一般会員(昭和52年から平成18年までのご卒業)	10,000円 >	9,000円
シニア会員(昭和51年以前のご卒業)	8,000円 >	7,000円
ヤング会員(平成19年から26年までご卒業の社会人)	6,000円 >	5,000円
学生会員(大学生・大学院生)	3,000円 >	2,000円
ご同伴者(上記会員が同伴する会員以外の方)	5,000円 >	4,000円

* 就活会参加の学生は、就活会費用を含めて一律3,000円になります。

会費 事前納付振込先

11月9日(金)までに納付をお願いいたします。入金確認のため、氏名の前に卒業年を入れてください。ATMでの振込名義の変更は可能です。個人名義で同行口座間のインターネットバンキングを利用した振込は手数料無料です。

ATMご利用の場合、振込手数料や時間外手数料が発生するケースもございます。

例: 昭和年代卒業の方: 62 メイジ タロウ
平成年代卒業の方: ヘイ 11 メイジ ジロウ

ゆうちょ銀行 振替口座

記号番号: 00100-8-604194
名義: 第54回総明会総会懇親会
名義カナ: ダイゴジュウヨンカイ
ソウメイカイソウカイコンシンカイ
※他行から振込の場合は、店名: ○一九(ゼロイチキュウ)店
当座0604194をお願いします。

三井住友銀行

支店: 町屋支店(店番 648)普通預金
口座番号: 7127648
口座名義: 第54回総明会総会懇親会
名義カナ: ダイゴジュウヨンカイソウメイカイソウカイコンシンカイ

※なお、一旦納付された会費につきましては、お返しできません。予めご了承ください。当日欠席された場合も、同様にご返金できません。

貴重な浄財といたしまして、総明会活動に利用させていただきます。

※誠にお手数ながら、出欠につきましては、同封のはがきにて又は、総明会ホームページよりご連絡をお願いいたします。

なお、出席のお知らせをいただいている方でも、直前に出席可能になった方など、ご連絡をいただかなくても出席可能ですのでお気軽にお運びください。

※就活会および特別講演会にご参加いただける方は総明会ホームページからのお申込みをお願い致します。

総明会ホームページ: <http://www.meiji-soumeikai.com>



総明会は、明治高校・中学校の
OB・OGを応援します!

有名企業OB・OG紹介、
カジュアルOB訪問!

就活生のための有名企業OB・OG紹介
就職への近道は『総明会』



大好評だった『あの企画』
今年もやります!

ハイアットリージェンシー東京 B1F「白鳳」
平成30年11月25日(日) 14時30分～16時30分(受付14時00分開始)

合同OB・OG訪問会スタイルで、多業界、多業種のOB・OGの話が聞けます。
聞きにくい質問にもざっくばらんに答えてくれます。
明治高校・中学OB・OGの方で、事前登録いただければ、誰でも参加可能です。
去年は空前絶後の盛り上がりとなり、懇親会が終わるまでなんと4時間以上も!

先着
50名
限定!

- ① 就活会参加費 一律3,000円(総明会懇親会費含む)
- ② 会場の都合上、当日参加はできません。
- ③ 事前に総明会HP上の就活会参加希望登録ページにて参加登録をした方のみ参加できます。
- ④ 総明会・懇親会に出席すればさらに有名企業の先輩に質問できます! (懇親会17:00～19:30)

こんなに親身で熱い『就活会』に参加希望の方は、今すぐアクセス!

<http://www.meiji-soumeikai.com/shukatsu>



アクセスしたらフォームに登録! ※11月18日(日)締め切り

※詳細については後日メールにてご連絡を差し上げる関係上、登録するメールアドレスは
PCからもメールを受信できるメールアドレスをご登録ください。
キャンセルは可能です。meiji.someikai.soshiki@gmail.com(組織委員会)までご連絡ください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております!

副事務局長 昭和六一年卒 土田 正昭 新世輝	事務局局長 昭和五九年卒 平野 一哉 明心会	会計 昭和五〇年卒 吉武 孝生 明紫会	常務理事 昭和五〇年卒 近藤 敏彦 明紫会	専務理事 昭和五四年卒 熊倉 章雄 明誠会	副会長 昭和五一年卒 井家上哲史 明々会	副会長 昭和五〇年卒 山崎 秀樹 明紫会	会長 昭和四五年卒 吉田耕太郎 獅子の会	総明会
--	--	-------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	------------

昭和54年卒
総明会
専務理事

熊倉 章雄

明誠会

昭和51年卒
総明会
副会長

井家上哲史

明々会

昭和50年卒
総明会
副会長

山崎 秀樹

明紫会

昭和45年卒
総明会
会長

吉田耕太郎

獅子の会

昭和61年卒
総明会
副事務局長

土田 正昭

新世輝

昭和59年卒
総明会
事務局長

平野 一哉

明心会

昭和50年卒
総明会
会計

吉武 孝生

明紫会

昭和50年卒
総明会
常務理事

近藤 敏彦

明紫会

総明会 顧問

山崎 敬生

(昭和32年卒・明治会)

市原企業株式会社
代表取締役 市原市青柳2-1-23

昭和36年卒
総明会 名誉会長
明治大学校友会会長
明治大学名誉教授

向殿 政男

TEL.03-3701-1691
E-mail: masao@g03.itscom.net

総明会 顧問 総明会元会長

弁護士 **佐久間 洋一**

昭和43年卒 紫讃会

事務所 〒104-0061 東京都中央区銀座6-12-1 第2寿ビル7階
電話 03-5568-6646 ファックス 03-5568-6648
URL <http://www.sakuma-law.com/>

学校法人
明治大学

総務担当
常勤理事

大田原 健司

登録商標 ゼイタク煎餅
東京名物 重盛の人形焼

明治高校PTA顧問
明治白駿会

重盛元也

〒116-0003
荒川区南千住三十三四一四
電話 (三八〇二) 六八三〇
FAX (三八〇七) 三七三七

第54回総明会総会・懇親会

総明会顧問 (昭和41年卒・41明友会)
学校法人明治大学 評議員

尾島 育四郎

〒150-0001 渋谷区神宮前5丁目41-6

明治大学付属明治高等学校・中学校

校長

安藏 伸治



明治の絆

今年度の第54回総明会総会・懇親会は、平成3年卒業の「明仁会」が企画運営を担当、「ONE MEIJI ～明治はひとつ～」がテーマとなっています。この原稿を書いている6月5日は明治高校の球技大会が開催されています。高校のクラスごとにTシャツをデザインし、ミニサッカー、バスケットボール、そしてバレーボールの試合をみんな真剣な面持ちで1日中おこなっています。5月末の東京六大学野球応援、旅行行事そして球技大会を通して、クラスごとに団結を強め、次第にクラスが一つにまとまっていきます。そして秋の体育祭や紫紺祭でさらに友情を高め、全生徒が肩を組みながら校歌を三番まで声高らかに歌い、ONE MEIJI が出来上がっていくのです。

私は4年前の校長就任以来、「この学校では競争はしない。みんなで助け合いながら成長しなさい」と生徒達に語り掛けてきました。高校3年在籍者よりも多くの推薦枠を大学からいただき、ほとんどの生徒が第一志望の学部に進学できる高校です。中学から高校へも、一定の基準を満たせば全員が進学できます。ですからこの学校では、競争は意味がない。一人のこらず、求められる基準を満たすよう、みんなで協力し、助け合いながらより高度なレベルに達して欲しいのです。それこそが「独立自治」の精神の具現化だと思います。そうした互助の精神が、「やっぱり明治はナンバーワン」という段階に結びついていくことができると考えています。

もう一つ、ONE MEIJIの精神がもたらす大切な組織がこの学校にはあります。まず、学校を形成する生徒達と彼らを教育する教師団、そして彼らを背後から支えるPTAの存在、そしてもちろん、強力な支援組織としての総明会です。また、今年創設50周年を迎えたPTAの同窓会である白駿会も存在しています。本校に関わる人々を結びつける紐帯としての役割をなすものが、「母校愛」、「明治愛」、「友情」、「仲間意識」等々といったもの、つまり言い換えれば「ONE MEIJI ～明治はひとつ～」ということではないでしょうか。公立中学・高校や他の私立学校と比較しても、本校に関わる愛情は格別のものがあります。いつまでも幾久しく、「明治」の絆を大切に仲良く生きていって欲しいと思います。

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会

総明会会長

吉田 耕太郎

「ONE MEIJI ～明治はひとつ～」
班クラブのOB・OGに思う事

日頃は総明会活動にご理解ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。さて、本年の幹事学年テーマは「ONE MEIJI ～明治はひとつ～」です。明治大学校友会会長である向殿名誉会長も「明治はひとつ」を掲げており、ここに総明会も一致したテーマでこの一年活動して参りました。

しかし、「明治はひとつ」はとても範囲が広く、母校・現役生徒と総明会は勿論、恩師・大学生・職員の皆様・父母・白駿会・大学・校友会に加え、地域連携・大学高校連携・国際交流等の学内にある組織を加えると膨大な範囲になります。明治を愛する人々という事であり、有難いことであります。

ところで、総明会活動の目的の一つに「会員の結束と親睦」があります。総明会は各学年同期会の結束と、「各班クラブOB・OG会」の結束の両方の充実を目指したいと思っております。これらの充実が、総明会のもう一つの目的である「母校への賛助」にも繋がります。

学業が専らであることは当然ですが、私たちの学生時代でも同じように、紫紺祭(文化祭)、体育祭、卒業式等の学内の行事に目が向き、対外的には余裕がありませんでした。今でも大方の生徒たちが同じだと思います。その中で、OB・OGとの触れ合いにより、明高気質や校風をより強く学んでいたのではないのでしょうか。私も「質実剛健」「独立自治」の校風に加え、「勇往邁進」「愛と正義(誠)」も大事な気質だと教わりましたのもOB先輩方からでした。どうしても、学生時代(現役時代)の自分と重ね合わせて、現在の生徒たちとの比較をしてしまいがちです。我々は自分たちの時代を良き時代と思うのですが、それを押し付けることなく、「もう一歩前へ」の精神で明治高校を見守り続ける勇気も必要でしょう。

そのように、各班クラブのOB・OGの方々の積極的なご協力をお願い致します。しかしながら、いまだOB・OG会が未組織の班クラブがある事は残念なことです。そのような各班クラブには、総明会としても積極的に協力していく所存です。そのためにも、小回りの利く組織にすべく、執行運営組織の見直しを進めております。また、財政は「入るを量り出ざるを為す」の気持ちで務めておりますが、どうしても支出増大の傾向にある事は否めません。今後とも緊縮財政に努めますが、将来への備えも必要と判断しております。皆様のご協力をお願いするものであります。それでは、総会・懇親会で皆様にお会いすることを楽しみにしております。



魅せろ! 明治魂 私達は明治高校を応援しています!

玉田 英明 昭和53年卒
 石川 恵資 昭和58年卒
 高橋 浩 昭和58年卒
 服部 裕之 昭和59年卒
 廣田 晃一 昭和59年卒
 増岡 寿 昭和60年卒
 松尾 智己 昭和60年卒
 松嶋 俊行 昭和61年卒
 菅 和禎 昭和63年卒
 山本 幸一 平成 2 年卒
 滝 晋敏 平成 4 年卒
 寺土 博昭 平成 4 年卒

阿部康一郎 平成 5 年卒
 高橋 建太 平成 5 年卒
 木村 允 平成 8 年卒
 佐藤 潤 平成 9 年卒
 林 泰三 平成12年卒
 角 祐二郎 平成13年卒
 鈴木 亮輔 平成13年卒
 寺田 雄太 平成13年卒
 瓜生 泰三 平成14年卒
 土方 博史 平成14年卒
 密岡 祐樹 平成14年卒
 高井 洋 平成15年卒

川原 健 平成17年卒
 小堀 良樹 平成17年卒
 山本 康太 平成19年卒
 櫻井 亮 平成20年卒
 平野 慎 平成21年卒
 田中 拓樹 平成23年卒
 松本 直子 平成25年卒
 三苫 美鈴 平成25年卒

明治高校卒明治大学職員有志一同



MEIJI
UNIVERSITY

明治大学

駿台会計人倶楽部

会長 岩田俊一 (昭和49年卒 翼明会)

tiwata@silver.plala.or.jp

〒113-0034 東京都文京区湯島4丁目6番11号
 湯島ハイタウン A棟502号

TEL 03-3815-1272 (代)
 FAX 03-3815-1404

プルデンシャル生命は世界最大級の金融サービス機関
 プルデンシャル・ファイナンシャルの一員です

プルデンシャル生命は1987年10月に設立されました。
 1875年米国で創業、135年以上の歴史を誇るプルデンシャル・
 ファイナンシャルグループの一員として「人間愛・家族愛」の基本
 理念を受け継ぎ、生命保険の専門家であるライフプランナー®が
 オーダーメイドの生命保険をお届けするという事にこだわって
 まいりました。

※「ライフプランナー」はザ・プルデンシャル・インシュアランス・
 カンパニー・オブ・アメリカの登録商標です。



プルデンシャル生命保険
<http://www.prudential.co.jp>

本社所在地 : 東京都千代田区永田町2 - 13 - 10



首都圏第一支社 支社長 深谷 剣 (S62年卒)
 横浜西支社 ライフプランナー 光岡 孝之 (S63年卒)
 首都圏第一支社 ライフプランナー 川口 貴之 (H元年卒)
 汐留支社 ライフプランナー 高山 剛 (H2年卒)
 汐留支社 営業所長 富樫 展広 (H4年卒)
 本社 営業教育開発チーム 八巻 隆洋 (H10年卒)
 汐留支社 ライフプランナー 平井 隆太 (H19年卒)
 品川第一支社 ライフプランナー 万善 雄人 (H21年卒)

「あなた」の時はどうだった？ 「過程」解体新書

高校Ⅲ年生が主体となって作成される「過程」。きっと皆さんの記憶の片隅に残っているはず。皆さんの記憶の片隅に残っているはずです。押入れの中を探せば、在学中に配布された数冊の過程が出てくるかもしれません。今回、過去66回に渡って発刊されてきた過程の表紙と、それぞれの号での内容について、一挙にまとめて紹介いたします。皆様の在学時はどうだったか。最近の過程は、どんな風になっているのか、色々な思いを馳せていただければと思います。

「過程」とは？

明治高校Ⅲ年生が編集委員となって作成する「卒業文集」です。

「名前の由来」

1号にも記載されていますが、「1年間の過程を載せる本なので、過程に」ということで、過程という名前になったとのこと。ここまで名称変更することなく、現在に至っています。

「構成」

校長先生による巻頭言に始まり、修学旅行や体育祭等の写真(グラビア)が決まったページで、それ以外は、各種の特集が組まれています。この特集が、その時代を反映した特色あるものとなっています。各号の表紙と共に、主な特集内容をまとめてみました。

昭和30年代



第5号 昭和31年度
掲載内容：秋季祭典回顧／高I詩集／写真頁(母校新旧)



第4号 昭和30年度
掲載内容：秋の祭典／座談会／明高生を解剖する／明高明中今昔物語／中学生から見た高校生



第3号 昭和29年度
掲載内容：私達の問題／推試旋風／東北俳句紀行／生徒会雑感／図書批評



第2号 昭和28年度
掲載内容：座談会／現在学生之言／八恩師プロフィール／運動部の声を聞く

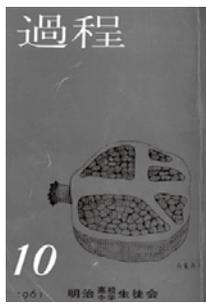


第1号 昭和27年度
掲載内容：俳句／生徒会今昔／自由詩集／作文集／運動部

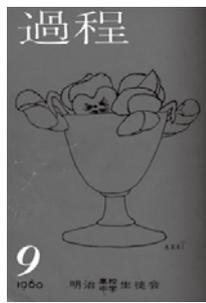
昭和30年代



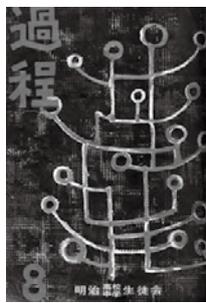
第11号 昭和37年度
掲載内容：特別教室案内／兄弟校中野校訪問／座談会「先輩今日は」／明高生をどう思う／卒業生人物寸描



第10号 昭和36年度
掲載内容：過程十周年に寄せて／歴代会長座談会／過程一号～十号まで／友好座談会「高校生はどうあるべきか」／卒業生名簿及び寸描、後輩に送る言葉



第9号 昭和35年度
掲載内容：関西行脚／座談会「附属校の正体を掴む」／卒業生の真／アンケート「声なき声を探る」／卒業生名簿及び寸描、後輩に送る言葉



第8号 昭和34年度
掲載内容：学校祭を顧みて／中学・高校作文／34年度活動総まとめ／卒業生住所及び人物寸描



第7号 昭和33年度
掲載内容：生徒会誕生10周年記念／臨海学校の思い出／甲子園大会／卒業生名簿及び人物寸描



第6号 昭和32年度
掲載内容：学校祭を顧みて／旅行のしおり／林間学校日記／故岡先生哀悼集

■表紙の変遷

全66号の過程の表紙を並べてみました。最初は絵画風なものが一般的でしたが、年を重ねる毎に、写真あり、イラストあり、文字だけのシンプルなものもあり、とバラエティに富んでいます。その年の「顔」とも呼べるものであり、作成年のカラーがよく表れているものと言えます。ちなみに、41号の表紙は、白紙に見えますが、実際には表紙に凹凸があつて、「過程」と記載されています。

■サイズ

総明会会報は、昨年度よりサイズがA4となり、大きな変化がありました。過程は1号から一貫してA5サイズです。初期の頃に比べると、文字のサイズは大きくなったようですが、それでも文字は小さめです。以前は、何も感じなかったのですが、見にくくなったのは筆者が歳を取ったせいでしょうか。

■ページ数

1号が150ページ弱で始まり、その後は150ページから200ページの間で推移してきました。が、近年では、300ページを超える号も出ています。56号では、400ページに迫るボリュームとなっています。このページ数増加は、写真がふんだんに使われるようになったことに起因しています。

■過程における先生

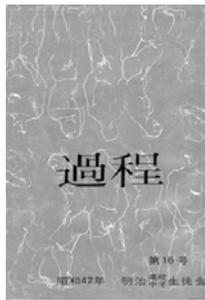
過程において、先生は欠かせない存在

「過程」解体新書

昭和40年代



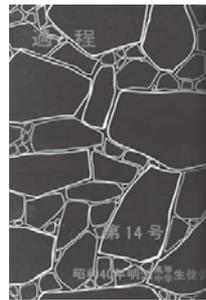
第17号 昭和43年度
掲載内容：体育祭に思う／文化祭に思う／明治中学高等学校の歩み／アメリカ大陸ひとりぼっち／高Ⅲ最後にも申す



第16号 昭和42年度
掲載内容：体育祭を顧みて／文化祭こぼれ話／福島先生校長にご就任／おうちのH・R／にくまれっこ／教養講座／高Ⅲ寸描

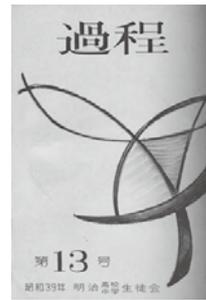


第15号 昭和41年度
掲載内容：他校訪問記(三輪田、東洋英和編)／先輩を訪ねて／マイク片手＝明高付近の人に聞く＝イタイホウダイ／高Ⅲ人物寸描



第14号 昭和40年度
掲載内容：明治高校野球部甲子園に出場す!／他校訪問記(山脇、立教編)／座談会「高校生活と座談会活動について」／生徒からみた授業内容／高Ⅲ人物寸描

昭和30年代



第13号 昭和39年度
掲載内容：良田元校長を訪ねて／高校座談会／中学座談会／他校訪問記／高Ⅲ人物寸描



第12号 昭和38年度
掲載内容：ある落第生の手記／猿楽町界隈の思い出／訪問記／愚問愚答(教職員名簿)／卒業生人物寸描



10号より

9号より

《座談会特集》

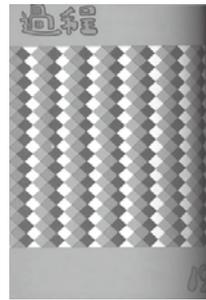
初期の過程は、文芸、作文、論文、俳句など生徒の手によって作成されたものがほとんどであり、“文集”的な位置づけでした。そのような中で目立った特集として、他校の生徒も交えた座談会があります。いくつかピックアップしますと、7号で「現代高校生を解剖する」、9号で「附属校の正体を掴む」、10号で「高校生はどうあるべきか」というテーマで他校の生徒を交えた座談会が収録されています。テーマだけ見ると、かなり大上段で堅い内容に思えますが、「授業中にお弁当を食べるのはスリル満点」などお茶目な発言があったり、「授業がうるさくなるのは先生にも責任」と思い切った発言があったりと、かなり自由闊達な内容となっています。

また、座談会だけでなく、他校を招いたり、訪問したりして対談を行う特集も初期過程の頃から散見されます。他校との交流が盛んであったことも一つの特徴です。

昭和40年代



第20号 昭和46年度
掲載内容：20号記念特集 生徒特集／明高生奮戦記／岡田安弘君をしのんで／高Ⅲ最後にも申す

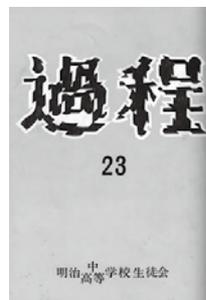


第19号 昭和45年度
掲載内容：紫紺祭を顧みて／体育祭を顧みて／H・Rに思う／明中高諸君に与える言葉／高Ⅲ最後にも申す



第18号 昭和44年度
掲載内容：紫紺祭を顧みて／体育祭を顧みて／明高・明中を考える／高校古典と古川柳／高Ⅲ最後にも申す

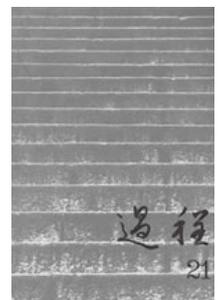
昭和40年代



第23号 昭和49年度
掲載内容：南志賀学寮と明高生／私の明治走馬燈／続「我が半生」／街頭インタビュー／野球座談会／高Ⅲ最後にも申す



第22号 昭和48年度
掲載内容：新校舎建設について旧校舎への思い出／必須クラブ／生徒作品／高Ⅲ最後にも申す



第21号 昭和47年度
掲載内容：OB訪問／研究発表／特集高校生アンケート調査／街頭インタビュー／座談会／高Ⅲ最後にも申す

■羽田圭介氏

今回の会報で、書き下ろしエッセイを寄稿いただいた羽田圭介氏ですが、過程では過去2回特集が組まれています。2回目は、芥川賞を受賞された後の64号で、過程の表紙まで飾っています。卒

その中でも印象に残った先生の一言が、生徒指導についての方針で、「赤信号、全員で渡っても轢き殺す」でした。自身が生徒だった時にも耳にした記憶があり、懐かしさがこみ上げてきました。特別授業でも、お変わりない姿を拝見でき、感激でした。

■安部先生

今回の会報で、「特別授業」を実施していただいた安部先生は、53号で、生徒との対談の特集を行ってられます。校則、生徒指導、生徒会活動、校舎移転、男女共学化等のテーマで、安部先生節を響かされています。

です。過程の冒頭の巻頭言は、校長先生のお言葉となっています。それでも、初期の頃の過程では、特定の先生を取り上げるような特集はありませんでした。それが巻数を重ねるうちに、特集で特定の先生のインタビューを行ったり、クラス紹介で担任の先生を面白おかしく紹介したり、あげくの果てに先生のお宅訪問までして、家族の方まで巻き込んでも紹介するような特集も行われるようになりました。先生と生徒の距離が近づいていった事が感じられます。

昭和50年代



第29号 昭和55年度
掲載内容：生徒会比较／座談会 明中高生生徒会について／第一期生活上週間結果報告／過程文学賞発表／高Ⅲ最後にもの申す



第28号 昭和54年度
掲載内容：What is Meiji?／アンケート結果発表／座談会／オーストラリアの高校生／文芸(過程文学賞発表)／高Ⅲ最後にもの申す



第27号 昭和53年度
掲載内容：見つめ直そう生徒会／明治特派員報告／新校長インタビュー／非行／高Ⅲ最後にもの申す



第26号 昭和52年度
掲載内容：体育祭考／文化祭雑記／大学進学を考える／校舎の外の明中高生／海外旅行記／街頭インタビュー／高Ⅲ最後にもの申す

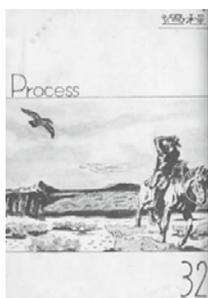


第25号 昭和51年度
掲載内容：先生の趣味／海外渡航記／文学部・座談会「文化委員長を困らせて大いに語る」／高Ⅲ最後にもの申す

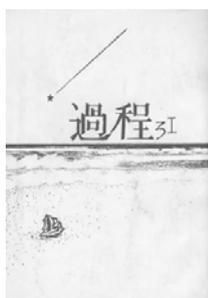


第24号 昭和50年度
掲載内容：中学生座談会／旧校舎・新校舎／高校生討論会「諸君!」／高Ⅲ最後にもの申す

昭和50年代



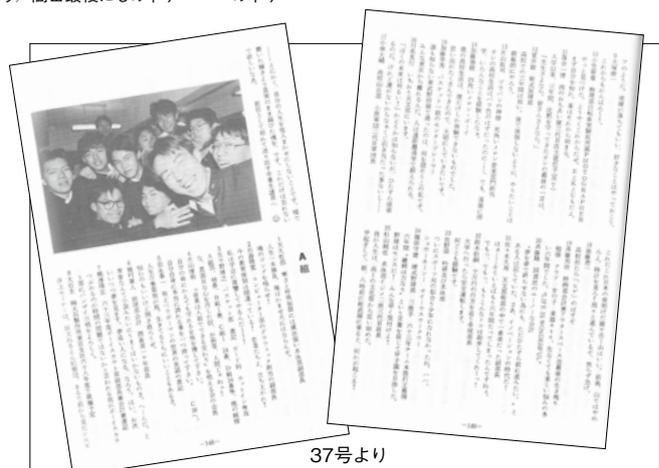
第32号 昭和58年度
掲載内容：明高の過去・現在・未来／海外旅行記／我が半生(完結編)／高Ⅲ最後にもの申す



第31号 昭和57年度
掲載内容：文化祭徹底研究／新旧生徒会／明高いろは／生活上委員会白書／高Ⅲ最後にもの申す



第30号 昭和56年度
掲載内容：文化祭物語／嗚呼!!体育祭／過程三十周年の歩み／特別座談会「明治高校生気質」／続々「我が半生」／高Ⅲ最後にもの申す



37号より

《名物特集① 高Ⅲ最後にもの申す》

17号から37号まで、21回続いた特集です。(7号から16号までは、「人物寸評」という名前で前身の特集がありました。なので正確には31回と言えるかもしれません)卒業生である高校Ⅲ年生が、卒業にあたっての思いを一言ずつ述べていく、という全員参加型の特集でした。至ってシンプルですが、卒業生全員が参加できる、というところに魅力がありました。

筆者も在校生時には面白く読んでおり、楽しみにしていたのですが、自身が卒業生となる前年にこの特集はなくなってしまい、残念な思いをした記憶があります。

ちなみに、いつの日か、またこの特集が復活するのかもしれません。この特集でもの申された皆様、ご自身の一言は覚えていらっしゃいますか?

昭和60年代



第35号 昭和61年度
掲載内容：文化部研究発表／他校対談「特集「学校」いわゆる校則」／高Ⅲ最後にもの申す



第34号 昭和60年度
掲載内容：校内意識調査／訪問インタビュー／御茶ノ水マップ／女子校アンケート／鳥さん直撃インタビュー／高Ⅲ最後にもの申す

昭和50年代



第33号 昭和59年度
掲載内容：ゴキブリ明高生／生徒指導より／女子校アンケート／売店のお姉さんに直撃インタビュー／高Ⅲ最後にもの申す

■過去の過程まとめ

10号、20号、30号、40号、60号と節目の号で過去の過程が特集としてまとめられています。初期のまとめでは、取り上げる対象号数が少なかったこともあり、1号ずつの振り返りとなりました。過程の号数も増え、60号では対象を絞った紹介でした。

ちなみに、平成14年(2002年)に明紫会が制作した、総明会の会報でも「過程」を特集しています。総明会ホームページで閲覧可能です。

今回、過程のまとめを行い、66号分の



64号より



52号より

業生の快挙として、大きなインパクトがありました。そして、1回目に特集として掲載されたのは、在校生として文芸賞を受賞した際の52号でした。さすがに、初々しさがあります。どちらの号でも、インタビュー形式での記事で、64号では、52号での自身の記事を見返して、苦笑いされているところが印象的でした。

「過程」解体新書

平成元年代



第41号 平成4年度
掲載内容：訪問 神田女学園 / 個性派教師と対談 / いまを駆け抜けた男たち / ありがとう島さん / 先輩インタビュー



第40号 平成3年度
掲載内容：「過程」の過程 / 明高生91年度最後に物申される / 自主評価つき支部紹介 / ア・メイジ・インゴ・ストーリー



第39号 平成2年度
掲載内容：心理テスト / アメリカン・スクール訪問 / 「明治再考」 / 御茶ノ水マップ / 完結編 / 生徒による先生宅訪問 / 時事問題 / 生徒による先生宅訪問 / 時事問題



第38号 平成元年度
掲載内容：特集「探求」 / 生徒会の昭和史 / 小特集「危険なもの」 / 明治を支える男・島さんと語る



第37号 昭和63年度
掲載内容：「青春マニュアル」俺たちはどう生きるのか / 生徒による逆家庭訪問 / 御茶ノ水マップ最新版 / 高III最後にも申す



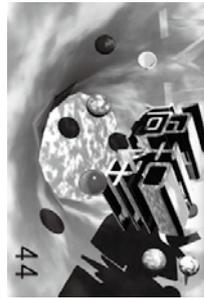
第36号 昭和62年度
掲載内容：特集「付属」-先生アンケート・OBアンケート・附属の現状と課題 / 小特集「女子校アンケート」 / 高III最後にも申す



《先生の似顔絵》

名物特集として紹介した「高III最後にも申す」では、冒頭ページに担任の先生の似顔絵を掲載するのが恒例でした(24号～37号)。どれも思わず見入ってしまうものですが、いくつかの表紙を紹介します。ちなみに、29号のイラストは、「3×3 EYES」等の作品を手がけられた、本校卒業生である高田 裕三氏によるものです。

平成元年代



第44号 平成7年度
掲載内容：鞆改正の過程 / サッカー部設立の過程 / 先生対談 / 生徒の趣味

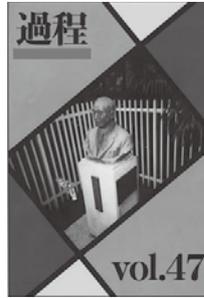


第43号 平成6年度
掲載内容：再考生徒会 / 検証古きよき時代 / 探求 I, II, III / いまこそ起て明校生



第42号 平成5年度
掲載内容：あぁ甲子園～追跡野球部～ / MEIJI 21 / 大学生対談 / 他校対談 / クロスワード / 小特集「女子校アンケート」 / 高III最後にも申す

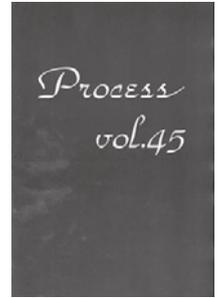
平成10年代



第47号 平成10年度
掲載内容：リバティーター探検 / 制服を考える / 明治のイメージ / 他校対談 / 一人暮らし完全マニュアル



第46号 平成9年度
掲載内容：OBスポットライト / 追跡1 高校生クイズ選手権 / 夜食亭 / アンケート特集 / 授業再考 / 他校生徒会誌案内



第45号 平成8年度
掲載内容：サッカー部ドキュメント / 永久保存版 明校語辞典 / 明校なんでも調査隊 / 心理テスト / TABLE MANNER / 常識教養講座

■校舎移転 / 共学化

明治中学高校の歴史を語る上で、避けて通れない大きなイベントとして、調布への校舎の移転と男女共学化があります。過程の中でも、このイベントは特集として種々取り上げられています。調布移転・男女共学化が決定して以降、「一体どうなってしまうのか」という旨の特集が組まれるようになります。

そして、校舎移転と共学化が実施された2008年を挟んだ56号、57号では、このイベントに伴う特集が大きく取り上げられています。56号では、「新旧校舎マップ」という特集で、猿樂町校舎の姿を写真として残してくれています。以前の校舎の姿をもう一度見たい、という方には、ご一読をお勧めします。対照的に57号では、「新校舎探検隊」という特集で、新しい調布校舎の写真紹介がなされています。明治中学高校にとって激動の数年間であったことが分かります。

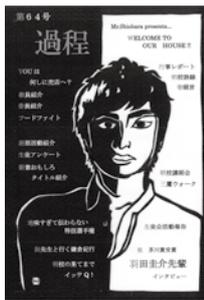
■印象に残った号

今回、歴代66号の過程のまとめを行い、印象に残った号を選びました。情的には幹事学年の39号！と言いたところなのですが、筆者個人的には40号を推したいです。この号では、過去の過程のまとめ(斬り口鋭い)あり、長寿特集

平成20年代



第65号 平成28年度
掲載内容：生徒アンケート／サイコロ「RESTART」／きれいなノート／明校IPPONグランプリ／わらしべ長者／明校語録



第64号 平成27年度
掲載内容：羽田先輩インタビュー／三鷹ウォーク／明校の果てまでイッテQ!／明校語録



第63号 平成26年度
掲載内容：明校へ受けた授業～サイコロRevenge～／明校生のノートは必ず美しい／明校語録 2014



第62号 平成25年度
掲載内容：校長先生退職記念涙のラストインタビュー／先生の夏休み絵日記／わらしべ長者2nd／元さんば／第四回 小説大賞



第61号 平成24年度
掲載内容：100周年の歴史を追う／アメトーク！～明校出身教員～／アメトーク／小説大賞／明校語録／明校語録分析



第60号 平成23年度
掲載内容：過程の歴史／あだち麗三郎さんインタビュー／明校のすごい人！／明校語録／第2回 輝く！明校小説大賞

《最新の過程より》

最新号の過程編集委員は、全員が女子で構成されていました。過程の新しい歴史が作られています。

筆者が感銘を受けた、最新号過程編集委員長の「発行にあたって」からの一節を引用させていただきます。

「でも、我々生徒は、この六十年も続いている『伝統』を守らなくてはいけないのです。生徒が生徒の言葉で一年の明校を表現できるのは、この一冊しかないのです。(中略)生徒が主体となって作り上げてきた『伝統』を途絶えさせたくありません」

過程の伝統は間違いなく現役の世代にも引き継がれています。「ONE MEIJI」は過程にも宿っているのです。

そして今この時も、「次の」最新号が創られつつあるはずです。ここで再び、最新号過程編集委員長の言葉を引用させていただきます。「『伝統』を守るためにも、来年度のものにはぜひ、今年度以上のものにしてください」

きっと、どの代も過去最高の過程を生み出す事を目指してきたはずです。それが、過程がこれまで続けてきたモチベーションになっているのだと思います。次の、そしてまたその次の最新号にも期待することができそうです。



平成20年代



第66号 平成29年度
掲載内容：明校周辺ぶらり旅／ハイブリッドな旅／生徒アンケート 2017／明校トリビアの泉／明中、明高の過去問を解いてみた／明校語録

過程のバックナンバーは、明治大学図書館 中央図書館にて閲覧可能です。(現在53号まで所蔵。来年度以降、全冊収納予定)

明大図書館 中央図書館
〒101-8301
東京都千代田区神田駿河台1-1
TEL 03-3296-4250
<http://www.lib.meiji.ac.jp/use/central/index.html>

「ONE MEIJI」を体現しているコンテンツであることが実感できました。今後も、過程が継続していくことを願ってやみません。目指せ、100号！でしょう。さて、今回ご紹介した過程のバックナンバーは、明治大学図書館 中央図書館にて閲覧可能です。現在、53号までが収納されており、来年度以降、全冊が収納予定となっています。明治大学卒業生の方は、校友ライブラリー・カードを作成いただくことで利用可能となります。是非ご利用を！

■おわりに



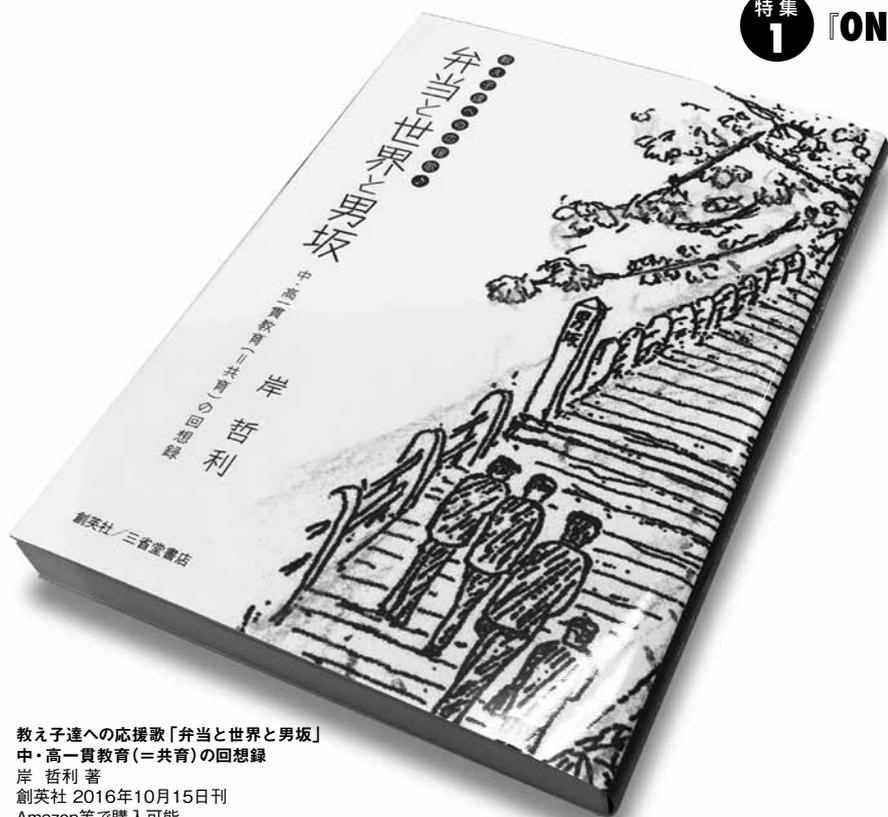
筆者が全66号を振り返った感想ですが、「過程が続いていて良かった！」でした。校舎移転・共学化の大きな変化の中で、途切れてしまったのではないかと感じていましたが杞憂でした。過去から現在に至るまで、過程はたった今でも、高校時代最大の痛恨事として記憶に残っています。

先生の創った「過程」？

もうひとつの

「男坂」
(学級通信)

生徒と向い合った6年間



教え子達への応援歌「弁当と世界と男坂」
中・高一貫教育(=共育)の回想録
岸 哲利 著
創英社 2016年10月15日刊
Amazon等で購入可能

もうひとつの「男坂」とは

「男坂」と言えは、調布移転前の明治中学・高校に通った者が、毎日登り降りしたあの「坂」であることは間違いない。卒業までに何度あの「坂」を往復したのだろうか？また、運動部に所属していた者は辛い練習を思い出すかもしれない。

ただ、平成3年卒の明仁会にとって、「男坂」と言えはもうひとつ思い出すことがある。それは中学1年から高校3年まで担任を受け持っていたいた、岸哲利先生が発行されていた学級通信「男坂」だ。6年もの間、毎週発行され、通算240号にも及んだ。そして、2016年10月、その「男坂」が1冊の本『教え子達への応援歌 弁当と世界と男坂 中・高一貫教育(=共育)の回想録』となって発刊された。そこには当時の生徒たちと向い合った先生と生徒の貴重な対話が、まるで現代版の「君たちはどう生きるか」のように描かれている。そこで、当時の記憶を頼りに少し紹介してみたい。

学級通信「男坂」はB4サイズを横にした2段構成で、先頭に題字と先生直筆のイラストが入る。イラストはカメラが趣味だった先生らしく写実的なタッチで、学校行事等に参加する生徒の姿が描かれていた。文章もすべて手書きで、上段には先生のコラム、下段には生徒の感想文の他、行事予定表、あとがきへと続く。先生は毎週、何らかの感想や俳句などを受け持っているクラスの生徒全員に提出させ、それを一週間かけて編集し、研究日の翌日の昼休みに配布されていた。

内容はその時々々の普段の学校生活や部活動、英語教育、そして学校行事が中心となっている。生徒たちの感想文を見ても、遠足、マラソン大会、定期試験、六大学野球観戦、林間学校(南志賀)、体育祭、文化祭、芸術祭等、今振り返ると盛りだくさんな内容であった。六大学野球観戦では「応援団の迫力に感動した」「長島一茂選手(立教)がかっこよかった」等、生徒たちの興奮した声が印象に残る。

そして、特筆すべきは、先生ご自身の家庭の話が多いという事である。先生には我々明仁会の学年よりも3才年下にあたるご長男と、5才年下、11才年下にあたる二人の娘さんがいらつしやり、ご家庭での出来事や親と子の交わりなどについて、先生のコラムとして取り上げられている。教師としてだけでなく、一人の親として同じように悩んでいる姿を生徒の父母に向けて発信しているように見える。

年始には先生から届く年賀状が男坂になっており、男坂の題字にイラストは同じ構成であるが、大きさがハガキのサイズなので、まるで縮刷版のよう。一段構成で先生からの熱い新春メッセージが掲載されていた。また、6年の間には一度だけ廃刊？の危機があった。

先生が破傷風で入院された時、男坂の継続が危ぶまれた。「男坂を途切れさせてはいかん」と、当時のDR委員が中心となって立ち上がり、みんなで原稿を集めて編集し、先生に届けた。その時、先生は病床で涙を流して喜んだという逸話もある。

2016年に発行された書籍では、学級通信「男坂」の中から、1年ごとに20作程度を選び、当時手書きであったものを活字に、また、本名で書かれているところをイニシャルに変え、中学1年から高校3年までの分を238ページにまとめて掲載している。

先生の思ひ

岸先生は中学1〜3年を担任していた当時、昼休みに生徒と一緒に弁当を食べることを日課とされていて、男坂の中でも「母親が作る弁当の大切さ」を語っており、このことが男坂を語る上でキーワードとして欠かせない。その背景には先生の学生時代の思いが弁当に詰まっているからであると想像される。先生は高校1年時にお母様を病気で亡くされているが、その直前ま



先生のご家庭の話も多く取り上げられていました。教師としてだけでなく、子を持つひとりの親としての苦労や悩みも書かれていた



「男坂」では、体育祭や文化祭、修学旅行などの学校行事が挿絵とともに多く取り上げられていた。生徒全員に俳句を書かせることもしばしば

でお母様に弁当を作っていた。その弁当はご飯に塩こんぶという極めて質素な物であったが、そこに母親の愛情を強く感じていらつしやうったことが「男坂」の中にも書かれている。

私たちが高校生になると、先生と一緒に弁当を食べる日は週に1回と減ってしまったが、貴重な生徒とのコミュニケーションは卒業まで続いていった。発行された本の最後に岸先生はこうまとめている。

『学級通信「男坂」は、様々な角度から、学年毎に、生徒の悪戦苦闘する成長に合わせて、私自身の半生、過去と現在の私の家族（一男二女と妻）をそこに投影させ、対象化して、生徒とその父母へ助言や励ましを与えていきました。高校1年時、毎日、生徒が持つてくる弁当が、中学時の弁当を媒介にした母と子の温かい一体感から、弁当に距離を置き、どこか突き放して、弁当と弁当を作る母親を見ているのが読み取れ、その変化は、高1生徒の「自立」への契機と考えられます。高校2年時、確実にそして急激に、意識が変わりつつあることを弁当は伝えていきます。生徒は弁当を見つめ、考え、母の作る弁当を批判し始めています。それは将来、彼らが社会に出て、伴侶とともに創り上げる自分の「家庭像」を予感させるものでした』

学級通信「男坂」を発行されていた当時の先生のご年齢は44才〜50才。まさに、現在の我々明仁会と同年代である。今、こうして「男坂」を振り返る機会を得たことに何か深い縁を感じる。岸先生は一時期、体調を崩され入院生活を送られていたが、すでに退院され自宅にて療養中。1日も早いご回復と、あの豪快な笑い声が聞ける日が来ることを願ってやまない。

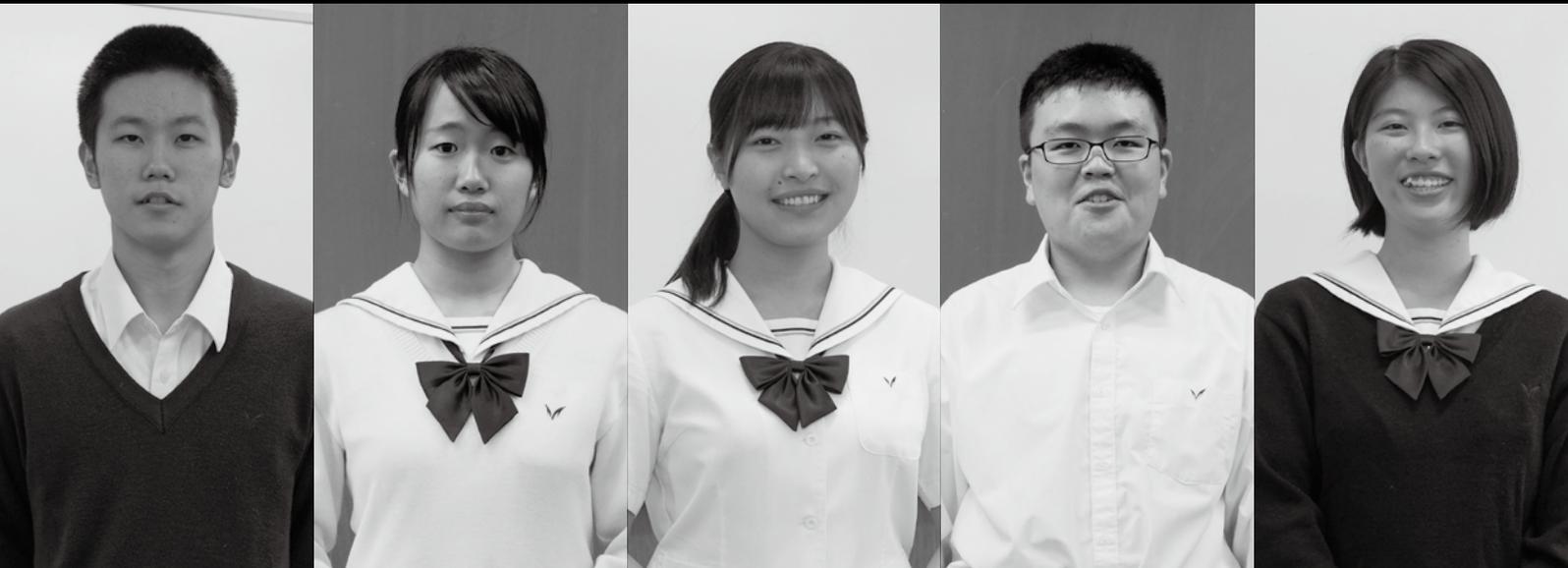
（注記）大正2年生まれの方は、昭和5年中学卒業、東京築地の「海軍経理学校」入学。程なく母と結婚。同校を卒業後、佐世保の軍港へ配属。同地で昭和15年に先生が生まれ、昭和19年南太平洋の孤島で父戦死の報。



《岸 哲利 先生 略歴》
 昭和15年 長崎県佐世保市で生まれる
 昭和36年 東京外国語大学ドイツ科入学
 昭和43年 同大学卒業後、団体本部国際担当書記として就職
 昭和55年 明治大学付属明治高等学校・中学校に英語教諭として就職
 平成18年 定年にて同校を退職

実際に配られた「男坂」すべて手書きでB4サイズにびっしりと書かれています。今にして思えば、これを6年間休まず続ける気力は凄い一言に尽きる





現役生徒に訊く「未来の自分へ」

総明会幹事学年として日々活動する中で、ふと思い起こす自らの高校生活。その時から27年以上の時を経て、頭をよぎるのは、今どきの高校生は何を考えて、将来にどのような夢を持っているのだろうか、ということでした。今を大切に過ごし、未来に思いを馳せる、現役生徒5人に話を聞いてきました。高校時代がついこの間だった人も、遠い昔という方も、是非読んでみて下さい！

挨拶活動は引き継いでいきたい

生徒会本部・放送班・有志料理研究の3つの活動を掛け持ちするアクティブな川島奈央さん。まずは生徒会本部での活動から。

「私達の代で新たに始めたことに、挨拶活動があります。最初は生徒会長が始めようと言いつつ、そこに生徒会本部と一緒にやって取り組み始めたのです。生徒の登校時に正門のところで、学校の中の正面玄関のところに立って挨拶をするようにしています。最初はそんな風にもっとした活動だったのですが、その後、複数の班も加わり、今では先生方も参加してくれるようになりました。自然発生的な活動でしたが、良いことなので是非、どの様な形かでは引き継ぎたいですね」

将来の夢は、昔から「アナウンサー」

一方で放送班の活動にかける熱量もかなりのものがある。

「中学生の頃に演劇部に入っていました。その時、顧問の先生が、『NHKの放送コンテストがあるけど出てみない?』と誘ってくれたのです。そこで実際に出場し



生徒会本部・放送班・有志料理研究の川島奈央さん
川島 奈央さん

てみたら、100人以上エントリーしていた東京都の予選を通過することが出来、それをきっかけに放送の面白さに目覚めました。それと同じ頃なのですが、その中学校の近くに東京都の慰霊堂があり、そこで震災や戦災にあわれた方の手記を読むという催し物があったのです。その催し物に誘われて何回かそこで朗読をしたところ、学校の先生や周りの皆さんからも『放送と言えば川島!』と認識してもらえるようになりました。まずまず、放送に興味を持つようになりまし

「そういつた今、行っている活動と、将来やってみたいことはどこかで繋がっているのでしょうか。」

「将来は、アナウンサーになりたいのです。きっかけは小学校4年生の時、音楽会という行事があって、その冒頭で開会の挨拶をさせていただいたことです。それを聞いてくれた何人も人が後から『とても上手だったよ』と褒めてくださり、祖母からも『将来は、アナウンサーが向いているんじゃないの?』と言ってもらいました。その時から、将来の夢を書くときは『アナウンサー』です。高校で放送班に入ったのも、中学の時に出場したNHKの放送コンテストに高校生でも出たいということと、やはり将来の職業的なことを視野に入れたという点が自然と繋がった結果だと今は考えています。大学での学部選びや、大学以外の活動も、その目標に向かってやっていくという様にしたいですね」

残りわずかとはなったが、川島さんの活動的な高校生活はまだまだ続きます。



高校三年部
スキー部
小倉 悠穂さん

怖いけどスピード感が楽しいスキー競技

幼い時から続けているというスキー。明治中学に入学した志望動機の一つとして、「スキー部に入学したくて」というほどに、スキーへの情熱がとても強い小倉悠穂さん。中学校でスキー部のある学校は数少ないのだそうだ。高校三年の今年は、インターハイ出場を目指して、日々練習に取り組んでいるということだ。

スキーの魅力を探ると、「スピード感が好き。怖いけどスピード感が楽しい」
穏やかに見える表情に反し、何か勝負師の気配すら感じる小倉さん、競技種目はアルペン競技との事だ。スキーの大会では、スキーを通じての友人と競い合うこともあるのですが、「友達なのにライバルという関係が好きです」という負けず嫌いのところを見せる半面、実はとても緊張するとう。「大会では周りに友達が多いので、友達か滑るときは大きな声で応援します。実は、大声を出すことで自分もリラックスできて、緊張が和らぐんです。でも、スタートする時に鳴る電子音は嫌いですね」
練習では体力トレーニングだけでなく、メ

ンタルトレーニングも取り入れ、弱点を克服して更なる上を目指してがんばっています。

人にかかわって、人を助けられることをしたい

「人見知りなんですけど、人と話したり、小さい子の面倒を見るのが好きなんです。スキーのチームで泊まりに行く時に、小さい子では小学2年生の子も一緒にいることがあるのですが、同じ部屋で一緒に泊まったりしています。そんな時、その子のご両親から『面倒を見てくれてありがとうね』と感謝の言葉を言ってくれたのが、嬉しいんです」

人とのふれあいも大事にする小倉さんは、スキーに取り組む一方、これからは心理学を勉強したいということです。「発達心理学」というものに興味があって、自分でインターネットで調べたり、図書館で勉強したりしています。『発達心理学』とは、赤ちゃんからお年寄りまで、段階ごと、世代ごとの心理学のことです」

当然、高校の授業では教えてくれませんが、テストの勉強だけにとどまらない勉学の姿勢、探求心は、今後の学生生活、そして社会人になってからもきつと役立つことでしょう。

「将来は、人にかかわって、人を助けられることをしたいです」

スキーを通じて培った人とのふれあい、そしてスピード感。これからの小倉さんの向上心はますますスピードアップしていくに違いないと感じるインタビュートンになりました。



高校一年部
剣道部
図書班
加藤 滉平君

文武両道の日々

高校1年の加藤滉平君は今年の春、明治高校に入学したばかりですが、立候補の末、HR委員を務めています。「小学校3年以來、わずかな期間を除いて現在まで、常に学級委員を務めています」なぜ、学級委員に立候補するのかと尋ねると、「なんとなく先生やクラスメイトから加藤だよねとか言われるので。人付き合いが苦手な方なので、HR委員をやると顔や名前を覚えてもらえるし、周囲の人との接点も増える。自分にとって都合がいいんです」とややそっけない。ただ、学級委員としての責任ややりがいも感じていて、「中学時代は定期試験の度に予想問題を作って、学年全体に配っていました。『今回は出来が悪い』と指摘されたときは、自分なりに創意工夫改善しました」と、陰ながら頑張るタイプ。その人柄が自然と人望を集めているのかもしれない。

課外活動としては図書班と剣道部を掛け持ちしています。「図書班に入ったきっかけは読書が好きだからです。以前から学級委員でありながらも、図書委員に憧れて

いました。ジャンルを問わず、時間さえあれば本を読んでいます」スマートフォンですら、「本の中で気になった事柄を調べる時ぐらいいし使えません」と、およそ今どきの高校1年とは思えない徹底ぶり。図書班では週に一度、ミーティングを行ったり書架の整理したり、蔵書印を新しい本に押ししたりするなど積極的に活動しています。

一方で、未経験ながら剣道部にも入部。入部してみても感想は「剣道は礼儀作法も身に付くし、自分を律する力も備わる。先輩も優しく丁寧に指導してくれるので自分が日々上達しているのが実感できます。自分は向いていると思っています」と力強く答えてくれました。文武両道、充実した部活生活を送っています。

将来の夢は、中学校の先生

そんな加藤君に将来の夢について聞きました。「小さい頃は電車の運転士、それから裁判官とか図書館の司書に憧れていました。ただ、中学校1、2年の担任の英語の先生が優しく、教え方の上手な方で、その先生に出会ってからは、自分も中学校の先生になりたいと思うようになりました。何より、先生自身がとても楽しそうに生徒と接しているのも魅力でした」そしてインタビューの最後になって、「今、思い出したんですけど、作家になるのもいいかなと思っています」との話が。将来、教師と作家の二足のわらじも夢ではないかも。と思わせてくれる青年でした。



高校Ⅲ年
放送班・有志演劇
きよなが さきよ
清永 早紀子さん

部活動。実は人前に出るのは苦手で…

高校Ⅲ年の清永早紀子さんは現在、放送班と有志演劇に所属しています。

放送班の主な活動は週1回の放課後と週2回の昼休みに放送を流すこと。「自分の好きな音楽や生徒からのリクエストにこたえながら、MCをやっています。ただ、放送班に入ったきっかけは、小さい頃から課題で出される音読が好きで、『朗読をやってみたいな!』という思いから。大会などの場で朗読を披露する機会もあります」

清永さんは放送班と同時に、有志演劇にも所属しています。「中学3年の時に有志演劇のお芝居を見て、なんとなくやってみたいなど思ったのがきっかけです。もともとは人見知りで人前に出るのが苦手。小学校時代のお遊戯会でも主役を演じるタイプではありませんでした」そんな清永さんも今では演じる事の楽しさを知り、主役を張ることも多いとか。

将来の夢は、人の心に寄り添える人になる。そして理想は、お母さん。

そんな清永さんにどんな大人になってい

たいか聞きました。「小さい頃は動物が好きなので、獣医になりたいと思っていました。中学に入ってから途上国で生活の支援をする仕事。その為に農学部への進学も考えました。高校Ⅲ年になった今は、社会システムに携わる仕事に就くか、カウンセラーになるか悩んでいます」

まずは社会システムに携わる仕事。「高大連携講座で国際日本学部の鈴木賢志教授が授業をしてくださり、その内容(国民性と社会システムの関連性)に強く興味を持ったことがきっかけです。国際日本学部で働き方の在り方やそれに対する政府の支援などについて学びたいと考えています」

一方でカウンセラーにも興味がある。「困っている人が助けを求めるとき、そばに寄り添って支えになってあげられる、そんな仕事に興味ややりがいを感じました。今の時点では、どちらの進路に関しても特別な勉強をしているわけではないけれど、将来必要になる語学に力を入れて勉強しています」

そして、さらに年齢を重ねた時、将来はご自身のお母さんのようになりたいとも話してくれました。「母は専業主婦なんですけど、とても穏やかで、家に帰るといつもあたたかく迎えてくれる。自分も自分の家や母親に憧れます」

インタビューを通じて、一貫して「人の役に立ちたい」という強い意志を感じました。そんな清永さんが、将来、どのような形であれ、世の中で活躍されることを期待したい。



高校Ⅲ年
バスケットボール部
ゆえき
佐伯 優輔君

自分から部活とったら何も無くなってしまおうと思った

高校Ⅲ年の佐伯優輔君は、バスケットボール部に所属しています。「練習のキツさや勉強との両立ができません、中学1年の時13人いた自分の代は、高校Ⅲ年次には自分を含めて2人になってしまいました。自分が部活を続けられたのは、チームで活動することの面白さを知ったことと、続けることで出来るが増えようまくなっているという経験です。でも、中学時代は、他の人と同じだけ練習をやっても実力差が出ることに行き詰まる時期もあって『何となく続けているだけ』という時期もありました」中学時代は継続して努力する事が苦手だったそうで、部活や勉強に集中できなかった時期もあったようです。「中学校のときは成績がものすごく悪かったんです。『勉強しろ』と言われてもその場しのぎで、『これはやばい』と本気で思って自分を変えなければと強く思えたのが良かったと思います」そんな自分が許せなくて、「できることからやる」と決めた佐伯君。

「成績が悪いと2週間前から部活動が停止になってしまっんです。それは絶対ダメ

だと思え少しずつ勉強を始めました。勉強の習慣がついてきてからは徐々に成績も上がってきました」勉強がきつくて部活を辞めなかったのは、「自分から部活を取ったら何も無くなってしまおうと思ったし、継続させるのが苦手だったから、最後まで続けられた」というものを持っておきたかったんです」

「信念をちゃんと持った大人になりたい」

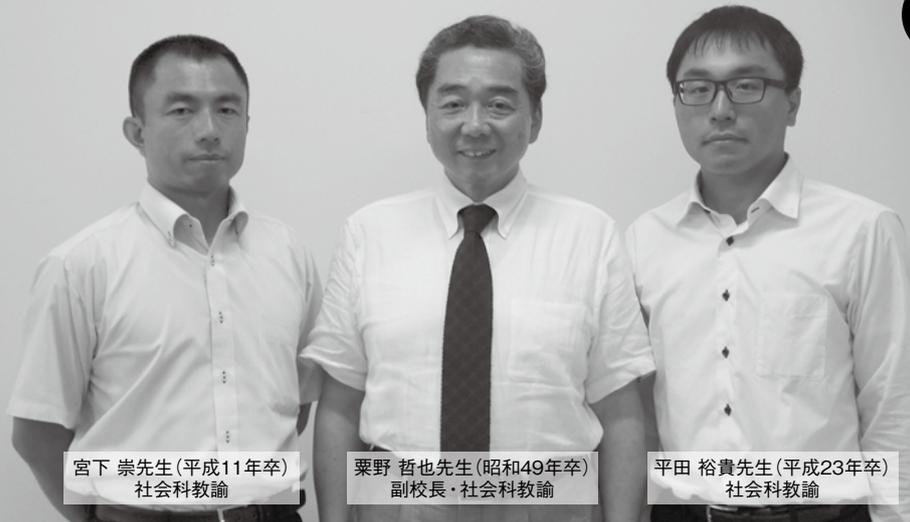
高Ⅲになり進路を真剣に考え始めたとき、「高Ⅱの時に学んだ倫理が楽しい上に得意だったから」という理由で哲学科を志望することにしました。「できれば、そこで学んだ思想などを活かせる仕事に就きたいのですが、特に、人と話したり人に教えたりするのが好きなので教師も選択肢の二つです」と夢を語ってくれました。最後に、「信念をちゃんと持った大人になりたいと思っています。そこがないと自分はぶれてしまっんです。自分の中に軸を持たないと誘惑などに負けてしまったり、途中で仕事に飽きてしまったりするのではないかなと思うんです」

インタビューを通じて「弱い自分」をしっかり自覚しつつ、そんな自分をどう律するかを常に意識しており、「部活を引退した今、目標を定めないとだらけるため、TOEICの点数を上げるなど新しい目標設定をしています」とか、「大学に行ったら長期の留学がしたいです。英語がすごい苦手なので1回海外で自分を追い込みたいから。その費用を大学1年の間に蓄えたいと思っています」など非常にしっかりしているなあと感じさせられました。

明治愛

それぞれの 力・タ・チ

「職場」「家族」、母校を同じくする身近な方に、それぞれの明治に対する思いをお聞きしました。世代によって感じる思い、そして伝えたい明治の思いを「先生と教える」「親と子」という「それぞれのカタチ」でお伝えいたします。



宮下 崇先生 (平成11年卒)
社会科教諭

栗野 哲也先生 (昭和49年卒)
副校長・社会科教諭

平田 裕貴先生 (平成23年卒)
社会科教諭

「師弟愛」 先生と教えるを経 て同じ職場で過ごす日々

母校が明治中学・高校であり、そして現在は同じ明治中学・高校の教師という栗野先生(昭和49年卒)、宮下先生(平成11年卒)、平田先生(平成23年卒)。かつて先生と教えるという関係での当時の思い、数年が経過し、現在同じ職場で生徒・後輩の指導にあたる日々の中、それぞれの「師弟愛」、そして奥底にある「明治愛」に触れてみたいと思います。

平田先生が高1の時、学年主任が栗野先生で、担任が宮下先生

栗野先生から見て、宮下先生、平田先生は教えるということになりましたが、まず宮下先生の生徒時代の印象はいかがでしたか？
栗野先生 宮下先生が中1の時、私が学年主任で、そのまま高3まで学年主任として6年間一緒でしたね。まじめな生徒という印象でした。中高の修学旅行等の行事で、「しおり」を熱心に作っていたのを思い出します。非常に詳しく調べていて、旅行のガイドブックになるんじゃないかというほど、よくできていました。それで、その「しおり」を宮下先生が教員になった時に、まだ保管されていたというのが嬉しかったですね。
平田先生の生徒時代の印象はいかがでしたか？
栗野先生 平田先生が中1の時、授業や林

間学校へ一緒に行きました。そして高1の時は学年主任、ちょうど調布に移った時にね。そして高3でまた授業を受け持ちました。印象としては、彼はいつもニコニコしている野球少年という印象でした。

今度は逆に、栗野先生についての印象はいかがですか？

宮下先生 6年間社会科を教えて頂いたことになりましたが、栗野先生からは地理も歴史も公民も習いました。ですから教員になる前は、社会科の先生は全科目できるのが当たり前だと思っていたので、自分が教員になってから他校に着任したときに、他校の先生は専門科目しか出来ないというのが普通だったので、正直「あれっ」と思いましたね。あと、当時から社会科は好きで、社会の授業でも「暗記する社会科」ではなくて、「考える社会科」というのを教わったと思います。自分がずっと勉強してきた一番の土台になっているのは、栗野先生の「考える社会科」の授業のおかげじゃないかな、と思います。

「暗記する授業」よりも「考える授業」が多かったと思いますが、方針だったのでしょうか？

栗野先生 本校の社会科教員全員の考え方ですね。受験が無い学校だから、皆が意図して「考える授業」をしている。宮下先生がそれを感じ取ってくれていたのならば、それは社会科の方針としては成功だったんじゃないかな。これからは、この2人の先生が担ってほしいですね。

次に平田先生は、栗野先生にどのような印象をお持ちでしたか？

平田先生 入学前、最初の説明会で総務主任の先生として来られていて、明治の挨拶はこういうものだとか教えてもらいました。「起立、気を付け、礼」姿勢を正して礼」というように。それから入学して、社会の授業の時に「あの時の先生だな」と思いました。

栗野先生 「姿勢を正して礼」というのは本校独特の挨拶方法なので、入学式で困らないよう、入学前に教えておいた方が良かったかと思つて。

宮下先生 自分達の同窓会の時にも、栗野先生もお呼びして点呼を取ってもらつたりしたほど、挨拶は思い出です。

平田先生 栗野先生に教わった挨拶というのは、明治中学生として、初めて覚えたことで、印象に残っています。

次に、先生を目指したエピソードをお聞かせいただけますでしょうか？

栗野先生 教員になりたいということはそれほど早くからは考えてなかったです。でも、子供が好きだった、それが先生を目指した一番の理由かな。あとは歴史が好きだった。

宮下先生 在学中は意識していませんでした。大学生になって塾でアルバイトを始めて、子供達に接しているうちに、子供に教えることが好きなんだ、というのを感じて先生を意識しました。学部が社会科系だったこともあり、社会の先生を目指しました。今も教材研究する時には、中学高校時代の

ノートを見直すことがあります。

平田先生 私もノートを見ます。そのノートを参考にして授業を考えています。栗野先生の授業での話を参考に(笑)。

宮下先生 それで大学3年生の時に教職をやるうと思いい、4年生から大学院1年の2年間で免許を取って、1年遅れて実習に行きました。実習は日本史でしたから、ベースになったのは在学中に栗野先生から習った授業でした。ああいうわかりやすい授業をやりたいな、と。

平田先生 私が先生になろうと思った理由は、中学時代から勉強を教えるのが好きだったからです。テスト前には、同級生に向かって黒板を使いながら勉強を教えてくださいました。それがとても楽しかったです。高1のときには宮下先生との面談で、先生になりたいという話をしていました。高3で再び宮下先生と面談したときには先生になりたいという気持ちに強まってきました。

―整理しますが、平田先生が高1の時の学年主任が栗野先生で、担任が宮下先生ということですね。

平田先生 そうですね。当時担任の宮下先生の印象は「新しい先生だな」というのが最初に覚えていることで、入学式の前に生徒証の配布をもらったのが最初の記憶です。

―逆に、宮下先生の当時の平田先生の印象はいかがでしたか？

宮下先生 栗野先生が仰ったように、ニコ

ニコしていたという印象ですね。しばらくしてから、「何となく自分に似たタイプの生徒がいるなあ」と感じたのを覚えています。他の先生からも「何か雰囲気似ている」とも言われました(笑)。

―栗野先生にお聞きしますが、かつて教え子だった生徒のお二人が、先生として同じ職場に就かれて、何か不思議に感じることや影響を受けることはありますか？

栗野先生 やはりこの学校の卒業生ということ、どこか深い所で信頼感はずいぶんあります。影響を受けている所は、やっぱり若さかな(笑)。羨ましさはあるね。彼らはこの先、何十年も先生やれるのだから羨ましいよ。

―逆に、宮下先生にお聞きしますが、栗野先生と同じ先生という立場となって、何か意識されますか？

宮下先生 恩師ですから信頼感や安心感には常にあります。色々相談させて頂いたり、自分が気付いてなかったことや、教わることで色々あって、栗野先生は凄いなと思います。

―若い平田先生はいかがですか(笑)？

平田先生 期待をして頂いているのは嬉しいです。それに応えられるよう、出来ることはしっかりやって、頑張ろうと思います。自分では全然気付かない所や、勉強させられることは、たくさんあります。

分り合おうとする気持ち、それが明治

―明治中学・高校生として6年間を過ごしてきて、一番身についたと思うことは何でしょうか？

栗野先生 精神的・肉体的に頑健になれました。この学校の6年間で本当に厳しく育てていただいたと思います。あと、自分はそれほど進んで運動する方ではなかったけど、マラソン大会などスポーツ行事を経験して鍛えられたし、今、健康でいられるのは中学校の6年間でベースになっていると思います。

宮下先生 叱られたこともありませうけれど、トータルで見ると厳しいというよりも大事に育ててもらったと感じます。社会人になつての色々な礼儀やマナー、これは中学校の6年間が基本になったと思います。

平田先生 規律はしっかりしていて厳しいということもあつたと思いますが、やりたいことは自由にできると思いました。あと明治で良かったのは、受験を意識しないで「考える授業」を受けられたことです。今の生徒にも、「暗記ばかりではない」「考える授業」をすることを意識しています。中学高校当時から、そういう授業が好きでした。学んだ知識を、いかに活かすことができるか。これが大切だと考えています。

宮下先生 考えさせる授業は、生徒にもいいと思います。暗記だけじゃダメなんだと思います。

―最後に、今年のテーマ「ONEMEE J―明治はひとつ」というテーマについて思うこと、又はこれが明治の象徴と思うものはありますか？

栗野先生 卒業生といつても個性は色々で、学んだ時代も違うし学んだ校舎も違う。今は調布ですし、皆が一樣に似ているという訳ではないけど、ただこの明治で学んだことで「みんな分り合おう」ということが明治なんじゃないかな。分り合おうとする気持ち、そういうのはすごく大事。

宮下先生 明治の卒業生だとわかつた瞬間、先輩でも年齢を飛び越えて同じ仲間、という気持ち湧きますね。

平田先生 総明会の集まりに行つて、恩師の先生の話をすると繋がりを感ずります。あとやっぱり「校歌!」。スクラムを組んで校歌を歌えば、もうそれで一体感があります。応援歌も明治の血が騒ぎます。

宮下先生 校歌は「民族の歌だから(笑)」。栗野先生 そういう意味では、明治中学高校の愛校精神・教育は大変成功しているということだね。

―師弟関係の3名の先生方にお話を伺い、先生として栗野先生が教えようとしたことは、宮下先生、平田先生へと伝わり、さらに、若い世代へ明治中学高校の愛校精神・教育を伝えつづけようという「師弟愛」を感じました。

―そして、同じ明治で学んだ仲間同士の信頼感や安心感、みんな分り合おうとする気持ち、われわれ卒業生の奥底にある「明治愛」ではないでしょうか。

「親子愛」
親から子に受け継がれる
明治愛



息子：松浦 史明君
(中学3年生)

父：松浦 毅氏
(平成3年卒)

「親子愛」というテーマで、今回インタビューを受けていただいた松浦毅さん(平成3年卒)と息子さんの史明君(中学3年生)。お父さんの息子さんに寄せる思い、そして親子の「明治」への思いを聞きました。

息子を明治に入れるのは既定路線だった

—息子さんが明治中学に入学するまでのエピソードを教えてください。
父(毅氏) 受験勉強を始めた頃から、やはり明治中学は受けさせたいと思っていました。文化祭とかオープンキャンパスに連れ

ていったりしましたし、小学4年の頃から意識的にプッシュしていたと思います。最初から既定路線というか。小学6年の時には成績も良くなって、明治中学は受けさせようと思いました。

子(史明君) 中学受験をするのは、ほんやりと感じていました。父が明治の話をしていたので、徐々に「明治」を刷り込まれていった気がします(笑)。テレビで箱根駅伝等を見ていて、少しずつ「明治」という学校を自分の中で意識していったと思います。文化祭にも連れて行ってもらって、応援団等を見て、なんとなく明治っていいなあと思うようになりました。他の学校と比べても盛り上がりや活気が凄かったですし。

—お父さんはなぜ明治を勧めたのですか？
父 中高6年間、大学までいたら10年間明治にいましたので、部活や友達や、色々な事で明治に染まりました。部活動(地理研究部)も充実していて、大学受験がなかった分、自由に自分の好きな事を研究できました。あと仲間とも楽しく過ごせ、意義ある学校生活を過ごせましたので、同じような環境で子供も育ってほしいと思ったからです。移転で設備が素晴らしくなったことも、その気持を後押ししました。

—明治に入学して、明治を感じる時は、どんな時ですか？
子 やっぱ校歌って凄く「明治」っていうイメージがあります。校歌は明治の顔ですかね。OB・OGの方を含め団結できるのが校歌の力なんじゃないかと思っています。

醸し出す雰囲気、空気は、昔と変わらない

—お父さんから見て、自分達の時代と変わった点、または変わっていない点、どう思いますか？

父 変わった所は、学校の場所や共学になったり、先生の顔ぶれですね。でも、まだ知っている先生がいらつしゃって、何となく学校の雰囲気は同じ匂いがします。いい意味でも悪い意味でも、醸し出す雰囲気、空気は変わらない気がします。外面的には凄く変わっていますが、あと「過程」という学校誌が今でも存在して、あれって偉大なる内輪受け雑誌みたいなものですよ。そういうのを一生懸命作る時間なんて、受験を控えている学校では無理だろうし、そういうのが作られ続けている付属校ならではの「おおらかさ」みたいなのは変わらないかな(笑)。

子 男子校の明治は想像できません。もし男子校だったら男子同志でふざけ合えて面白いかな(笑)。父の話聞いて、昔と空気が変わっていないという所は逆に凄いなと思います。時代が変わっているのに空気も変わると思うのですが、そういうのが変わっていないという所は何か凄いなと思います。自分では感じないですけど……。

—先生のエピソードで共通する話題はありますか？
子 西村先生と由井先生ですかね。
父 西村先生の若々しい見た目や雰囲気は変わらない気がします。授業中に雑談多かったです。脱線が多い先生が多かったな(笑)。

子 全部雑談の先生もいます(笑)。でも脱線している方が授業は楽しいです。
父 教科書全然使わない先生もいたしね(笑)。でもそういう所に、おもしろさというか型にはまってないという所が昔も今も変わらないのかなあと。テストでも教科書に関係なく非常に難しい問題が出たり、そういう所は明治の授業らしいね。

—最後にお父さんから息子さんへ、明治の良い所、そして将来へのメッセージをお願いします。
父 やっぱ好きなこと、例えば部活とかを一生懸命やれることですね。3つ兼部(陸上部、生徒会本部、地理研)して、修学旅行委員までやったのはやりすぎですが(笑)。受験校だったら受験に特化したことをやらなきゃいけないけれど、受験勉強をしなくていい分、その時々でやりたいことを、目標を見つけて頑張っていってほしい。そして、先にはなるけど大学に入って何をやりたいかというのを高校生になったら考えて欲しいです。あとは、試験とかは、しっかり頑張ってくださいね(笑)。

お父さんが熱く明治の思いを語る中、その思いを表面的にはクールに受け止めているようにも感じる息子の史明君。
しかしその思いは、「明治中学入学」というカタチで期待に応え、そして今、確実に「明治愛」は史明君へ受け継がれつつあることを感じるインタビューでした。

これからも、史明君はご両親の思いに応えて、更なる飛躍をしてくれることでしょう。

平成16年卒・羽田圭介氏 特別寄稿

一緒に集まってなにかをやる。
それこそが、子供の頃から
変わらない人生の楽しみなのかもしれない。



今年の一〇月で、三三歳になる。明治

大学付属明治中学校に入学した一九九八年から二〇年も経ったのだな、とまず考える。三〇歳をむかえたときも特になにも思わなかった自分だが、一九九八年というその節目は、かなりの頻度で意識してしまう。いってみれば、五歳くらいで物心がつき、中学受験のための勉強を経た自分の人生が、本当の意味で始まった年であるように思えるからだ。

埼玉の自宅から東京の学校まで通うのに、電車に乗っている時間が長かった。

時間つぶしのため、本を読むようになった。中学受験をしていた頃は、国語の試験で有利になるようなテキストばかり読まされていたが、中学に入ってから自分の興味のある本を読みまくった。記憶力は幼少時より良いほうだが、一九九八年に書店の店頭に並べられていた本の雰囲気をよく覚えている。三省堂書店神保町本店に置かれていた、北方謙三氏の『三国志』全巻セットのパッケージがなぜか強烈に頭に刻まれている。三日に一冊ほどのペースで本を読んでいたとはいえ、まだ家の本棚の収納スペースに余裕のあった当時の自分は、本をより多く所有したいという欲望も強かった。ちなみに、未だに『三国志』は読んでいない。読んでいないからこそ、高額

Profile

平成16年卒。高校在学中の「黒冷水」で第40回文藝賞を最年少(当時)となる17歳で受賞。2008年に発表した「走ル」で初めて芥川賞候補となつて以来、度々、候補にあがる。2015年、「スクラップ・アンド・ビルト」で第153回芥川賞を受賞。その後も精力的な執筆活動が続ける。近著に「5時過ぎランチ」。

Bibliographies



最新刊『5時過ぎランチ』
実業之日本社



『黒冷水』
河出書房新社



『隠し事』
河出書房新社

全巻セットへの憧れとともに、記憶されたのだろうか。

高校二年生で初めて小説を書いた。投稿した「黒冷水」という小説で、高校三年生時に第四〇回文藝賞という文学新人賞を受賞し、小説家デビューした。

簡単な面接だけ経て明治大学商学部商学科へ入学してしばらくは、読書量が少し減った。友人宅で夜な夜な遊んだり、恋に悩み音楽をたくさん聴くようになったりしたからだ。だが三年生になる頃には、読書量はそれまでの人生中で最も増えていた。本を読んで小説を書く度に、小説家としての自分の人生が前に進むような気がしたからだ。

一年半だけ会社勤めをし、その後中古マンションを買い専業小説家になった。学生兼業でも会社員兼業でもない、ただの小説家になった当初は、自分の時間を自分ですべてコントロールできることを喜んだが、やがて苦勞するようになった。日常には起伏がないと、小説の着想もわきにくいし、単純に人生がつまらない。通勤や通学のため朝と晩に移動するだけでも、気持ちを切り替える効果は大きかったのだと知った。

そんな自分がたまに気分転換できるのは、夜中に近所でランニングをしたり、映画を見たり、学生時代の友人たちと会うときだった。特に、人と会うのは大事だ。恋人がいない期間でも、友人たちは会ってくれる。たいして金を使わないような遊びや飲み会に、つきあってくれた。

二九歳で芥川賞を受賞して以降、がらっと忙しくなり、自分の生活は変わった。わざわざお祝いの会を友人たちが計画してくれたりしたが、忙しすぎて断った。我ながら、不義理なものである。それでも、一時は人間性が豹変したかのように傲慢な態度をとりもしていた僕に対し、友人たちは今も変わらず接してくれている。ありがたいことだ。

最近は忙しさも一段落つき、また友人たちと遊ぶようになった。特に中学時代からずっと明治で一緒だった人たちが、結婚して子供のいる生活がある程度軌道にのせたり、出世したりしたからか、皆に時間的な余裕ができた。とある友人たちとの集まりの中で最近、一緒に会社を作らないかという話をしている。ものすごく効率的に金儲けをしたいとか、世の中を変えるためのイノベーションを起こしたいとか、そういう雰囲気ではない。飲み屋で昔話をしたり、ゴルフを

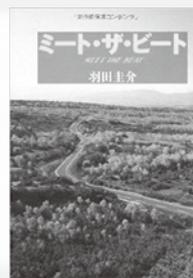
したりするより、もっと建設的な目的をにかけて集まりたい。そんな、文化祭的な雰囲気だ。一緒に集まってなにかをやる。それこそが、子供の頃から変わらない人生の楽しみなのかもしれない。



『「ワタクシハ」』
講談社



『御不浄バトル』
集英社



『ミート・ザ・ビート』
文藝春秋



『走ル』
河出書房新社



『不思議の国のペニス』
河出書房新社



『成功者K』
河出書房新社



『コンテキスト・オブ・ザ・デッド』
講談社



『スクラップ・アンド・ビルド』
文藝春秋



『メタモルフォシス』
新潮社



『盗まれた顔』
幻冬舎

明治高校OBが明治大学国際日本学部長に就任！ 鈴木賢志 学部長 インタビュー



1987年 明治大学付属明治高校卒業（昭和62年卒 明猿会）、1992年 東京大学法学部卒業後、株式会社富士総合研究所（現みずほ情報総研）（1992～1995年）、スウェーデン・ストックホルム商科大学欧州日本研究所（1997～2007年）、オックスフォード大学客員研究員（2007～2008年）を経て2008年4月より明治大学国際日本学部に赴任。2018年に学部長就任。

明治高校OBで明治大学国際日本学部長の鈴木賢志先生が、2018年に学部長に就任されました。高大連携事業で現役の明治高校生にも指導されているという鈴木先生に、国際日本学部のことや明治大学との再会、「ONE MEJI」について伺いました。

—大学HPの学部長メッセージに「フロンティア精神を持って、日本から世界へ、そして世界から日本へ、『日本と世界をつなぐ』力を育てる」とありますが、詳しくご説明いただけますか？

日本は国際化しなければいけないと言われながら、いまだに日本と世界を分ける傾向が大学の学部にはあります。だから、「世界に興味があって世界のことを学びたい」ということだけでは、いざ留学した学生が、現地で「おまえの住む日本はどうなってるんだ？」と聞かれて困ってしまう。これは、大人になって海外に赴任しても同じです。日本人が「日本どうだったんだっけ？」では困るのです。

そこで日本についての知識を持った上で世界に出ていき、日本が売り出せるようなものを世界に出していくことを考えてほしいのです。また、世界で起こっている色々なことが、日本という視点で見た時にどのように読み取れるのか、世界と日本を比較するとどうなのかという形で、日本と世界を繋げることが大切なのです。

ところで、リベラルアーツ（教養系）という学部を設置する大学が最近増えています。しかし、ただ教養というのは広すぎる。そこで「世界と日本」という軸を設けて学んでもらおう、というのが我々の考え方です。

—では、国際日本学部長は、どのような学生を育てたいとお考えですか？

学部の名前である「国際日本」は、学問分野を示すわけではありません。「日本から国際的に活躍するには何を学ばなければ自分で考えなさい。それに関係のあることを学びなさい。」というのが本学部のスタンスです。例えば日本のアニメが好きだからヨーロッパで広めたいという時に、学ばなければならないことは「日本のアニメについて」「世界の文化習慣」「ヨーロッパの情勢」「国際的なビジネス」などたくさんあります。これまでは、文学部や政治経済学部、経営学部などで部分的に学んでいたのですが、国際日本学部では、そういったものをすべて網羅して学ぶことができるのです。

つまり、本学部は今までの大学の学問で言われるような、大きな基礎を専門へと狭めていく学び方ではなく、さまざまな学問

の基礎を学び、それらを組み合わせること、その重なり部分を自分自身の専門として学びなさいという考え方をしています。—学生の成長や、入学時から方向性の変化といったものはよく見られるのですか？

留学に行つて変わる子は多いです。国際日本学部が実施しているデイズニーのインターンシップはご存知ですか？これはフロリダにあるデイズニーワールドとフロリダ州立大学とパートナーシップを組んで、異文化コミュニケーションの学習プログラムとして実施しています。フロリダ州立大学で理論的なことを教わった後に、デイズニーワールドで実際に働くのです。

もちろんすべて英語でやらなければならない上に、文化も違うので、同僚、上司、お客様から返ってくる答えも日本とは全然違います。そこでの体験、刺激を再度大学で整理、理解をしてプログラムは終了となります。帰って来た学生たちのモチベーションはとても高くなります。それまでは「英語ができる、だから海外に行きたい」ということだけだったのに、「まず自分は日本のことをよくわかっていない。その土台を固めた上で再び世界に出よう」となります。もちろん、そこで出会った人達とFacebookでのコミュニケーションを続けて再び会いに行ったり、将来的に世界と関わり続けたいという気持ちを持つようになります。

—この学部に向いている人はどんな人でしょうか？

将来何をしたいのか、まだ明確ではないけれども、自分にはいろいろな想像力があって、無理なんじゃないかなということでも挑戦したいという子に来てもらいたい。ただ「なんとなく世界に出たい」でも構いません。

「発信するために日本のことを詳しく学ぶためにはどうすれば良いのですか」

まずは日本のことを世界と比較して知りたいという考え方を持ってもらいたいです。たとえば漫画文化論を教えている先生は「自分が文学部で教えるとなれば違うアプローチで教えないといけないだろう」と言っています。国際日本学部で教えるからには、世界における漫画のウケ方が気になるし、その中で日本の特徴が何なのかを考える。漫画に焦点を当てつつ、常に世界との比較が頭の中にあるのです。このように、本学部ではある文化や社会システムが、なぜ日本で生み出されたのか、その意味や特徴を見出すことが大きなテーマとなっています。ただしその一方で、日本が絶対ではないことを知るのも大切なことです。

「日本が絶対と思う学生は多いのですか？」

生まれてからずっと日本に暮らしてれば、そこにあるものが絶対であると思うのは、何も不思議なことではありません。しかしみんながそうやって現状を容認するだけでは、社会は発展しません。

私は学生を毎年スウェーデンに連れて行

きますが、実はスウェーデンの若者の投票率は8割もあります。そこでうちの学生たちが、向こうの若者に「なんで投票行くの？」って聞くわけです。そうすると、向こうの子たちはきょとんとして「だって、法律が変われば一番長く影響を受けるのは俺たちじゃん。むしろ日本の若者はなぜ行かないの？」などと言われます。また、スウェーデンでは連続で5週間夏休みがとれるのですが、1人当たりのGDPは日本の1.5倍あります。そこで「どうしてそんなに休んでいるのに豊かなの？」と向こうの人に聞くと、「なんで日本人はそんなに働いているのにダメなの？」と聞かれてしまいます。そういった現場を見せてあげることが、世界には色々違うことがいっぱいあることがわかれば、世の中の見方が変わります。それが大事なことです。

「ここからは鈴木先輩ご自身のことを聞かせてください。まずは、ご自身は法学部出身でいらっしゃるのに、在学していた頃には無かった今の学問への変化について教えてください。」

外交官になりたいということとふと高校三年の1学期に思いつき、色々調べると、外交官になって出世するには、東京大学出身でないと厳しいと聞きました。そこで「だったら挑戦してみるか」という感じで明治大学への進学をやめました。しかし、外交官は結局本国の

出先機関でしかないことを聞き、志望を国家公務員に変えました。そして法学部の公法コースに進み、国家公務員試験に合格しました。実はその頃は「環境問題」が流行り始めた時期で、環境庁に行きたいと思っていたのですが、就活中にたまたま環境庁の職員の自殺に関するニュースを見て、自分が同じ立場になった時に対応できる自信を失ってしまいました。国家公務員は、政府の指示により動かなければならぬのは結局どこも同じであることが分かったので、政府の内部で働くのではなく、政府に対して外部から政策提言をするといった間接的に影響を与えていくという道が良いのではと考え、民間のシンクタンクへの就職を選びました。

「民間のシンクタンクを離れて研究者になった理由は？」

当時のシンクタンクは、出来たばかりだったので学部卒の自分でも採用してくれ



ました。でも、中に入ってみるとやはり博士号を持っている人が幅を利かせていて、僕が全部資料を作ってアイデアを出しても、客先に行く博士号を持っている人を見る。それが癪に障って、博士号を取ろうと思ったのですが、当時は国内に文系の大学院が無く、外に出ることにしました。当時はアジア連合のようなものを作ろうという考え方が始まった頃で、その先進事例としてEUを見ておこうと思ったのと、会社で3年くらいしか働いていないのでお金が無く、休職という形で自己負担の留学だったので、1年で修了できるイギリスを選びました。1年経って修士号を取った後、相変わらずお金は無かったのですが、さらに頑張れば2年間で博士課程を卒業できることを知り、それを狙って進学しました。指導教官の理解もあって、研究はどんどん進み、そんな感じでさらに1年が過ぎました。そんな折、イギリスに行く前からつきあっていた彼女が仕事を辞めたと言うので「それなら来いよ」と言っちゃったのです。しかし、そうは言ったもののお金が無いし、二人で寮に住めないし、と困り果てていた時に、たまたま指導教官に呼ばれて、教官の知り合いがスウェーデンのストックホルムにある日本研究所の所長になったが、日本の研究者がいなくて欲しい人がいることを聞きました。その条件が「給料が出せないけど、来てくれたらアパートはある(家賃タダ)」で、とにかく二人で住めるアパートが欲しかった私は、二つ返事で行くことに決めました。それがスウェーデンに行きたきっかけでした。

—イギリス留学時の研究ジャンルは何ですか？

修士課程ではヨーロッパの政治と政策について学び、博士課程では、日本人であるという強みを活かして、「日本とイギリスの経済政策の比較分析」で論文を書きました。

—では、現在に至る流れを教えてください。

まだまだ「たまたま」の話が続きますよ(笑)。

向こうで、奥さんと一緒に10年ほど生活して、「このまま永住かね」などと話していた矢先、突然学長に研究スタッフが全員呼ば出されて「お前らみんなクビ」と宣告されました。なんでも、母体の商科大学にとって日本の市場に魅力がなくなったから中国に変えろと。スウェーデンは、高福祉でセーフティネットがしっかりしているから、組織は結構簡単に人を切ります。実際の解雇日まで1年間の猶予があり就職活動をしていたところ、たまたまシンクタンク時代の上司が明治の政経学部で転職され、「明治大学が新しい学部を計画しているけれど、君が研究している内容と合っているんじゃないか」とのアドバイスをいただきました。こうして私は再び明治にお世話になることになったわけです。私の人生、全然計画的ではないのです。

—これまでの研究などは国際日本学部に生きているんじゃないですか？



そうですね。いい所にきたと思っただけです。学部ができたばかりで、この後どうしていくかはスタッフに委ねられていましたし、明治大学外から教員がたくさん移籍したこともあって、風通しが良く、新しいことがやりやすいです。また、他の学部との大きな違いとして、共通の学問分野の専門家の集まりではありません。その代わり、「ここで何を教えればいいのか」という意識が非常に強く共有されていると思っています。自分の専門をただ教えるのでは無く、それを世界で見てもどうなのかと考え、育成する人物像が共有されているという点で、よいまとまりができています。

—ここまで話を聞いてきて、相当な紆余曲折があると感じています。長期の目標設定ができない状況が多かったと感じるのです

が、いかがですか？

いつも与えられた場所で全力を尽くす事が大切だと思っただけです。これはいつも学生にも言っていることです。学生が進路を迷っているのを見てると滑稽に思えることがあります。それで残りの人生が全て決まるわけではないですよ。自分が大学生の時に、今の姿は全く想像していませんでしたから。

やはり、ある段階に上がった時に目の前の景色が変わることであるじゃないですか。それはその前には見えていないから、そこまで行かないとわかりませんよね。

—明治中学・高校で身につけたことで、現在も活きているなと思うことはありますか？

何を教わったかというところから言いたくはないんだけど、あえて言うなら、「世の中には理不尽なことがある」ということかな(笑)。

図書班にいたんだけど、昔はかなり変態的でした。なぜか応援団みたいだったですよ。集合練習をよくやっていたけど、あれは一体何だったんだろう(笑)。でも、ああいうことが自分の核になっているんだろうなと感ずることはありますよ。あと、何だろうと訳のわからないことを一生懸命やっていたよ。だから目の前の事をやりとげる馬力みたいなのはついた気がします。あとはやっぱり、校歌が3番まで染み付いているっていうことかな。大学の学部長になって色々な式典で、普通に3番まで歌えるのは、結構な優越感です。

—現役学生などを見て、今と昔で明治高校生が変わった所、変わらない所はありますか？

基本的に良い子が増えた印象がありますね。「良い子」には、ネガティブな要素もありますよ。もっとハチャメチャな感じがあったのも良かったよなという部分も。

でも、特にうちの学部には本当に良い子がいっぱい来てくれますよ。あと、女の子がいることで変わりましたよね。逆に、今でも昔の明治高校が残っているっていうものは何だろう。わからないなあ。教わった先生がぎりぎりいるのが辛うじての母校感かなあ。

—テーマであるONE MEET JIを感じる瞬間を教えてください。

やっぱり、校歌だね！校歌の3番まで歌った時の一体感たまらないです。音楽って大きいと思いますよ。

45才のとき幹事やって、しよっちゅう校歌を歌って、正直気恥ずかしいこともあったけれど、とても良かったと思っています。

温厚な人柄が全体からにじみ出ている鈴木先生。ただし、自分の置かれた状況を常に俯瞰しつつ、確固たる意志を持って努力、行動し続ける姿勢が非常に印象に残りました。明治高校で高校生に授業をされる時、明治大学国際日本学部希望者が激増してしまうというのにも頷けます。これからも、意思を持ったしなやかなグローバル人材の育成に尽力されることでしょうか。

公認会計士試験に 卒業生10名が現役合格！ 付属高校ならではの強みと大学との関係性



深沢真美さん

関根正人先生

内堀太朗さん

国家資格の中でも最難関のひとつとされる、公認会計士試験。2017年に行われたこの試験に、明高卒業生10名が大学在学中に現役合格するという吉報がありました。08年に調布へ移転、男女共学となつてから18年で10年。明治高校は、付属高校であることの強みを活かし、大学との関係性を深めながら、さらなる進化を続けているようです。

現役合格者、18年10名、17年も7名！

以前は、付属高校はエスカレーター式とか温室育ちで楽をしている、といった声を数多く聞きました。一方で、大学受験が無いため勉強以外の活動に多くの時間を取れることは、今も昔も変わっていません。では、なぜ最近になって公認会計士の現役合格者が増加しているのか。10名のうちのひとり、神藤優介さん(政経学部)は、大学3年次に全国1位の成績で公認会計士試験に合格しています。単に、頭の良い生徒が増えたのでしょうか。その背景には、「進路指導」から「高大連携」と改組した校務分掌、自由な時間をどう過ごすか、そして部活の先輩との関係性にヒントが隠されています。

注目される付属高校の強みとは

その昔、生徒の学部選択には進路指導主任と呼ばれる先生が携わっていました。現在は、大学に付属する高校として、進学する明治大学とどう連携するかという点がより意識されるようになり、高大連携主任というポジションとなりました。高大連携主任として5年目になる数学科関根正人先生は、「早い時期に将来の可能性や選択肢を示し、考えるための情報を与え、自分で判断できる仕組みを作ることが重要で、そのために大学と連携できることは、付属高校の最大の強みだ」と言います。

高大連携の具体的な活動は、大きくは3つあります。1つは、スプリングセミナー・サマーセミナーと呼ばれるもので、春休みと夏休みを利用して、簿記3級・2級、裁判傍聴、模擬裁判、英語S&W、各種理科実験、プログラミングやAITツールの体験など多くの講座が開設されています。次にキャリアアクト講座。18年から始まった新しい行事ですが、各回でテーマを決めて関係するエキスパート職の人から話を聞き、将来のキャリア形成のヒントを与える場となっています。6月には留学をテーマに明治大学の先生と卒業生が講演しました。3つ目が高大連携講座で、高校2年生から始まり、毎週水曜日の5、6時間目に正規の単位として、各学部の先生が学部の紹介を意識した授業を行います。高校2年生は全員参加型で、1年間の授業で明治大学10学部の授業を各2回ずつ受けることになりました。

このような仕組みのおかげで、生徒たちは

は受験がないことで恵まれた自由な時間を使つて、以前よりもより深く将来について考え、判断することが出来ます。これこそ、大学に付属する高校の最大の強みと言えます。

なお、熟考した結果、どうしても他大学も受験したいと希望する人のために、以前には無かった私立大学の併願が2年前に許可(学部ごとに付帯条件がある)され、国立を含む全ての大学への進学が可能になったことも、生徒の選択肢を増やすことにつながっています。

最後のポイントとして、「部活における先輩の役割は大きい」と関根先生は指摘します。身近な先輩からいただくアドバイスは、生徒にとつても素直に受け入れやすく、先輩がアドバイスした講座やイベントへの参加者は、部活単位で継続しているものも見られるそうです。これも、受験を意識しないで部活動に集中し、結果として先輩との強い絆を築くことのできる付属高校の特徴かもしれません。

《合格者の声を聞く》

今回、公認会計士試験に現役合格された内堀太朗さん、深沢真美さんにお話を伺いました。内堀さんは大学入学後に経理研に入室し、経営学部3年次で合格、現在は経理研の学生幹事をされています。一方の深沢さんは、高校3年生より経理研に早期(飛び級)入室し、商学部2年次で合格されました。

—公認会計士試験を受験しようと考えたタイミングときっかけは？

内堀 簿記の資格取得を目指して、大学1年生の6月に経理研の簿記講座に申し込みました。申し込んだ時点では、簿記講座の趣旨が簿記の

勉強だけでなく、あくまで公認会計士を目指すための講座であることを知りませんでした。講座の流れに沿って受講しているうちに、気づいたら公認会計士の勉強を始めていたという感じです。

そもそも簿記講座に申し込んだのは、私と同じ時期に全国1位で公認会計士試験に合格した同級生の神藤優介君に誘われたことがきっかけで、高校の時点では、簿記とか会計士に興味は全くありませんでした。

—高校のときに、きつくなったような出来事がありますか？

内堀 高校のときに成績があまり良くない、大学推薦のために先生から簿記資格の取得を勧められました。そこで高校3年生の夏、硬式野球部の引退後に、大学と連携して行っているサマーセミナーに申し込んだことがきっかけになり、高校卒業までに簿記3級に合格しました。すでに3級までの勉強が終わっていたので、経理研の通常のプロセスでは大学1年生4月開始の簿記



3級講座からの参加になるところ、同年6月開始の簿記2級の講座からの参加に間に合いました。

深沢 私は高校3年生の春に公認会計士を目指しはじめました。

高校2年生で部活の幹部学年が終了したため、高校3年生は時間的余裕がありました。この自由な

1年を有効活用したいと思い、将来について考えたことがきっかけです。まずは知識を得ようと思い、高校の図書館で様々な職業に関する本を読むことから始めました。たまたま読んだ本の中に公認会計士の本があり、そこに「会計は第2の言語である」と書かれていました。私はこの言葉に強く惹かれました。当時、私はESS部に所属するくらい英語が好きで、英語に会計という言語を組み合わせるにより、シナジー効果が生まれるのではと考えました。

—経理研を知ったのは？

深沢 高校の担任の先生との面談で、高大連携について知りました。そして、高大連携担当の関根先生から経理研の話聞き、高校2年生から経理研に早期入室という形で参加しました。

—経理研に入って、良かったと感じた点を具体的に教えてください。

内堀 一番に思うことは、仲間です。会計士の勉強期間は長く、みんなが楽しく大学

生活を過ごしている一方、一日中勉強するような状況で、一緒に勉強する仲間がいたことはとても良かったと思います。勉強期間中、息抜きのため食事に行ったりもしました。合格後も、みんなで旅行に行くなど、良い友人関係を築けたと思います。

深沢 仲間と環境です。私は簿記2級を勉強し終えた直後、会計士の勉強を始めました。私が勉強を始めたとき本科コースの先輩方はすでに1級の勉強を終えていて、簿記の習熟度合いに差がありました。先輩方がすらすらと問題を解いていくなか、私は授業についていくのが精一杯で、落ち込むことも多かったです。そんなとき、私を支えてくれたのは経理研の仲間たちでした。

周囲の先輩や仲間が励まし、勉強を教えてくださいました。その1年半で会計士試験に合格することができました。特に1位をとった神藤先輩や最年少合格を成し遂げた高橋さんは灯台のような存在で、非常に大きな影響を受けました。

—付属高校のメリットについて、どのように考えますか？

深沢 会計士試験に関していうのなら、早いうちに勉強を始めたことがメリットだと思います。自分は大学卒業までには試験に合格したいと考えていました。早く勉強を始めたことで、時間的・精神的余裕を持つことができました。

会計士試験に限らない部分なら「好きなことを追求できる環境」がメリットだと考えています。大学受験があると、受験に出るところを授業でも優先的に勉強すると思

います。しかし明治高校の先生は受験上の優先度に縛られず、学問として面白いことをたくさん教えてくださいました。私は高校時代、授業を通して様々なことに興味を持ち知識の幅を広げることができました。その知識は大学の授業を深く理解する際にも役立ちました。物事を深く考え人生を充実させるための時間であったと、先生方にはとても感謝しています。

内堀 ここでもやはり仲間だと思います。経理研にも仲間はいますが、付属の仲間には優秀でした。そのような優秀な仲間と経理研に入ったときから共に勉強ができたことは、とても良かったと思います。

—実際に資格を取得した現在、将来どんな会計士になりたいと考えていますか？また、明治高校出身であることで、どのような将来に対する考え方について何か影響がありますか？

深沢 まずは監査法人で監査の経験を積みたいと考えています。クライアントに信頼され、選ばれる会計士になることが目標です。そのためには、大学在学中は勉強に励みたいと思っています。足りないところが多くありますが、将来はしっかりと価値を提供できる人間になりたいです。明治高校出身であることは、確かに私に影響を与えていると思います。やはり良い先生に出会えたこと、将来について考える時間を沢山持てたことが大きかったですね。

内堀 まずは、内定をいただいている監査法人の中で精一杯頑張ること。その先の将来像については、まだ明確になっていません

公認会計士試験に 卒業生10名が現役合格!

ん。明治高校出身で良かったと思うのは、試験に合格した後、高校に挨拶に行った際、野球部顧問の前島先生とお会いする機会がありました。その際、「野球部出身の公認会計士の方とお会いする機会が無い」という話をしたところ、前島先生がそのような機会を作っていたら、野球部出身の公認会計士の方と会うことができました。前島先生は、他にも同じタイミングで合格したバスケ部出身者のために、バスケ部出身の会計士の方とのセッティングをしてくれました。

先輩の会計士から様々なお話を聞くことで、会計士の資格を活かせる様々な選択肢を探っていきたいと考えています。

「同じ進路を志す先輩に向けて、高校在学中にこの様な事をやって役立った! もしくはこの様な事をやってあげ良かった!」ということがあれば教えて下さい。

内堀 私は、高3年生で野球部を引退した後、思いっきり遊びました。経理研に入ってから、大学2年生で合格している人を見ると、高校のときから勉強を始めるメリットも分かるのですが、私の場合、高3年生で思いっきり遊びに時間を使ったことで、勉強期間中に後悔が無かったと思います。

「ぜひがんばりましょう、引退後



とつたと感じます。明治高校出身者は応援歌・校歌を何も見なくても揚々と歌えますから。すごいことだな、一緒に歌っていて楽しいな、と思っています。また、「明治はひとつ」という概念は明治高校出身者が持っている共通のものだと思っています。母校が同じということは、世

代を超えた共通言語を持っているということなのではないでしょうか。

内堀 私が明治はひとつと聞いて思い浮かぶのは、合格した後にある経理研の簿記講座の手伝いをするときです。同じ手伝いでも、一般的な簿記講座より明治高校の簿記講座の手伝いのほうが人選が早く決まります。みんな無意識に母校を優先する、愛校心みたいなイメージです。

変わらないもの

今回の取材は、いくつかある大学の経理研の施設のうち、明治高校の旧校舎(現在は明治大学猿楽町校舎)の中にある施設で行いました。卒業して27年ぶりに旧校舎へ足を踏み入れたのですが、教室のほとんどが大学の施設として姿を変えている中、渡り廊下や階段は卒業当時から全く変わっていませんでした。階段のように古いままで同じ役割や価値を出せるものあれば、新たな価値を見出すために時代やニーズに合わせて変える必要があるものを、校舎全



旧校舎にある経理研自習室。ブースタイプのデスクは、特に成績の優秀な学生だけが利用できる

の高校3年生は。内堀 今振り返っても、それで良かったと思っています。深沢 実は私も、思い切り遊ぶということに賛成です! 正確にいうなら、思い切り何かに取り組む、全力を出すということに賛成です。高校時代は一度しかない、かけがえのないものですから。卒業すると実感するんです。あの頃は本当に楽しい、貴重な時間だったんだなあって。なので先輩たちにはぜひ、遊びでも勉強でも趣味でも、全力で取り組んでもらいたいと思っています。私は何事ものんびりしていたので、もっと全力で高校生活を謳歌すればよかったなと思っています。

最後に、今回の総明会のテーマである、「ONE MEET JUS 明治はひとつ」を聞いて、こういう時に感じる、またはイメージすることがあれば教えて下さい。

深沢 スポーツを応援するとき、明治はひとつだと感じます。明治高校出身者は応援歌・校歌を何も見なくても揚々と歌えますから。すごいことだな、一緒に歌っていて楽しいな、と思っています。また、「明治はひとつ」という概念は明治高校出身者が持っている共通のものだと思っています。母校が同じということは、世



旧校舎階段。おそらく竣工当時から変わっていない旧校舎階段。

体で教えてくれているような気がしました。最近では、国家試験合格者だけでなく、羽田圭介さんのような芥川賞作家も誕生するなど、明治高校の卒業生の中に、目覚ましい活躍をされている方も多くなっています。それらは、明治中学・高校および大学の先生方が力を合わせ、時代に合わせようとしてきた数多くの挑戦や改革の成果なのかもしれません。

一方で、明治愛を感じる瞬間について、先の合格者2名もほとんどの先輩と同じように、先輩とのつながりや応援する時、校歌を歌う時と答えており、何十年も前から変わっていません。明治高校で培われた明治愛は、いつの時代もひとつ(共通)であり、まるで旧校舎の階段のようにずっと変わらず、これからも私達卒業生の心の中で生き続けていくのです。

吹奏楽班御用達の店

居酒屋



Tel. 03-3208-9772

東京都新宿区歌舞伎町1-2-9
シタディーン セントラル新宿東京 地下1階
<http://www.taruichi.co.jp>

祝 第54回総明会 総会・懇親会

吹奏楽班OB・OG会

会長 斉木 麻州男
(昭和56年卒)

祝 第五十四回総明会総会・懇親会

図書班 OB・OG会

連絡先 平田 幸彦
TEL: 03-3589-0687
連絡先 大西 静士郎
TEL: 090-2243-2135

祝 第54回 総明会総会・懇親会

明治大学附属明治高等学校 応援団OB会

本年、応援団は結成70周年、チアリーディング部創部10周年を迎えることができました。

会長 廣野 宏士 (昭和47年卒)

副会長 三森 勳 (昭和50年卒) 鈴木 重之 (昭和60年卒) 春山 愛美 (平成23年卒)

幹事長 光岡 孝之 (昭和63年卒) 副幹事長 今井 高志 (平成5年卒)

見 心 会

明治高校剣道部OB・OG会

会長 矢光 善美 幹事長 木村 茂
副会長 中島 健一 会計 羽田 郁雄
副会長 鈴木 幸男 監督 小川 雅之

明治中学・高校水泳部OB会

明水会

会長 高橋 直哉 (S51年卒)

明治高校バスケットボール部 OB・OG会

バスケットもつやりたくない？
バスケットボール部OB・OG会 チーム結成!!
今年もOB・OGによるチームで千代田区の大会に参加いたします。



明治のバスケットでジャパン目指そうぜ!

参加希望の方はOB・OG会 副会長 山下康彦までご連絡ください。
yayamash@gmail.com

明治高校バスケットボール部ホームページにて
現役の試合速報やOB・OG会の活動を
リアルタイムで発信中!



祝 第54回総明会総会・懇親会
チャレンジ明仁会

明治高校庭球部OB・OG会

会長 鈴木 信夫 (昭和47年卒)

祝 第54回総明会総会

明治中学校・高等学校卓球部OB会

〈明卓 OB会〉

会長 佐藤 信征 (昭和39年卒)

祝 第54回総明会総会・懇親会

地理研究部OB・OG会

地理研究部は今年創部70周年を迎えました!

2018年11月11日(日)、明治大学駿河台キャンパス紫紺館にて、総会・懇親会を開催します。
OB・OGの皆様、ぜひご参加ください。

連絡先: mgc_matsuura@yahoo.co.jp (事務局・松浦)

小坂法律事務所
 弁護士
小坂嘉幸
 昭和34年卒
 〒110-0005
 東京都台東区上野3-21-1
 宮本ビル4F
 TEL. 03-3831-6032
 FAX. 03-3831-6037

川口明高会 (創立 昭和53年)



川口明高会旗

初代会長	大熊康浩	二九卒
二代目会長	目良昇	三一卒
三代目会長	久松勇	三三卒
四代会長	天野洋一	三五卒
五代目会長	荻野布昌	四〇卒
六代会長	石井次男	四三卒
七代会長	由本俊昭	四五卒
八代会長	土屋悌一郎	四八卒
【事務局】		
川口市峯30714		
石井君忠	五七卒	
048129413780		

細田木材工業株式会社
 代表取締役社長
細田悌治
 (昭和35年卒/珊瑚の会)
 〒136-0082
 東京都江東区新木場 2-5-3
 TEL.03-3521-8701 FAX.03-3521-8708
 e-mail t-h39@woody-art-hosoda.co.jp
 http://www.woody-art-hosoda.co.jp/

祝54回 総明会総会・懇親会



MEIJI
 UNIVERSITY GOLF CLUB
 明治大学体育会ゴルフ部
<http://www.meijigolf.com/>

監督 **榎本剛之**
 (平成2年卒)
 有限会社サンウッド
 TEL. 044-555-7016

昭和37年卒
 新麹町法律事務所
 弁護士 **福島啓充**
 〒102-0083
 千代田区麹町3-7-4秩父屋ビル5階
 TEL.03-3234-0511
 FAX.03-3234-0510



Make the most of being away.

HYATT REGENCY TOKYO

ハイアットリージェンシー 東京
 160 0023 東京都新宿区西新宿2-7-2 T 03 3348 1234
 The HYATT trademark and related marks are trademarks of Hyatt Corporation or its affiliates.
 ©2018 Hyatt Corporation. All rights reserved.

(株)グローバル インシュアランス
 保険総合コンサルタント
 代表取締役
若松弘昌
 (昭和39年卒 明雪会)
 〒141-0031 品川区西五反田2-9-7
 ドルミ五反田アンメゾン1001号
 TEL. 03-3491-0900
 FAX. 03-3491-0934

昭和40年卒 明優会
 マンドリンクラブ
 JRC
 (株)アドバンス
 代表取締役
大塚清和
 浦安市猫実4-6-28 1101
 TEL. 047-355-6633(代)

凸版印刷は、東京2020大会を応援しています。



TOKYO 2020

TOPPAN



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

東京2020オフィシャルパートナー(印刷サービス)

昭和38年卒 二年に一会
石野 隆 水泳部OB
 イタリアン
トラットリア リンシエメ
 03-6264-8253
 東京都中央区東日本橋 3-9-2
 サンクビル 1F

小林 義典 (昭和53年卒) 笠原 謙介 (昭和58年卒) 山本 伸幸 (昭和60年卒) 永井 聡 (昭和63年卒)
 定谷 正春 (平成元年卒) 今泉 仁 (平成2年卒) 山本 洋貴 (平成5年卒) 水野 泰博 (平成8年卒)
 竹村 圭史 (平成12年卒) 木村 啓 (平成15年卒) 新藤 良亮 (平成18年卒) 川村 実穂 (平成23年卒)
 中島 多朗 (平成26年卒)

凸版印刷株式会社 〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1番地 www.toppan.co.jp

昭和四十三年卒
竹川忠芳法律事務所
弁護士
竹川忠芳
〒105-0003
東京都港区西新橋一丁目13番
虎ノ門法曹ビル四〇八
電話 〇三三三五〇四一三〇八
FAX 〇三三三五〇四一三〇七

omori 大正13年創業。ご要望の建築資材を、タイムリーに。
オオモリ・マテリクスは、お客様に「信頼」をお届けしています。
株式会社オオモリ・マテリクス
代表取締役 大森清嗣(長男 大森貴之 平成21年卒 野球部OB)
本社 〒101-0023 東京都千代田区神田松永町18番
TEL 03-3253-9411 FAX 03-3253-9418
営業本部 〒135-0053 東京都江東区辰巳2丁目3番1号
TEL 03-5534-7700 FAX 03-5534-7708




紫讃会
川口明高会
石井次男

ダイレクトメール 印刷物・商品等梱包発送代行一式
株式会社 TCS
Tokyo Carry Service
本社 〒136-0071 東京都江東区亀戸1丁目42番18号
TEL:03-3636-2681(代)
FAX:03-3636-2684
URL:http://www.tcs-tokyo.com



明高野球部を甲子園に送る会
会長 山浦 晟暉
(株)東京フジカラー 代表取締役
(昭和29年卒)

祝54回 総明会 総会・懇親会 **GRIFFINS**
明高出身 明治大学体育会
アメリカンフットボール部OB有志
村嶋 健児
(H元年卒 「平成改元会」 硬式野球部)
嶋田 剛久
(H元年卒 「平成改元会」 吹奏楽班)



紫讃会
堀内 繁
(昭和43年卒)
機械式時計専門店
株式会社ティーエス・ホリウチ
TEL.03-3831-9733
FAX.03-3831-9734
http://www.ts-horiuchi.jp/

建設・不動産駿台会 有志一同
稲垣 秀明 昭和44年卒 榎本 剛之 平成2年卒
宮下 守正 昭和49年卒 大久保俊治 平成3年卒
藤井 貴大 昭和49年卒 浅倉 太明 平成3年卒
鈴木 重之 昭和60年卒 富沢 康弘 平成3年卒
篠田 守建 平成元年卒 鈴木 章浩 平成9年卒



株式会社 宮本卯之助商店
創業 文久元年
宮本卯之助
(昭和35年卒業)
〒111-0035 (西浅草店)
東京都台東区西浅草2-1-1
TEL 03-3844-2141
FAX 03-3844-6730



昭和34年卒 明高野球部OB
丸キユ-株式会社
代表取締役会長
宮澤 政信
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀 2-4
TEL:048-728-0909 FAX:048-728-3909
ホームページアドレス http://www.marukyu.com/



金魚の吉田
老舗 創業文政二年
(株)ヨシダ
37年卒 吉田 信行 38年卒 増田 利明
〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩 5丁目14番7号
TEL 03-3694-3751 FAX 03-3694-3753



加藤一也税理士事務所

所長税理士

加藤一也
(昭和39年卒)

公認会計士・税理士

加藤康正

税理士

藤田

江

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-25-8 第2扇屋ビル TEL. 03-3910-8683 FAX. 03-3910-8441

中華料理
水新菜館
寺田規行
(昭和四十三年卒 紫讃会)
東京都台東区浅草橋二丁目一番一
TEL〇三(三六六一)〇五七七番

(有)本間製菓店

本間修

(昭和43年卒 紫讃会)

〒135-0004
東京都江東区森下2-17-2
電話: 03-3631-6064
FAX: 03-3631-6129

株式会社 シティ・ハウジング

代表取締役 佐藤 仁 (昭和39年卒 三九会・一一七会)

本社 東京都大田区西糀谷4-28-18
TEL 03-3742-7177 FAX 03-5705-8097
糀谷本店・京急蒲田店・蒲田東口店・蒲田西口店
大森駅前店・大森店・大井町店・雪が谷店

JY 上陽テクノ株式会社

代表取締役

阿部 正行 (昭和40年卒)

千代田区外神田6-10-11
TEL. 03-3834-1329

昭和40年卒

明優会

会長 大関清人

事務局 坪田達夫 TEL03-3947-2431

スコッチのシングルモルトとカクテル中心のお店です。赤坂 オールドタイム



横瀬 昭夫 (昭和42年卒 M41)

東京都港区赤坂5-1-37 SDビル1F TEL. 03-5563-9606

オフィスのAからZまで

エーゼット株式会社

服部 洋一 昭41年卒

服部 雄二 昭44年卒

〒101-0025 千代田区神田佐久間町4-22
TEL 03-3865-9577 FAX 03-3865-1162



総明会 顧問
昭和44年卒 男坂倶楽部

ミートショップセキヤ

株式会社関谷商店

代表取締役社長 関谷芳久

<http://www.1129sekiya.com>

足立区西新井栄町3-8-5 TEL.03-3886-3318 FAX.03-3886-5803

昭和43年卒 紫讃会

明治大学体育会ゴルフ部 白雲会 会長

小田嶋 保男

東京都足立区中央本町4-24-8

昭和四十四年卒
味処・酒処 す吾六
家中 勉
〒113-0001
墨田区緑四一九一
電話〇三三三六三三三三三三三三三三

祝 第54回総明会総会

明治高校
昭和43年卒
同期会

紫讃会

昭和四十四年卒
弁護士
田中等
丸の内南法律事務所
〒100-0005
千代田区丸の内二丁目三
丸の内仲通りビル七二七
TEL:03-3111-5151
FAX:03-3111-6040

 **肉の田じま**
f 肉の田じま Q
<http://www.nikunotajima.com>
ネット通販・全国へ配送承ります。
〒135-0011 東京都江東区扇橋 1-4-1
Tel. 03-3647-2984 Fax.03-3699-7229

代表取締役社長 **田島 実**
昭和44年卒 男坂倶楽部

3階 すき焼き・しゃぶしゃぶ・ステーキ Tel. 03-3699-5529 営業時間:17~22時 定休日:月(祭日の場合は翌日)
2階 焼肉 Tel. 03-3699-8929 営業時間:11~23時 定休日:月(祭日の場合は翌日)
1階 ミート&デリカ Tel. 03-3649-4419 営業時間:10~19時 定休日:日・祝日

マイケル&マック
鍼灸・中医学・東洋医学・
脈診・漢方・均整法
千葉県市川市北方2-2-10
TEL&FAX 047-336-0763
HP:<http://michaelmac.jp>
鍼醫 **松本 明久**
昭和44年卒 男坂倶楽部

より良き住まいのために
ワイシー企画 株式会社
取締役会長 **藁谷 豊**
昭和44年卒
男坂倶楽部

建物のリフォーム・
新築の設計・施工

〒359-0007 埼玉県所沢市北岩岡263-1
TEL. 04-2990-5111 FAX. 04-2990-5005
e-mail: yutaka0912@ah.wakwak.com

花や鉢物のお届けします。
昭和45年卒
株式会社
ポトマックガーデン
代表取締役
平田 幸彦
〒107-0052
東京都港区赤坂7-8-13
TEL 03-3589-0687
FAX 03-3583-9423

祝 第54回総明会総会
昭和45年卒
獅子の会
【獅子の会 ホームページをご覧ください】
<http://www.44nokai.com/>

WIN WIN STYLE
堀 眞壽 (昭和46年卒)
株式会社 インターブランニング
〒135-0003 東京都江東区猿江 1-2-9
TEL : 03-5600-3388
<http://www.winwinstyle.com>

昭和46年卒
(株)ハナワトランスポート
代表取締役社長
埴 直樹
中央区日本橋箱崎町12-2

株式会社
ライトハウス・コミュニケーションズ
代表取締役
齊藤 公義
k-saito@lighthouse.com.co.jp
昭和46年卒「明潮会」
〒135-0048
東京都江東区門前仲町1-10-9 ハウゼ小幡503
TEL. 03-5809-8648 FAX. 03-5809-8649
H.P. 090-3332-8807

喫茶ペガサス
後藤義明 S45
フェンシング部
Clarion
後藤勇三 S50
硬式野球部

登録商標
お城
森八

お城 森八
銘菓
大粒栗入り最中
大粒栗入り饅頭
(株)森八本舗
HP: morihati.co.jp
〒130-0002 東京都墨田区業平1-3-6
TEL: 03-3622-0006 FAX: 03-3622-8584

夫婦二人でサービス精神と
元気を売りにしています。
蛇の目寿司
昭和45年卒 獅子の会
硬式野球部
河田 勇
東京都中央区東日本橋3-10-13
TEL 03-3661-8536

おきよ
割烹・小料理 **魚崑代**
昭和45年卒 獅子の会
中野 和博
(バスケット)
ランチ11:30~13:30(平日のみ)
夜17:00~22:00(水曜定休)
☎ 03-3619-0585
📍 東京都墨田区東向島5-26-2

祝 第54回 総明会
四七四七同志酔会
昭和47年卒一同

祝 第54回 総明会 総会
昭和46年卒
明潮会
白雲なびく・紫紺魂

平成30年度 学校報告

SCHOOL REPORT



紫紺祭

平成29年9月23日～24日

文 山口 一郎
平成30年卒

校舎移転や男女共学化によって、ある一定の年齢以上の卒業生（筆者の世代も含む）の中には「母校という感じがしない（もしくは薄くなった）」と考える方もいるだろう。しかし、いろいろな変化があったとしても、過去も現在も、そして未来も変わらないだろうと思われるのが「紫紺祭」という名称だ。

校舎移転・共学化後、記念すべきちょうど10回目となる紫紺祭は今年も多くの来校者を迎えて、盛況のうちに開催された。整備された校庭、快適そうな校舎、そして楽しい活動する男女生徒の姿は、ことさら「移転から〇年を経て〜」などということわりを必要としないくらい、西調布の地に馴染んでみえる。

各教室では班や文化部・運動部さらには有志団体の活動報告が展示され、その合

間にはこちらも多く多くの観客を集めて吹奏楽班やマンドリン部の演奏会が行われた。そして何と言っても、両日ともにクライマックスとなるのは、昔も今も変わらず応援指導班による舞台である。応援団・チャリディング部そして吹奏楽班が一体となって送る数々の応援歌に大きな声援が飛び交う、これも例年のことだ。そして最後は

もちろん校歌。一緒になって3番まで歌えば、今年の幹事学年のテーマである「ON E M E I J I 明治はひとつ」を体感できることは間違いなし。明治高校の卒業生であったことを幸せに思えるひと時代。「なんとなく縁がなくて…」と、まだ現校舎を訪れたことのない卒業生にも是非、来年の紫紺祭への来訪をお勧めしたい。そこにあるのは紛うことのない私達の明治高校なのだから。



吹奏楽班

第59回定期演奏会

平成30年1月28日

平成30年卒
文石神 鈴音

平成30年1月28日(日)、第59回定期演奏会が昭和女子大学人見記念講堂で行われました。お忙しい中、多くの方にお越しいただき、私たち高校3年生は最高の舞台で引退することができました。ありがとうございました。

演奏会に向けて準備してきた時間は長かったように感じましたが、本番はあつという間に過ぎてしまいました。終盤に近づくにつれ、もうこのメンバーと、鈴木正人先生と、音楽を届けることはないと考えてと寂しくなりました。

引退から半年が経ち、当たり前だった吹奏楽演奏の毎日が過去となった先日、コンクールのお手伝いに行きました。リハーサル室での緊張感や、結果発表のときの後輩達の笑顔を見てあの空間が懐かしくなりました。きっと次の定期演奏会が訪れてもまた懐かしくなるのだと思います。これほど心を動かされる経験ができた自分はとても幸せだったのだと気付きました。月日を重ねていくう



ちに、当時は抱くことのなかった新たな感情に出会うことができます。

私は今まで6回定期演奏会を経験してきました。この1月のラストステージだけでなく、先輩を送り出したこれまでの演奏会も深く心に刻まれております。この先は後輩達の引退を見届ける演奏会になります。それも含めて全ての定期演奏会が私にとって大切な宝物になるはずです。それはきつとたくさんの方々の思いが詰まっているからだと思えます。多くの方々に支えられて、そして班員みんなの努力があるからだと思います。このような環境にいた自分は本当に恵まれていたということを感じました。

最後に定期演奏会の開催にあたり、日頃よりお世話になってる先生方、保護者の皆様、OB・OGの皆様、支えてくださった方々に感謝を申し上げます。これからも、明治高校吹奏楽班への応援を宜しくお願い致します。

マンドリン部

第59回定期演奏会

平成30年2月4日

平成3年卒
文山室 繁央



せていただきました。

後半は久保田孝先生の指揮による演奏でした。やはり先生の指揮があることで引き締まった演奏になり、アンサンブルとはひと味違う演奏を聞かせてくれました。マンドリン界の第一人者であり、本校のOBでもある久保田先生に長きにわたり変わらずご指導いただいていることのありがたさを改めて感じました。人に感銘を与えるに値する素晴らしい演奏だったと思います。

これからもより多くの方々にマンドリンの美しい音色を届け、皆さんに愛される明治高校マンドリン部となるよう益々の発展を願っております。また、マンドリンを知らない調布の皆さんにも喜んで聞いていただくことで、地元にも愛されるような部になっただけだと思います。

今回は久しぶりに同期も集まり、先輩や後輩とも一緒に聞かせていただき、終演後は一緒に交流する場を持つこともできました。世代を超えた交流ができるこのような機会を作ってくれたことにも心より感謝しております。ありがとうございました。

平成30年2月4日(日)、調布市文化会館たづくり「くすのきホール」にて第59回定期演奏会が開催されました。マンドリンのオリジナル曲を中心としたクラシックスタイルの演奏会で、以前から変わらない厳粛な雰囲気の中での開演でした。人数は少し寂しくなりましたが、前半は指揮者のいないアンサンブル形式での演奏でしたが、日頃の練習の成果でしょう、ぴったりと息のあったアンサンブルで学生らしい生き生きとした演奏を聞か

応援団

第8回紫紺の下に

平成29年12月22日

平成2年卒
文 深井 重男

野球応援に行けば、炎天下に選手へ声援を送り続け、スタンド全体をリードする。吹奏楽班の演奏会があれば、ポップスステージの司会・進行を快くサポートしてくれる。紫紺祭では、明治伝統の応援歌や校歌を全来場者に披露紹介してくれる。応援団は、いつも決して主役ではない。言わば影の存在だ。

そんな彼女らがスポットライトを浴びるステージが、この「紫紺の下に」である。確か東日本大震災の直前に第1回が開催されたかと記憶しているが、今年で第8回を数え、年々内容も充実してきている。

第一部は吹奏楽班がポピュラー音楽を中心に花を添える。第二部はチャアリーディング部が各学年毎に趣向を凝らした企画・演出、華やかな照明で日頃の成果を披露。回を重ねて技術的な進歩を感じる。そしていよいよ第三部はリーダー部の登場。



平成30年6月19日

創立100周年教育振興プログラム

「第6回イングリッシュ・プレゼンテーション」開催

平成3年卒
文 岩間 潤

「すべきた」といった複数のテーマの中から一つを選び、『賛成』『反対』のいずれかの立場で自分の意見を述べる原稿を、英語と日本語両方で作らなければならないということで、現在の英語力向上にも役立つというようです。また、年々レベルが上がってきていて、充実したものとなっています。

予選出場の38名から選抜されたという8名の中の優勝者は、「サービスマーニグ」という教育プログラムのプレゼンテーションを行った高校3年生の古瀬さんで、2位と3位は高校2年生となりました。

入賞者全員に海外文化体験プログラム参加の資格が与えられ、「鶴澤総明教育振興・奨学金プログラム」より奨学金が支給されるとのことです。



今年6回目を迎えるイングリッシュ・プレゼンテーションは、毎年6月に鶴澤総明ホールで行われており、当日は8人がプレゼンテーションを行いました。当日の審査員は、明治大学のネイティブの先生方で、発表の後には英語による質疑応答もあります。

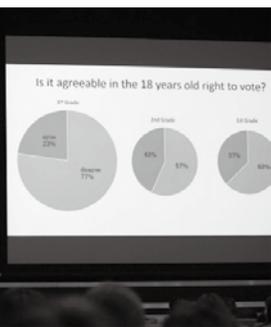
このプログラムは高校2・3年生全員が「男女は別学にすべきだ」「明治高校は給食制度を作るべきだ」「18才を大人とみな

私が中学・高校時代は、東京六大学附属高等学校応援団連盟の「六旗の集い」という行事が開催されていた。自分も真つ暗なステージで校歌・応援歌を吹いていたが、その時の何とも言えない緊張感、張り詰めた空気を思い出す。

客席からは分らないが、暗闇の中でスポットライトを浴びると、その強烈な光で目が眩み、観客の顔はおろかステージ上の自分の足元さえ見えなくなる。緊張感も極限に達した状況の中これまでの成果を出しきるには、自分を信じて集中する他はない。こうして生まれる迫真のテクニクにこそ、観客は魅了されるのだろう。

日頃は裏方に徹しているリーダー部、チャアリーディング部の後輩達が、この日だけは主役となってライトを浴びる。それを見て、観客もまたパワーやエネルギーを貰える。口先だけではなく、「他を応援すること」「他から応援して貰えること」とは何か、を考える機会を与えてくれているのだと感じる。

今回は学校行事の関係で12月の平日に開催されたが、例年は年度末の土・日に開催されることが多い。卒業生の皆様も、ぜひ一度母校に足をお運び頂き、渾身のステージを堪能して頂ければと思います。



平成30年1月6日～8日



東日本大震災被災地支援

文野口

高II G

楓



今年で6回目となる東日本大震災被災地支援事業は、平成30年1月6日～8日に宮城県石巻市女川町にて実施され、サッカー大会や災害公営住宅への訪問を通して現地の方々との交流を深めました。事前活動としては、募金や千羽鶴の作成を行い、本校生徒や保護者、総明会の皆様にご協力頂きました。集めた寄付金は支援事業の運営資金や、今回被災地でお世話になった団体に寄付させていただきました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

この活動を通して私が感じたことは、被災地の方々には「生きる」・「この震災を風化させてはいけない」この二つのことを特に大切にされていらつしやるのだなということとです。災害公営住宅の方々からお話をうかがった際、一語一語が重く感じられ、自然と涙が滲んできました。復興には莫大な時間がかかり、例えば時間が経ち見えた目では復興できたとしても、人々の心の復興は時間が解決してくれるわけでは無いと思えます。



また、被災した現地を訪問する事によって、何のフィルターも通すことなく実際に見たり、聞いたりすることの大切さを実感しました。私たちが被災者の方々の声に耳を傾け、日本全体で教訓を学び、後世に伝えることが、被災地の支援活動にもつながる気がしました。

法曹部会

総明会法曹部会活動報告

文佐久間 洋一

法曹部会 会長



1 明治高校生から1人でも多くの法曹を、との思いから2015年夏に立ち上げた法曹部会は、昨年あたりから次のとおり年間活動内容が定着し、実施されています。

- (1) 高校生を対象とした、①春と秋の法廷傍聴 ②夏休み期間中の模擬裁判への協力 ③司法試験予備試験講座のフォロー ④実務法律の勉強会の実施
- (2) 法曹部会会員を対象とした、①2か月に1回紫紺館で開催される部会 ②業務上の悩み事対策シンポジウム、顧客獲得方法についての意見交換等、スキルアップ講座の開催

用者の権利・義務、アルバイト中のトラブル発生時の対応方法など、労働法の初歩的知識に関する勉強会を開催しました。

(2) 法曹部会会員を対象としたスキルアップ講座について

ベテラン弁護士による、弁護士であれば避けて通れない顧客獲得方法についての経験談、ノウハウの披露とこれに関するシンポジウムを開催しました。次回は受任事件における悩ましい事項についての意見交換を実施する予定です。

- 2 今回は、年間活動のうち新たな試みとしての実務法律の勉強会と弁護士のスクリルアップ講座を紹介します。
 - (1) 高校生を対象とした実務法律の勉強会について
- 近年アルバイトに無縁な生徒・学生はいないと言つても過言でなく、いわゆるブラック企業で働く可能性も否定できません。そこで、本年2月、卒業を目前にした高IIIを対象に若手弁護士2名が、アルバイトをめぐる被

- 3 なお、高校生を対象とした法廷傍聴、模擬裁判ですが、参加者が刑事裁判手続の仕組みを理解した上で傍聴をしたり模擬裁判を実施したりしています。模擬裁判では、争点を踏まえ、検察官、弁護人における追及の仕方、裁判官の事実認定や量刑のポイントなどを説明した上で本番に臨み、白熱した舌戦が繰り広げられる様は必見です。
- 4 最後に、この場を借りて若手の参加を募ります。学生や後輩を支援しつつ自らも成長する機会と捉え当会の充実・発展の担い手となつてくださることを期待します。

新任先生紹介

平成33年卒
編集 矢代 亘

富樫一樹先生



● ① 1994年12月11日生まれ / ② 東京府町田市 / ③ 青山学院大学・教育学部卒業 / ④ 浅野中学・高等学校(非常勤) / ⑤ 国語科 / ⑥ サッカー部

● 明治中学・高校へ赴任しての印象
非常に愛校心が強く、強い一体感で結ばれていると感じます。生徒たちも明るくして「かり」としており、「質実剛健」「独立自治」という言葉通りの印象を受けました。

● 生徒たちに期待すること

堅実で誠実な人間に育って欲しいと願っています。学業・班部活動・学校行事等、すべてに全力で取り組み、人間として大切なものの多くをこの学校で身につけてほしいです。

● 自身の抱負

生徒たちと同様、まだまだ学ぶべきことが沢山あると思っています。国語科や担任、部活の顧問、また一社会人として、大きく成長していけるよう努力していきたいです。

● 自己紹介

今年度より明治大学付属明治高等学校・中学校に勤めさせていただきます。富樫一樹と申します。未熟ながら精一杯に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

- ① 生年月日 / ② 出身地 / ③ 出身校・学部 / ④ 前職 / ⑤ 担当教科 / ⑥ 担当クラブ活動

平田裕貴先生



● ① 1992年7月16日生まれ / ② 埼玉県戸田市 / ③ 明治大学政治経済学部経済学科卒業 / 明治大学大学院攻修了 / ④ 町田市立南中学校教諭 / ⑤ 社会科 / ⑥ 高校硬式野球部・中学野球部

● 明治中学・高校へ赴任しての印象
活発で、元気な生徒が多いという印象です。高いレベルの学習に意欲的に取り組む一方で、部活動にも熱心に取り組む、文武両道を目指す生徒が多いのが印象的です。

● 生徒たちに期待すること

明治中学・明治高校で仲間と学び、幅広い教養を身につけるとともに思考力を鍛え、明治大学・そして社会の中核を担う人物へと大きく成長し、活躍してもらいたいと思います。

● 自身の抱負

常に生徒の成長を考え、生徒の成長に資する授業実践・教育活動を行って参りたいと思えます。そのために、私自身も指導力の向上を目指し、日々精進して参ります。

● 自己紹介

私自身も、明治中学・明治高校・明治大学の出身です。その経験と学んできたことを生かしながら、情熱を持って指導して参ります。どうぞよろしくお願いたします。

村野圭吾元校長先生ご逝去

昭和44年卒
文 中河 孝樹

村野先生を偲んで



2016年男坂倶楽部総会出席時

在学時の気持ちに戻りますが、そこに先生という立場でありながら、私たちと一緒に青春時代に戻っていかれました。

また、ご同行された山脇先生も同じく私たちと一緒に十年も前にタイムスリップしていききました。男坂ではインシャル入りのポロシャツやオーナメントを作成し先生にプレゼントしましたが、いつも同期会には、胸をはって着用なされてきました。会場では後ろから皆さんの姿を見ると、先生と生徒の区別がつきません。在学時には、大人というほどに遠いところには先生が、同期会では同じテーブルに着き、冗談を言い合う仲間になりました。今、この原稿を作成中にもその光景が脳裏をかすめ、目頭が熱くなってきました。同期でも三十人以上が逝き、また参加なされていた何人かの恩師も逝き、人生の定めとはいえ無常さを感じています。

ここに心を込めて、村野先生のご冥福をお祈りいたします。

合掌

私は、昭和四十四年卒男坂倶楽部の中河孝樹と申します。男坂倶楽部は、卒業以来四十年以上四十回以上の同期会を開催してきました。そのうち私の記憶の中では村野先生は、三十回以上参加されています。いらっしゃる時には、いつも若々しく元氣溼刺として参加されています。特に、同期の当時の腕白生徒(要するに悪ガキ)には目をほそめて懐かしさと愛情を込めて接していました。何度も参加してこられていたうちに、男坂倶楽部同期生全員が、先生の心のなかで腕白生徒になっていったみたいです。同期会では、互いに年をとっているにもかかわらず

古庄一夫税理士事務所
 四七四七同志酔会
古庄一夫
 (昭和47年卒/吹奏楽班)
 東京都墨田区菊川2-5-12
 菊川ジョイタワー301号
 TEL:03-3635-7070
 FAX:03-3635-7081
 kazuo.f.ao.2003@fancy.ocn.ne.jp

昭和四十八年卒
四国商事株式会社
濱本義典
 〒165-0026
 中野区新井一十五一〇五
 電話 三三八六一五六一〇五
 FAX 三三八六一七六一九

建築設計監理
有限会社 日生建築設計事務所
 代表取締役 一級建築士 **戸張毅**
 (四七四七同志酔会)
 〒170-0002
 東京都豊島区薬鴨三丁目5番18号
 TEL (03) 5907-6030
 FAX (03) 5907-6033
 E-mail:nao.111@themis.ocn.ne.jp

昭和47年卒
五木田・三浦法律事務所
 南青山オフィス
 弁護士 **三浦雅生**
 〒107-0062
 港区南青山6-8-15
 TEL 03-5774-2090



炭遊酒菜 旅籠(はたご)
 新宿で一番美味しい炭火鶏焼きのお店
 大小7個の個室完備。新宿駅西口徒歩3分
 竹川観光株式会社
 竹川 茂(昭和47年卒)
 東京都新宿区西新宿1-23-1 かどやホテルB1F TEL 03-3344-3144

浅草の隠れた名店
 スペシャルヒレカツサンド
キングステーブル
 昭和48年卒 波の会 剣道部OB
大澤保男
 TEL. 03-5825-4129
 東京都台東区浅草 5-71-9

(株)カントー・エステート
 不動産賃貸業・管理業
宮下守正
 昭和49年卒
 東京都荒川区西尾久1-20-12
 M2ビル1階
 TEL.03-3894-8161
 FAX.03-3894-3682

祝 第54回総明会総会
波の会
 昭和48年卒 卒業生一同
 代表者 富永 栄之進
 副代表 板橋 純三郎 尾崎 幸平
 評議員 海老根 一介 雨海 重明

お車のトータルサービス
 代表取締役 長 **服部憲一**
 (昭和50年卒明紫会)
(株)服部自動車钣金工業
 〒179-0073
 東京都練馬区田柄5-22-20
 TEL 03-3990-8541
 FAX 03-3998-0177
 E-mail:ken@hattori-auto.com

祝 第54回総明会 総会・懇親会
翼明会
 49年卒 翼明会役員一同

ターカム保険企画有限公司
有限公司エヌエスマーターサービス
 昭和49年卒 **竹澤 啓**
 翼明会
 TEL 03-3675-9955 携帯 090-3200-6139

明治高等学校
 昭和49年卒
翼明会
醍醐 敦
醍醐 会計事務所
 047-355-9301

吉武孝生税理士事務所
 昭和五十年卒 明紫会
 〒121-0813 東京都足立区竹の塚六九七
 TEL 〇三三五六八五二二八
 FAX 〇三三五六八五一五二二八
 E-mail:ty@tax-yoshikake.com

PEP-MATES inc. HP-URL www.pep-mates.com
オリジナル!!
ネクタイ・クラブタイ、30本から製作致します!
 デザインは弊社にて無料で提案します。イメージとなる紋章・カラーをメールまたはFAXでお送りください。専門のデザイナーがイメージを作り上げます。デザイン確定後、本数をお知らせいただければお見積りいたします。
 〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町14番10号
 TEL 03-3663-8827 FAX 03-3663-8828 info@pep-mates.com
 オリジナルグッズ企画・制作 **ベップ・メイツ株式会社**
 代表取締役 大前美之(昭和49年卒・翼明会)



田中徹太郎先生ご退任インタビュー

文岩間 潤

平成33年卒



—教師を目指すきっかけは？

大学時代に明治中学の野球部監督になった。当時はひっぱたいて教えるのが普通の時代で、自分も同じようにやっていたわけ。大学3年の頃かな。オレがいらないと思って陰で生徒が「あいつ、ぶっ殺してやる」って悪口を言っているのを聞いてね。それを聞いてすごくショックでね。そして、当時教職の授業で「教育とは……」っていう勉強をしていたこともあり、今のやり方は間違っているんじゃないかと痛切に感じた。ある日生徒を集めて「今まで悪かった。これからはやり方を変えるから。その前におまえら俺を1発だけ殴れ」って言ったんだ。中3なんか思いつきり殴ってきたよ。中1は泣きながらペチャなんてね。それから殴るのを一切辞めたんだ。そしたらあつという間に強くなって、都大会で準優勝までいったんだよ。それを見て「学校の教育って大事なんだなあ」と思うと同時に「何で今までこんなに偉そうに声をかけていたのか」とすごい反省したね。卒業後、就職しないで親父の工場を手伝いながら地元の青山中学に週末に野球を教えに行っていたんだ。青山中学は弱かった。その頃同じブロックの明治中学は相変わらず強くて、試合では勝てなかったんだけど、自分が1年間指導したら勝っちゃったんだよ。みんな泣きながら胴上げ

1976年3月に明治大学商学部卒業後1977年から講師、1979年より専任中学校教員として勤務。生活指導部や進路指導部主任を経て、明治高等学校、中学校の教頭を歴任後、2014年から明治高校・中学校の副校長を務められ2018年3月ご退任。

講師時代を含めると41年の長きにわたって明治高校で教鞭をとられた田中先生が3月末をもってご退任されました。授業の時同様には話ば度々あちこち脱線(そちらは載せられません)しましたが、教師時代のエピソードから学校改革の必要性を強く感じた理由など、熱く語っていただきました。

してくれてねえ。これで「子どもってこんなにチャレンジすると伸びるのか。ああ教員やりてえな」って本気で思ったんだよ。もちろん青山中学では1発も殴らなかつたよ。できたことを褒めるようにしていたんだ。もちろん練習は厳しくやっただけね。その後、明治中学で講師をやって専任の声がかかったときにすごく迷ったけど、おふくろが親父を説得してくれて……。おふくろが後押ししてくれたおかげで最後はおやじもあきらめてくれたよ。

—先生が明治中学、高校時代の時に影響を受けた先生はいらっしゃいますか？

やっぱり松枝先生だね。すごい怖い先生だったんだけど、必ず生徒をフォローしてくれる先生だったよ。だから怒られても翌日になって「おまえどうだ？」ってね。自分が就職したら松枝先生がかわいがってくれたよ。しょっちゅう1号館の裏の喫茶店に呼ばれてね、そこで教えてもらったことは「先生は偉いんじゃない」「怒るときも神経質にネチネチ、ヒステリックに怒っちゃだめだ。パツと怒ったらそれで終わるんだ。あとは良いところを見てやれ」ということ。そういうハートの温かい先生だった。

—田中先生の中で、生徒を叱るときに心がけていたことはありますか？

「問題のある子はいない。問題を抱えているだけだ」ということかな。問題っていうのは、親子関係とか教師との関係とか先輩との関係とか。生徒の抱えていることを理解すれば生徒は、自分の力で再生できるっ

感じていた。

—先生は長い間サッカー部の顧問でいらつしゃいましたよね？

実は野球部の監督を辞めた後に生徒会の顧問をしていた頃、「サッカー部を作つて欲しい」という話が出たんだけど、ポシヤつたのね。生徒会顧問として生徒に説明しなくちゃいけないから、高Ⅲを70名くらい集めて説明したらワンワン泣き出して、ついホロってきまして「いずれ作つてやる」って約束したのが間違いだつたかな(笑)。

その後、再びサッカー部を作つて欲しいとなり、生徒が嘆願書を書いたり署名活動をしたりし始めたんだよ。当時の校長が「指導者もグラウンドも無いけど、やる気とボールがあれば草っ原でもできる」ということになって創設されて、オレが顧問になつたんだ。それから17年間やつたんだ。

サッカー部創設の頃には、他のクラブを辞めたり、無期停学をくらつたりしていた子がいたりしたんだけど、そいつらは本当にがんばつたよ。うまくないけど、ボールがいけばそこに必ず顔を出すつてくらい動く子がいたりして。チームも当時都大会に進むまでになつて。そいつらみんな立派な社会人になつたよ。そういうところからも「ダメな子はいない」「何かを抱えているから、様々な行動をするだけ」って強く思ったね。

—明治中学、明治高校の変つた点、変わらない点などを教えてください。

変わったと言えば、移転の話が出てきたとき(2002年)に進路指導主任(大学

の推薦の仕事)をしていて、生徒数が増えるから、高IIIの進学先も増やして欲しいと各学部にお問い合わせしたんだけど、当時の明治高校生に対する大学の評価が芳しくなくて「増やせません」と言われた。「基礎学力が無い」とまで言われてね。その根拠の一つとしてある学部のTOEICのスコアを示されて、明治高校の下にはスポーツ推薦の子しかいないとも言われたの。どうしようもない話になってきたので、「学校改革します」ってなったんだ。

手始めに、中学生の英語と数学の下位層の子に対して、週1回7時間目の補習を設けたり、中学3年生に外部模試を導入したりしたんだ。始めてから6年位経ち、校内の体制が整ったので、推薦基準を「英検2級とTOEIC450点の両方がとれる」「中学生は準2級の1次までとれる」としたんだ。生徒も教員も大変だったけどがんばったよ。変更後の2年目にはTOEICの平均点が539.1点まで上がり、大学の評価もすごく高くなってきたんだ。最近では、各学部の学部長奨励賞を明高生が総なめするようになってきているよ。

みんなの時代はみんなの時代で良い時代だったと思うんだ。パンカラな気質もあるし、それなりに伸びやかだった。でも、学校の基本は学ぶところであるという王道から少し外れてしまった時代があったと思うているのね。ただ、その時代が悪いかという点、そういうわけでも無くてしっかり人材が育っているんだから。数値化できない、解答もないものに対してガッツを持って取り組むという野性味というか生命力がその

頃の良さだね。「なにくそって思っただけ向かうのが明治の精神」だからね(笑)。その部分では、今の生徒には少し足りないかな。たくましさといい面をもっと鍛えないといけないかもね。多少逆境に弱いかもしれない。

—たくましさ育てる方法ってありますか？

私が創立100周年記

念事業地域振興の責任者をしていた頃に東日本大震災が起り、大変な被害を受けた宮城県の女川町長の明治での講演をきっかけに、復興のお手伝いをするにしようとした。「被災地の子ども達を本当に楽しませるようなことをやってくれ」と言われたこともあって、6年前から石巻日々新聞と「小学生サッカー大会」を共催し、生徒約30名と毎年1月に被災地に向かった。

最初は、11人どころか8人も揃わないチームもあるし、どこもユニフォームを持っていないから、全国から送られてきた体操着にビブスを付けて試合をしているような状態。我々も、NPO法人が押さえていた廃屋に寝袋で寝泊まりしていたんだよ。生徒には、被災地を現場で体感し、大変な中で雄々しく生きている人たちを目の当たりにするといった経験が一番大切だと思っただよ。こういった経験を通じて自分で気付くことで、たくましく育っていくんじゃないかと思っっているよ。



—共学化して変わったところってありますか？

共学化して、男の子は女の子を意識するからとにかく変わったよ。また、最初入ってきた女の子は男子校に入ってくる感じでしょう。どちらかというと芯のしっかりした子が多くて、最初教員は戸惑ったけど、同じ人間として扱えばいいんだって安心したもんだよ。あと、女子の真面目さはすごいよ。クラブ活動なんか、一糸乱れず自分たちでまとめ上げているからね。とにかく共学化して良かったと思うよ。

だけど、男子校に対する憧れってあるよね。人間同士、男同士の触れ合いが非常に強かったんだよね。今でも本気で生徒に接しているつもりだけど、昔は体格のすごいとか、くっついてかかってくる奴とかとつくみあいしていた感じだもん。そういった意味で野性味を感じてたね。ただ、わかり合うと本当に慕ってきてくれてね。こういう独特の雰囲気はいいもんだよ。あと、基本的に男子校の頃の男の子は優しくあったよ。なんて言うか、大人にすごい気を遣ってくれるのね。教員に対して「ご苦労ですね」とかって平気で言うんだ。とにかく根っこが優しいんだよ。あと、学校行事もあれこれ言う前に、ものすごいスピードで生徒が動いていたよ。先生に迷惑かけんのやめよ

うみたいな気を遣っていた気がする。でも、裏ではいっぱい悪さしてるんだぜ(笑)。ただ、悪さしても怒られると「ハイっ」って言うって何も言い訳しない。潔さ、気っ風によさって言うのかな。男子校の人間的に素晴らしい所ですよ。

—今回のテーマ「ONE MEMBER 明治はひとつ」について思うことをお話しください。

自分が45才になったときに総明会幹事学年実行委員長を務めさせていただいた。その時、周りから「徹太郎は明治に勤めているんだから、こいつに恥をかかすな」って言われてね。嬉しかったね。42才で同級生と再会して、月1回総明会の準備会を3年前から続けた。13才から時が連続しているんだ。総明会という組織はすごいんだよ。

2008年に移転したからって「調布総明会」「駿河台総明会」なんて分かれてもらっちゃ困るよ。一つでなくっちゃ。とにかく総明会は、色々な立場の人が、当時のままでいられる場所なんだよ。明治の懐の深さと広さを体現しているような会だから、みんながなるべく総明会に来て欲しいね。

長い間、明治高校OBとして、そして教師として、明治高校並びに生徒を愛し見守り続けて下さり本当にありがとうございます。



班・部活動の記録／資格試験・表彰

PTAA会報

2017年12月21日号、2018年3月10日号・7月19日号他

《班・部活動の記録》

吹奏楽班

第57回東京都高等学校吹奏楽コンクール大会

〈A組〉 金賞

〈B1組〉 金賞

2017年度全日本吹奏楽コンクール 東京都大会 銀賞

第3回全国ポピュラー・ブラス・吹奏楽コンクール 準優勝

放送班

第40回東京都高等学校文化祭

〈放送部門〉アナウンス部門 高校三年生の部 第一位 高III 伊藤

書道部

第33回高円宮杯日本武道館書道書道大展望会 テレビ朝日賞 高I 渡邊

第102回書道展

〈席書部毛筆の部〉 文部科学大臣賞 高II 倉島

審査委員長賞 高I 渡邊

全日本書道教育協会賞 高III 加藤

ナムラ賞 高II 高橋

〈席書部硬筆の部〉 審査委員長賞 高II 倉島

〈学生部毛筆の部〉 審査委員長賞 高III 加藤

全日本書道教育協会賞 高I 渡邊

開明賞 高III 小島

東洋額装賞 中3 藤原

〈学生部硬筆の部〉 全日本書道教育協会賞 高I 渡邊

開明賞 高I 野本

マンドリン部

平成29年度全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール 優秀賞

映画部

第13回高校生フィルムコンテスト 審査員特別賞 高III 波連

高II 小林

化学部

第57回生徒理科研究発表会 優秀賞 中2 村上 中2 清水

硬式野球部

明治大学付属三校対抗戦Bグループ 優勝

剣道部

第9ブロック中学校剣道研修大会

〈女子個人初心者の部〉 優勝 中I 横山

準優勝 中I 鈴木

第32回東京都高等学校体育連盟第7支部 剣道大会 優勝 高I 金子

〈女子個人戦無段の部〉 準優勝 高I 赤峰

〈女子個人戦初段の部〉 第3位 高II 鈴木

平成29年度東京都高等学校秋季剣道大会

〈女子II部〉 高II 野田 高II 木口 高II 牧野

高II 鈴木 高I 菅田 高I 伊井

高I 長谷川

平成29年度文京区剣道大会〈高校生女子の部〉 準優勝 高II 牧野

第3位 高I 菅田

全国高等学校剣道大会東京都予選 〈女子個人の部〉 ベスト16 高III 木口

柔道部

第66回全国高等学校体育大会柔道競技大会 東京都第四支部予選会

〈男子団体〉 第9位

〈男子個人60kg級〉 第3位(都大会進出) 高II 永澤

第5位(都大会進出) 高II 竹道

第67回東京都高等学校学年別柔道大会 第四支部予選会

〈2年男子団体〉 第9位(都大会進出) 高I 勝山

第3位(都大会進出) 高I 勝山

平成29年度東京都高等学校体育連盟 柔道専門部第四支部新人柔道大会

〈男子団体〉 第5位

〈男子個人60kg級〉 第3位 高II 永澤

〈男子個人66kg級〉 第5位 高II 竹道

第43回東京都高等学校新人大会 第四支部予選会

〈男子団体〉 第5位(都大会進出)

第40回全国高等学校柔道選手権大会 第四支部予選会

〈男子個人60kg級〉 第3位(都大会進出) 高II 永澤

〈男子個人66kg級〉 第5位 高II 竹道

〈男子個人81kg級〉 第9位(都大会進出) 高II 竹道

第5位(都大会進出) 高II 山崎

第9位(都大会進出) 高I 平川

第3位(都大会進出) 東京都ベスト32

平成29年度多摩地区中学校新人人体重別 柔道選手権大会〈男子個人90kg級〉

敢闘賞・第5位(都大会進出) 中2 五十嵐

〈男子個人60kg級〉 敢闘賞・第5位(都大会進出) 中I 佐々木

インターハイ東京都第四支部予選会 〈男子団体〉 敢闘賞 都大会進出

高III 川野 高III 竹道 高III 永澤

高III 山崎 高III 廣部 高II 平川

〈男子個人60kg級〉 第3位 高III 永澤

第5位 高III 川野

〈男子個人66kg級〉 敢闘賞 高III 竹道

〈男子個人81kg級〉 敢闘賞 高II 平川

硬式テニス部

第34回東京都ジュニアチームテニス チャンピオンシップ

〈高校生男子の部〉 高I 相川 高I 田坂

高I 新井 中3 星川

〈小中学生の部女子〉 Aチーム Aブロック優勝

中3 小林 中3 熊坂

中3 渋谷 中3 近藤

東京都高等学校新人テニス選手権大会

〈個人 男子ダブルス〉 第5位

私学リーグ2017 高I 田坂 高I 新井

〈第3部リーグ〉 高II 横田 高II 堀池 高II 小池

高II 山田 高I 鈴木

東京都私立中学高等学校テニス選手権大会 〈男子団体〉 第5位

第48回調布市中学校対抗競技大会

〈テニス競技の部〉 優勝 中3 西本 中3 星川

準優勝 中3 森 中3 田村

第3位 中3 山田 中3 田中

東京都中学校テニス選手権大会 第9ブロック

〈個人シングルの部〉 19位 中3 門野

東京都高等学校テニス選手権大会

〈個人シングルの部〉 本選出場 高II 新井

〈個人ダブルスの部〉

本選出場 高II 新井 高II 田坂
東京都中学校テニス第9ブロック研修大会
〈中学1年生の部〉 準優勝

中2 川元 中2 ゴルバーク
中2 堀切 中2 町田 中2 井川
中2 内藤

〈中学2年生の部〉 準優勝
中3 北目 中3 竹森 中3 中保
中3 門野 中3 小山 中3 若園

ソフトテニス部

第59回東京私立中学高等学校
ソフトテニス大会
〈5部〉 準優勝(28校中)

高III 高桑 高III 赤城 高III 相羽
高I 金丸 高I 横山 高I 吉田
平成29年度普及研修大会

ブロック優勝 高I 横山 高I 吉田
調布市中学生学年別大会
準優勝 中2 成田 中1 海江田

バドミントン部

第57回調布市中学校対抗競技大会
準優勝 中3 高橋 中3 田中
第3位 中3 西村 中3 齊藤

第48回調布市中学校対抗競技大会
〈団体〉 第3位

卓球部

第57回調布市市民体育祭
〈卓球競技個人戦 男子シングルス一般2部〉
優勝 高II 有村

バスケットボール部

第33回東京私立中学校バスケットボール大会
〈男子新人戦〉 第3位
平成29年度第9ブロック
中学校バスケットボール新人大会

〈男子の部〉 第3位(都大会進出)
第48回調布市中学校対抗競技大会
〈男子の部〉 優勝

第47回多摩地区中学校バスケットボール大会
〈男子の部〉 ベスト16(216校中)

平成30年度第9ブロック
中学校バスケットボール春季大会

〈男子の部〉 第3位
平成30年度第9ブロック中学校バスケット
ボール選手権大会
〈男子の部〉 第3位

第34回東京私立中学校バスケットボール大会
〈男子新人戦〉 ベスト16

バレーボール部

第64回東京六大学附属バレーボールリーグ戦準優勝

スキー部

第73回国民体育大会冬季大会出場
中3 足立紗菜
第67回全国高等学校スキー大会出場
高II 竹内

第53回関東高等学校スキー大会出場
高III 村上 高II 奥田 高II 竹内
高II 小倉 高I 伊東 高I 矢頭

第55回全国中学校スキー大会出場
中3 足立紗菜 中2 小川
中2 佐川

平成29年度全国高等学校スキー大会
関東高等学校スキー大会東京都予選・選考会
〈大回転競技女子〉 第2位 高I 矢頭
〈回転競技女子〉 第3位 高I 矢頭

水泳部

第51回三多摩高等学校水泳競技大会
〈男子2000m個人メドレー〉
第2位 高II 石川
第3位 高I 守田

〈男子400m自由形〉 高II 石川
第3位 高I 守田
東京都高等学校新人水泳競技大会
〈男子50mバタフライ〉 高II 石川
第5位

陸上競技部

第69回東京都高等学校陸上競技対抗
新人選手権大会第5・6支部予選会
〈男子1000m〉 第6位 高II 山本
〈男子2000m〉 第7位 高II 山本
〈男子4×1000m〉 第7位

〈女子走幅跳〉 第4位 高I 小川
第62回調布市市民駅伝競走大会
〈一般男子の部〉 第3位
〈中学男子の部〉 第8位

第71回東京都高等学校陸上競技大会
第5・6支部予選会
〈女子5支走り幅跳び〉
第3位 高I 安田
第4位 高II 小川

第39回学年別高等学校陸上競技選手権大会
〈女子5支1年走り幅跳び〉
第2位 高I 安田
第4位 高II 小川

〈女子5支2年走り幅跳び〉
第4位 高II 小川
〈男子2年1500m〉
第8位 高II 大和

〈共通 4×100mリレー〉
第5位 高III 尾崎 高III 木島
高III 山本 高III 中森

第69回東京都中学校地域別陸上競技大会
多摩大会
〈共通 女子走り幅跳び〉
第3位 中3 那波

〈ビッグクラス〉
Aブロック準優勝 (全国決勝大会進出)
第5回全日本小中学生ダンスコンクール
東日本大会 金賞(全国大会進出)

第5回全日本小中学生ダンスコンクール
全国大会 銅賞

有志フェンシング同好会
平成29年度東京都高等学校体育連盟
フェンシング新人大会
〈女子学校対抗フルール〉 第3位
高II 萩原 高II 倉石 高II 柳川
高II 長谷部 高I 高田

平成30年度第60回
関東高等学校フェンシング選手権大会
〈女子学校対抗〉 出場

《資格試験・表彰》

明治大学文学部
第9回読書感想文コンクール
優秀賞 高III 壹岐(2年連続受賞)
高II 倉石 高II 川島
高II 野尻 高II 川野
高II 小倉

第56回全国高等学校生徒英作文コンテスト
入選 高III 林 高III 大久保

「税についての作文」(高校生・中学生)
武蔵府中税務署長賞 高III 神中
武蔵府中納税貯蓄組合連合会長賞 中3 安部

全国中学生人権作文コンテスト
東京都大会奨励賞 中3 古川
東京都大会作文委員会賞 中3 渡部
中3 藤原 中3 若森

多摩東人権擁護委員協議会長賞 中3 久富
調布市人権擁護委員作文コンテスト審査会
優秀賞 中3 武田

公認会計士論文式試験合格者
2013年度卒 前山
2014年度卒 神藤(全国一位合格)
内堀 金野 佐藤 田中 森岡
2015年度卒 川原
高橋(最年少合格) 深沢

日商簿記検定試験
2級合格者 高III 5名 高II 1名
3級合格者 高III 18名 高II 9名
高I 5名

高III 萩原 高III 長谷部 高III 高田
高III 倉石 高II 柳川
高II 長谷部 高I 高田

高III 倉石 高II 柳川
高II 長谷部 高I 高田

高III 倉石 高II 柳川
高II 長谷部 高I 高田

高III 倉石 高II 柳川
高II 長谷部 高I 高田

高III 倉石 高II 柳川
高II 長谷部 高I 高田

高III 倉石 高II 柳川
高II 長谷部 高I 高田

OB・OG 活動報告

めいちゅうにはちかい 明中二八会

昭和19年卒 新田 晃太郎

私達の会は昭和19年卒業、大東亜戦争の真最中、東京大空襲など悲惨な目に合いました。卒業後は、上級学校へは理科系及び軍関係の学校への進学は可能でしたが、その他は徴兵制度により軍隊への入隊を命ぜられた時代でした。

同級生同士の交友は当然あったものの、開催場・日時・会費の連絡など困難な事情の中、昭和30年代になって漸くクラス会らしきものが誕生、お互いが連絡して、形態がととのって来ましたが、色々と議論の中で、たまたま級友のYMCAレストランのオーナー中富氏の計らいで、毎年2月28日に場所を提供していただける事になり、本格的な活動を開始しました。参加者も安定し、40～50名が集い、順調に推移してきましたが、当然の事ながら年齢的にも問題があり、77才(喜寿祝)を迎えるに当り“二八会”は発展的解消という皆様の同意もあり、以後は総明会の日に会うという結論に達して現在に至っております。超高齢化時代になり、生存者は90才を超えました。当然のこと乍ら足腰不自由になり外出も儘ならず、交友は年賀状のみとなってしまいました。私事ではありますが、私は介護2に認定され、週2回のデイサービス・訪問介護週1回の現状です。

それでも医者を頼りに人様に迷惑がかからないよう、精一杯頑張っております。幹事の皆様に改めて御礼申し上げますと共に総明会の益々の御発展をお祈り申し上げます。



めいじかい 明二会

昭和25年卒 小田川 玉城

私たち「明二会」は戦後の新制高校制度に変わった明治高校の第2回目(昭和25年)の卒業生です。私の生まれた年は1931年(昭和6年)で現在87才になります。

同期の皆も高齢となり、連絡も取り難く「明二会」の最新の名簿作成も、ままならないのが現状です。ちなみに20年前の1998年に刊行された「明治大学付属明治中学校・高等学校同窓会 総明会名簿」によりますと昭和25年卒業生は、住所記載97名、物故10名、不明58名となっております。

新しい総明会名簿が作成されるにこしたことはありませんが、「○○さんは、ご存命ですか?」とはさすがに聞き難いと思いますので諦めざるを得ないのでしょうかね。

「明二会」の総会及び懇親会が最後に開かれたのは今から10年前の2008年です。オダブツになる前に、せめてもう一度、懇親会が開けたならば、安心満足してあの世に旅立teringのですが……。

めいこうかい
明高会昭和27年卒 **米山 耕右**

平成30年11月25日に総明会が開催されます。本年は明仁会の担当です。皆さん揃って参加致しましょう。総明会で活躍している皆様は明治大学校友会でも活躍されております。御高承の如く明治大学校友会は全国組織であり、向殿会長元総明会会長・明治大学名誉教授が全国の校友を束ねております。昨年は沖縄県で開催されました。東京都の明治大学校友会は、東・西・南・北と多摩支部で構成されております。平成23年は明治大学創立130年であり、向殿校友会会長はこれを記念して、帝国ホテルの二階の全館・大小宴会場を借り切り、明治大学創立130年記念全国校友東京大会が盛大に開催されました。私も当時南部支部長でございましたので、向殿校友会会長より副実行委員長を拝命し、当時の長堀理事長、納谷学長、向殿校友会長と共に、中締めを「菊かおる今日の良き日を寿ぎてえー」と取らせて頂いたのも思い出となりました。

私は南部支部のことしか知りませんが、南部支部の幹事長及び中央区の支部長が大前実之氏、港区支部長が池上繁夫氏、千代田支部の幹事長が大西静士郎氏と総明会の皆様も活躍しております。明治大学校友会長の向殿氏も母校の150周年に向かって頑張っております。総明会の皆様も明治大学校友会の為に一肌ぬいであっていただきたいものです。私は現在、右手右足のリハビリ中ですが、皆様の消息をご連絡くだされば幸いです。

Fax03-3251-8270 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2

藍綬褒賞受賞者 明治大学校友会千代田区支部名誉支部長 米山耕右

めいそうかい
明窓会昭和28年卒 **戸田 一郎**

昭和28年卒同期の会である「明窓会」は故福島則夫先生の命名であります。昭和22年の戦後間もない頃の文部省制定の学校制度が改定され新制中学となった初年度の入学であります。校長は鶴澤總明先生から校長職を引き継いだ直後の大橋留治先生でした。1学年は3クラス、A組担任は福島先生、B組担任は野呂先生、C組担任は寺瀬先生でした。人気が一番あったのは野球部で、後の大学野球部の監督になった島岡吉郎さんが監督として指導に当たっていました。我が同期では関口一郎君が野球部員で左腕投手として活躍しプロ野球の大洋ホエールズに入団しましたが若くして病没しました。今は同じ左腕投手であった岩田務君が「明窓会」の幹事として運営に協力して頂いております。当時はプロ野球よりも六大学野球に人気があり、大学の試合がある時は中学・高校は授業が繰上げ休講となり全校生徒が球場に応援に駆け付けた良き時代でした。昔のヤンチャな子供達も今は傘寿を過ぎ「明窓会」は83～84才の老兵が集う昔の良き日を語り合う会となりました。例年通り6月の今年は15日に定例会場である両国ビューホテルで開催し22名の参加者がありました。男子校であったので少しでも華やかにしようと思われ知人のシャンソン歌手や親族のご婦人の応援参加を得て、賑やかに和やかにそして元気にカラオケを楽しみ、杯を酌交わす陽気な集いとなりました。会の終わりに皆で約束しました。「二人になるまで明窓会を続けよう」。時の経つのも忘れ来年も必ず会おうと云いかわし散会しました。

にいきゅうかい
29会昭和29年卒 **山本 峰司**

総明会の皆様、毎回本当にアリガトウ。なつかしの明中高の息吹を見、感じさせてもらい、大変うれしく楽しく見えています。私達も82、83才となり旅立つ友の多さにさびしさや惜別を感じています。

本年も幹事の倉田秀夫、橋崎正義が旅立ちさびしい限りです。テーマの様にいつでもどこでもアツと言うまに12、13才頃にもどり夢の旅路へ出発し、2～3時間はアツと言うまでです。

80年間のタッタ6年位死ぬまでとけぬマホウでしょう。良い学校だった。人間に明治の「シツジツゴウケン」。いつのまにか自分にしっかりと身につけ、そのたびに自分でビックリです。

教職員・先輩、そして総明会を育て育成させて下さった人々のおかげ。総明会の発会迄をになってくれた大先輩がた。ほんの少しをになえたあの時、くるくると頭をよぎります。

今さらですが自分があの先輩がたの年になりつつあるのをビックリしています。どうぞこれからも「われらが明治」大きく大きくマッスグに育てて下さい。学校がマッスグに総明会もマッスグにと祈っています。

昭和30年卒 宇田川 雅弘

正論は控えめに

卒業して何年、正確に分からなくなった。分かっていることは間違いなく卒業したことだ。過日、佐藤愛子さんが書いた「九十才。何がめでたい」を読んだ。この年になると年の一つや二つ間違えても大したことはないとの下りが、これから先の人生には影響は無いという一行に不思議に頷いた。還暦・古希・喜寿そして傘寿を超えて気が付いたことがある。世の中、色々な方の主張を聞いていると何が正しく何が間違っているか判断の難しさを痛感し、正しいことを主張しすぎるとお互いが傷つき合うのみならず周りの人たちを不愉快な思いにさせていることに今まで気が付かないでいた。

自分の人生の信条は何事にも「熱く」「諦めずに」で生きてきて、重ねてみると若気の至りで思い当たるが多々ある。古希を過ぎて正しいことを言うときは少し控えめにするようになった。そして後輩に正論は控えめにと説いている。縁あって「明治高校」の車両に乗り合わせ、人生のレールを走っていることに誇らしさを持ち、思いやりの心を養い逞しくゴールを目指して貰いたい。

人間とは「人」の「間」と書きます。人生に最も大切なのは人です。そして正論・正義は振り回すことなく相手の立場を忘れないようにすることが人の拡がりに繋がると確信します。我が母校の無限の進化と健全発展を心より祈念致します。

めいらくかい 明楽会

昭和31年卒 佐藤 健一



傘寿を迎え

第54回総明会開催おめでとうございます。私共の会も卒業後62年節年を迎へ傘寿の記念すべき年齢に達しました。昔は80才と言う年齢は終期高齢者の部類に入りましたが今では未だ若年を保っている現在です。

昨年は日比谷公園内「松本楼」に於いて恒例の同期会が開催され35名と言う多数の方が参加されました。又、総明会本部より前尾島会長、現吉田会長等多くの本部役員より御祝辞や御祝金を頂き、誠に感謝に堪えません。明大マンドリンクラブより甲斐監督の元、現役の学生が応援にかけつけて頂き、日比谷の森に響き渡るなつかしの古賀メロディーを拝聴し会員一同ひと時の一夜を過ごす事が出来ました。毎年同月に同期が集い昔話に花を咲かせる事が若さの秘訣と思っています。その中で恩師がひとりもない一抹の淋しさもありますが回顧録を楽しんでいます。今回傘寿のお祝いとして記念品を作成し人生の記念の一頁として頂きたく出席者全員に配布致しました。記念品作成にあたり総明会本部・会員各位の御協力に感謝しております。これからも此の老人団体「明楽会」を若い後輩諸氏の援護を受け末永く続けて行く所存です。どうか今後共よろしくお願ひ致します。次回は平成30年11月2日を予定しておりますので奮って御参加お願いします。総明会のますますの御発展と盛會を心より御祈念申し上げます。



めいじかい 明治会

昭和32年卒 小林 正三郎

明治会のメンバーは、今年傘寿(80才)を迎えます。身体的な老いを感じながらも、2年に1回位の割合で開催し、40名近い仲間が出席します。出席する人達は、意気軒昂で、現役も多勢いて賑々しく元気で楽しんでいます。

われわれの現役時代は日本が戦後の復興時期で、社会環境・生活環境・教育環境(特に施設面)など厳しい状況下にありました。そういう時代に明治中学高校で学ぶこ

とが出来たことは、甚だ幸せであり誇りであります。仲間意識・団結心が強い由縁でもあります。改めて学校への恩・親の恩に深く感謝しなければならないと思っております。

明治会の活動の中で、記憶に残る大きなことは、昭和59年「総明会20周年」の記念総会を幹事学年として担当開催したことです。それまでの総会懇親会は、校内の施設を借り床にビニールシートを敷き、料理は師弟食堂などの仕出しで賄ってきたのが実態でした。20周年記念にふさわしい総会懇親会にすべきとの強い思いから、初めて一流ホテルの赤坂プリンスホテルでの開催を決定。(本部決裁を受け)明治会が総力を上げて取り組み、幸いにも多くの方々にご賛同・ご協力をいただき大盛會で終わることができました。以後「総明会」が今日の形態となり持続的に発展されていることに深い感慨を覚えています。

今年の総明会が盛況裡に開催されることを願っています。



きゅううかい

旧雨会

昭和34年卒 秋山 義昭

昭和の香ほりがする“古賀メロディー”をコラボで再現。ディナーショーの開催で盛り上がりました。旧雨会を4月14日(土)音楽ビアプラザ・銀座ライオンにて開催。集合写真にありますように、にこやかに同期生が集まり、後輩のゲスト3名を含めて48名という、盛大なパーティーとなりました。

今年は明治大学マンドリン倶楽部の設立に参画した、古賀政男の没後40年に当たるそうです。その“古賀メロディーを繋ぐ”をテーマに、同期のアントニオ古賀と、中学2年生になった息子さんとのコラボで昔懐かしい「古賀メロディー」を満喫し、会場は大盛り上がり。また平野事務局長の依頼により今年の幹事学年平成3年卒「明仁会」富沢、廣田氏を招待し、総明会のプレゼンテーションを行いました。写真撮影は44年卒「男坂倶楽部」栗田氏が協力を申し出てくれて会場風景、集合写真など撮ってもらいました。

最後のメの校歌はゲストの廣田拓郎君が元応援団ということもあり、老齢の秋山会長に代わりテクを取ってもらい大声で斉唱。いろいろな情報を共有する意味での「友情の広場」としての同期会。1年振りの旧雨会も“明治高校愛”を感じて、来年の4月13日(土)に再会を約束して閉会いたしました。【明治高校昭和34年卒】旧雨会担当窓口 秋山義昭
連絡先: ☎164-0011 中野区中央4-42-5 Tel.Fax/03-3382-4187 メールアドレス aki3583@gmail.com

さんごのかい
珊瑚の会

昭和35年卒 北室 清市

昭和35年卒は本年度77才の喜寿になり、祝いの会を行う事になり、年初より準備をしておりましたが、突然お日度いニュースが飛び込んでまいりました。同期会幹事である山縣活君が、春の叙勲で旭日双光章の受章者に選ばれたと新聞発表がありました。東京玩具人形協同組合理事長として長年の功労が認められた事ではありますが、また、火玉を長持ちさせ美しい鮮やかに変化する大江戸牡丹を開発し、安価な中国製に押され消えかけていた、国産線香花火を復活させたり、夏の東京風物に欠かせない隅田川花火大会の世話役を努めたり中広い活躍をしております。

我々の喜寿の祝いに火花を添えてくれたので、喜寿の祝いと山縣君の叙勲祝いの二本立の会を、皇居での授章式が終った5月26日に、紫紺館で開催しました。天野会長の挨拶に始まり、山縣君への花束贈呈、そして総明会吉田会長のお祝のメッセージが読み上げられました。吉田会長ありがとうございました。その後細田幹事より物故者の報告・黙とう、山縣幹事より残念ながら欠席した人達からのメッセージが読み上げられました。体調不良や入院中、リハビリ中等色々ですが心配です。次に北室幹事より、調布市に移転し、男女共学になって10年を迎えた明治中学・明治高校の現在の報告を致しました。前日に訪問し、早川先生より懇切丁寧に説明頂き、学力の向上が相当高い事を痛感いたしました。我々の時代は狭いコンクリートの校庭、金網が張った窓、各運動部が日替で交代で使った練習場、中1と中2・中3と高校とそれぞれの小さな校舎と、土の校庭、1つしか無い売店の昼食パンの争奪戦等なんとその違い。今は全面人工芝の広いサッカー場兼校庭、テニスコート5面、大きな2つの体育館と講堂、広い廊下とバリアフリーのスロープ、食堂・カフェまであります。OBの皆様、一度見学して、昭和と平成の違いを実感してください。



めいしゅんかい

明駿会

昭和36年卒 向殿 政男

2年に1回の明駿会(昭和36年卒)の総会は、今年が開催年であり、6月29日に明治大学リバティタワー23階で開催した。今年も例年のごとく、50人ほどの仲間が集まった。ほとんどが76才を迎え、全員がすでに後期高齢者の仲間入りをしている。

例年のごとく、生のバンドを入れて、懐かしい卒業当時のメロディをバックに、懐かしい高校時代の話を、今の境遇の話を、亡くなった友の話を、そして中には孫の自慢話をして、止まることがない。しかし、最も盛り上がる話は、何といっても病気の話であり、悲しいことに時間が経つのを忘れてる。生き長らえて、いつまでもこの同期会に出てこられるためには、必須の共通の話題なのかもしれない。鬼籍に入った同期のいかに多いかに驚き、やけに元気な奴のいることをうらやましく思い、少しぐらい体調が悪くてもこの同期会に出てきて旧交を温めることができることの幸運に感謝している。最後は、代表幹事の加藤眞義君(元応援団)の指揮の下、全員が校歌「白雲なびく駿河台」を大きな声で歌って締めるのが、この明駿会始まって以来続いている伝統である。これを歌いたいがために明駿会を開催していると加藤君は言うてはばからないが、この気持ちは全員同じかもしれない、我々の誇りでもある。2年後に本当にまた会えるのか不安だなどと冗談とも本気とも分からないことを言いながら、2年後の再会を約束して別れた。しかし、現実には、ほとんどの仲間は、それぞれのグループを作ってしょっちゅう会っている。だから、いつも思っている、同期の仲間とは良いものだ。



にねんにいっかい
二年に一会 昭和38年卒 **服部 紀夫**

喜寿も近くまだまだ元気

総明会の幹事学年を拝命してから早30年。喜寿に手の届く歳になり、時の速さを感じず昭和38年卒の同期会「二年に一会」です。会名のとおり単純明快、卒業翌年に会長・三浦昭生が中心となり、第1回総会・懇親会を開催してから2年に1回一度も欠かすことなく開いております。明治中学・明治高校6年間に1日でもともに学んだ学友すべてが仲間です。毎回代表幹事を決め、時、所、趣向を変え半世紀超えております。調布に校舎が移転した年は猿楽町の母校を懐かしみ教室で恩師による授業を再現する奇抜なアイデア。創立100周年の年は卒業50周年にあたり、50名を超す大盛会。第30回記念は横浜・中華街で中国の獅子舞が会場に登場してにぎやかに開催。近年は毎年開催、去年は銀座で第32回(写真)、本年も秋に第33回を開く予定です。今年の総明会のテーマは「ONE MEIJI ～明治はひとつ～」私たちの仲間も絆は強く、この誌面をお借りして同期生に呼び掛けたいと思います。ご意見、苦言、なんでも結構ですから末尾の連絡先にご一報ください。お待ちしております。最後に第54回総明会の成功を祈念し、同期会の報告とします。

〒135-0005東京都江東区高橋14-20 関戸淳一

TEL03-3631-2008 FAX03-3631-2548 PCメールsekido-f@amber.plala.or.jp

さんきゅうかい
39会

昭和39年卒 **佐藤 仁**

昭和20年生まれは、終戦っ子で極端に人数が少なく、ことあるごとにお前たちは競争が少ない、もまれていないといつも言われてきました。団塊の世代と比べるとひ弱だとそんな我々の世代ですが、卒業してもはや54年の歳月が流れました。

我々は、節目節目で集まり旧交を温めています。50才の時に50才到達記念同期会、60才では還暦記念同期会、そして3年前とうとう70才で古希の祝いの同期会を行いました。いつも会場は東京ど真ん中の日本橋です。

レストラン東洋は同期の北村君のお店です。格安で場所とお料理を提供してくれて大変助かっています。毎回80人前後集まります。今年秋に同期会をして次は77才喜寿のお祝いを目指します。39ゴルフ会も50年近く春秋年2回開催しています。明治の絆で結ばれた友よいつまでも元気で会いましょう!!



めいゆうかい
明優会 昭和40年卒 **阿部 正行**

明治はひとつ

私達の学年も早七十才を超え、学生時代の思い出も大分薄れて来ましたが、同期会の折に話題に上るのが、先ずは健康の事の様です。話も興にいと、時とした中学時代のスキー学校の事、時として「チャーター」こと松枝先生の話で一層盛り上がります。

大部分のメンバーが何かしら病気を抱えて居り、同期会はある意味、病気に対する情報収集の場になる様です。そして私は、父親の「スキーは足を折る」の一言で、スキー学校には行く事が出来なかった事が残念でした。その話題になると、いつも私は黙っただけでした。

松枝先生について、同じ経験を持つ学年は、多いと多数の先輩・後輩の諸氏より聞く事が多いですが、でもあのびんたは、当時何でか解らず、未だもって解りません。往年になって、松枝先生と話す機会が有りましたが、想像するにその時の松枝先生の頭の中は明治一色でした。

近頃、毎年続けている同期会は、学生時代にあまりまとまる事の少なかった私達を一つにしてくれています。これからも一人も欠けずに、また来年も見慣れた顔に会える事が楽しみになっています。



よんいちめいゆうかい

四一明友会

昭和41年卒 廣瀬 準

団塊の世代の和

私共昭和41年卒の「四一明友会」が、総会の幹事学年になった第29回総会の平成5年11月6日(土)は、バブル崩壊後の経済の先行きが不透明、不安定の時でした。当時は今と違って総会当日何人来て頂けるか当日になって見ないと解らないという状況でした。その為にも皆様に楽しんで頂ける催し物を色々と皆で考えていました。

また予算があまりないという状況でなかなか良い案が出ないので、私が歌で共演した「東京歌舞団」をお願いをし、出演して頂きました。その団長さんには感謝の気持ちでいっぱいでした。また私は司会進行も仰せつかっていましたので、そちらもそつなく失礼のないように出来るか心配でしたがどうにかお役に立てたようでした。

雨も降らずに334名の方がいらして下さいました。つつがなく終わった時は皆と一体となってやり遂げた喜びを『ONE MEIJI ~明治はひとつ~』のもとに分ち合いました。

えむよんじゅういち

M 4 1

昭和42年卒 後藤 孝男

昭和42年3月卒業のM41です。我々のリーダーであった結城康郎君が、2年前の2016年5月30日に亡くなり、彼の遺志であった同期会を従来の4年毎から2年毎に開催することを実現させました。今年の同期会は、6月2日(土)午後4時から紫紺館5階「レストランフォレスト椿山荘」で開催しました。

参加者は31名で、前回より12名少なくなりましたがそのうちの3名がほぼ50年ぶりの再会を果たし、大いに喜んでいました。つぎにすでに32名の物故者を数えており、黙祷を捧げ冥福を祈りました。

会は立食形式でスタートしましたが、壁面の椅子に多くの方が座り2~3名毎に昔話や近況を笑い声など交えながら歓談を楽しみました。その後は恒例の1分間(?)スピーチを全員が長短入り乱れで元気に話しました。今回夫人同伴の参加が1組あり、奥さまに一言お話を頂きました。紅一点ですが家庭でも男の子3人を育てた実績からか、堂々とのろけ話をされていました。

さてさて会も終盤を迎え、当然最後は、校歌斉唱と万歳で締めて、あっという間の2時間が経ちました。閉会の挨拶はいつも一番遠方からの人物をお願いしており、長野県佐久市や愛知県名古屋市の方を予定していましたが司会者のミスでスルーをして解散となりました。次回は2020年オリンピック開催年の6月6日(土)開催決定!!

しさんかい
紫讚会

昭和43年卒 志村 一夫

今年は明高を卒業して50年、節目の年である。

「白髪」、「皺」、「肥満」。我々はどこから見ても立派な老人である。だが、仲間と杯を重ねると、一気に50年前の学生時代にタイムスリップし、至福の空間に導かれる。これが、同窓の「絆」というものなのか。

来年は、全員が留年することなく古稀(70才)を迎えることとなる。そこで、今年の総会で古稀のお祝会を大々的に実施することが決定した。思い起こせば、10年前に東京駅前のコットンクラブにおいて「W30 RED CELEBRATION PARTY」と銘打って還暦パーティーを行った。当日は130人を超える参加者(同伴家族を含む)があり、大いに盛り上がり忘れられないひと時であった。

今年度も、皆と知恵を出し合い、また、多くの参加者を得て楽しい古稀のパーティーになることを期待している。再会を心から楽しみにしている。



おとこざくらぶ 男坂倶楽部

昭和44年卒 寺田 康夫

気が付けば卒業から半世紀

我々男坂倶楽部が昭和44年3月に猿楽町校舎を巣立ってから間もなく半世紀を迎えることになります。昭和44年は卒業の直前に安田講堂の攻防戦があり大学は学生運動最盛期、世の中全体が騒然としていた時代で、平和な港町から荒波の太平洋に放り出されるような心細い気持ちになったことを思い出します。それから半世紀、会員も前期高齢者に突入、既に会員の1割が会員を卒業となりました。

当倶楽部は毎年5月に総会を開催してきており、今年も5月17日に神保町新世界菜館で開かれ総勢44名が集い楽しいひと時を過ごしました。ここ数年は先生方の参加も年々少なくなり、昨年まで毎年参加いただいていた村野先生のお顔が今年はなく寂しい思いをしました。

また当倶楽部は来年が卒業50周年、その後は節目の70才とイベントが続きますので、心に残る企画を立てたいと考えています。同期のメンバーは減ることはあっても決して増えることのない仲間です。明治は一つ、男坂倶楽部も一つ、これからも増えない仲間を大切にしていきたいと思っています。

ししのかい 獅子の会

昭和45年卒 比留間 竹郎

今年のテーマ「ONE MEIJI ～明治はひとつ～」は総明会5代目会長で明治大学校友会の向殿会長が以前から提唱していたと思います。その精神を引き継ぎ獅子の会幹事長の吉田耕太郎君が総明会の8代目会長として2期目を迎え、獅子の会としては大変誇らしく嬉しく思います。

獅子の会の1年間は2月に神保町の新世界菜館での新年会から始まり4月は同期中野君の魚喜代で桜の会、5月10日は恩師後藤先生のごとう会、総明会のチャリティーゴルフコンペ(今年は22年ぶりに獅子の会が優勝)6月は同期三宅裕司君の新橋演舞場での熱海五郎一座の公演、7月は同期近藤君の油壺でのクルージング、7月の最終土曜日は同期笹本君のビルで隅田川の花火大会、10月はやはり三宅裕司君のサンシャイン劇場でのSET本公演、12月は吉田繁夫君と藤掛君の銀座ケントスでのクリスマスダンスパーティー、12月末は有志で中野君のお店で忘年会と獅子の会の催し物が有ります。私達も67才となりあと何年元気に飲んで遊べる時間があるか分かりませんが「獅子の会もひとつ」を永遠のテーマとして出来るだけ同期と旧交を温めたいと思っています。また同期浴風会病院の吉田亮一先生には獅子の会の主治医をお願いしていますので心強く思いますし感謝しています。全員に細かく発信出来無くて申し訳ありませんが獅子の会のホームページをご覧ください。



めいちょうかい

明潮会

昭和46年卒 金子 敏一

今年は2年振りの総会懇親会が、6月2日の土曜日に恩師の清水先生をお招きして、お茶の水ホテルジュラクにて開催されました。

65才を過ぎて時間的に余裕が出てきたためか、43名の出席者を得て大変盛り上がった会になりました。

中には四国の高松市や、名古屋から来てくれた仲間もあり、みんな学生時代に戻ったような楽しい会になりましたが、残念ながら欠席で運営費をお振込みいただいた方々には、この場をお借りして御礼申し上げます。

総会では10年振りに役員改選となり、不肖ながら私が会長を仰せつかりました。

会の運営は、副会長2名、事務局2名、会計2名、企画担当3名等々、20名以上の幹事にて行っております。今後は総会と、新年会や暑気払いなどの例会を、1年置きに開催する予定となっておりますので、是非ご参加ください。

第54回総明会幹事学年の明仁会の皆さんには、大変お疲れ様です。盛会をお祈りしております。

よなよなどうしようかい 四七四七同志酔会

昭和47年卒 戸張 毅

明治はひとつ

四七四七同志酔会は、5年前の還暦の歳に同期66名の参加により同期会を催しました。また母校明治大学付属明治高等学校・中学校の教職として永きに亘り学生諸君の指導教鞭にご尽力いただきました「田中徹太郎君の退職を労う会」を有志20名ほどで5月におこないました。「明治はひとつ」、これは明治魂として学校生活で学んできた教えではないでしょうか。その一つが校歌にある「権利自由」であり、このことについて述べてみます。まずは権利です。「権」という字にはものごとが成就する前の状態を現します。例えば権禰宜という神社に奉職する方の名称があります。この名称は禰宜という上位神職になる前の名称であることからわかります。次に「利」です。穀物の収穫とか儲けという意味があり、二つの文字の意味するところは収穫を得る前の状態であります。次に自由です。個人的には哲学者ニーチェの「善悪の彼岸」岩波文庫P40にある「意志の自由」です。自分を取りまく状況やスポーツの試合で劣勢状態におかれた時、自分の意思として優越性の情念をもつ、これを仮に自由とするならば、「権利自由」とは優越性の情念をもつ者がその獲得前のなかで耐え忍び、努力を重ね、希望が目の前にある状況を表現しているのではないのでしょうか。この情念が昂った別の表現の仕方がラグビーの「前へ」であり、野球の「ボールに当たってでも出塁しろ」につながるのでしょうか。自由獲得前、耐え忍び、努力を重ね続けている。このことを明治に関わりのあるもの皆が共有することで「明治はひとつ」につながっていくものと確信いたします。

めいしかい 明紫会

昭和50年卒 三森 勳

減ることはあっても、増えることはない。だから同期の仲間を大切に

多くの同級生が62才を迎える私たち「明紫会」。卒業から43年経った今年も大騒ぎしています。同期の本格的な集まりは2002年に東京を離れて浦安ブライTONホテルで行なった第38回総明会より始まりました。総明会初の千葉県での開催、会報のデジタル化(CD化)を実行し、先輩方が唖然とした総明会の問題児達が私たちです。そんな私たちですが、現在の総明会では副会長に山崎秀樹、常務理事に近藤敏彦、会計に吉武孝生と明紫会の精鋭3人が役員としてご奉公中です(笑)。さて、毎年の同期の集まりは年に一度の総会・懇親会を中心にゴルフ合宿等を行っています。2018年の総会・懇親会は会長の世古俊之を中心に、終身事務局長の窪寺弘匡の経営する中野のハワイアンダイニングバー「マハロア」で行われました。今年は、タヒチアンダンスショーで大はしゃぎです。タヒチアンダンスはテンポが速く、速い曲だと腰を振るのがなんと1分間に200回!1秒間に3回以上。とても素敵で胸騒ぎな腰つきショーでした。総勢28名+タヒチアンダンサーでパチリっ!男子校卒業生ならではの素敵な懇親会でした。最近は病気や薬など健康の話、そして孫自慢、老後暮らし方等の話が多くなってきましたが、鬼籍に入った仲間たちのことを話すこともあります。先輩方が言われている「減ることはあっても、増えることはない。だから同期の仲間を大切に」して行きたいと思います。仲間あっての同期会。仲間宝です。これからも「明紫会」は大騒ぎしてまいります!(笑)



めいめいかい 明々会

昭和51年卒 上野 雅宏

昨年還暦を迎えた我々明々会は、例年通り7月第二週の土曜日、即ち平成30年7月14日に総会を行いました。清水先生をお迎えして、上野蓬菜閣にて日中のゴルフコンペ参加組を含めて総勢32名が出席いたしました。久々に東京に戻ってきた明々会会長の萩原君の挨拶の後、総会

議案の会計報告を満場一致で承認しました。続いて小林祥悟事務局長より名簿の整備についての説明があり、今後も通信費の節約のためにメーリングリストを活用していく旨確認いたしました。その後、いよいよ懇親会へ、清水先生の乾杯の発声によりスタートした懇親会は和やかに旧交を温めるものとなりました。

なお、来年も7月第二週の土曜日に明々会総会を行う予定でございます。メールによる案内が届いていない明々会会員は事務局(上野雅宏)までご一報ください。

e-mail:ueno123@jcom.home.ne.jp

還暦を迎えて

昭和52(1977)年3月に母校を卒業した私たちは、今年から来年3月(正確には4月1日)にかけて還暦を迎えます。そこで今年は、例年5月の第四土曜日近辺で行なっていた同期会を中止して、10月20日に「還暦を祝う会」を行なうことといたしました。ただいま(7月現在)、有志にて「還暦を祝う会」を準備しているところです。「還暦を祝う会」の準備は、1年ほど前から始まりました。有志は、「楽しいから」、「好きだから」やっているのですが、そこには『明治』に対する愛(その形は人それぞれだと思いますが)があるのでしょうか。

在学中は何も疑問に思いませんでしたが、1970年代の我が母校は、今振り返ると、(冗談半分ですが)「理不尽」と「不条理」に満ちた世界だったと思います。良く言えば「蛮カラ」ですが、殺伐とした荒々しさも感じられました(救急車がやって来たこともありましたね)。ブラック企業のパワーハラスメントやモラルハラスメントに満ちた社員研修の報道を見て、明治中学・明治高校の林間学校を思い出したのは私だけでしょうか?今は笑い話として振り返ることができますが、同期の中には、二度と思い出したくない時代として記憶に封印をしている者もいると聞いております。それにも関わらず、「還暦を祝う会」の準備に携わりながら思うのは、『理想の学び舎』ではなかったのに、なぜ、こんなに「明治」が好きで、懐かしく、愛しているのだろうか、ということです。この気持ちが『愛』なのでしょう。還暦を迎えても、まだまだ感っている私です。

めいせいかい
明誠会

昭和54年卒 岩田 浩

6月17日(日)に、第16回「明誠会」の総会・懇親会を開催しました。当日は、なんと父の日! 会場の「北海道 飯田橋駅前店」には、父親としての権限もなく、家族に相手にされていない!?20余名が参加しました。

近況報告では、中学1年時のクラス名の発表(今年の出席者は中1C出身者が半分を占めていました。因みに担任は、技術の吉田貞男先生でした。)を行い、懇親会はおおいに盛り上がりました。

今回のテーマである「ONE MEIJI ~明治はひとつ~」を感じる瞬間は、「明誠会」恒例、懇親会最後の参加者全員による「古い顔」と「校歌」の大合唱です。肩を組み、熱唱する時に「明治」出身で本当に良かったと感じる幸福感、この仲間たちとは、還暦を過ぎて、呆けても酒を飲みたいと思わせてくれます!

一次会お開きの後は、会場を「テング酒場神楽坂店」に移し、更なる懇親を高めるため、明日をも考えない飲み放題コース!!酒量は増え続け、今秋の「神宮球場」「秩父宮ラグビー場」での観戦、「栃木ヶ丘ゴルフ場」の定例ゴルフ、「浅草のお好み焼き屋」「御茶ノ水での忘年会」を約束したものの、皆さんどこまで覚えている事か……。

楽しかった夜は、更けていきました。



しこうんかい
紫魂会

昭和55年卒 大迫 好孝

今年も『紫魂会』の同期会は淡路町のレストラン「OAKS」で開催されました。7月7日の「七夕」に開催となり、年に一回の再会に参加者は14人と少数でしたが、清水先生のご出席もいただき、楽しい宴になりました。

特に今年には二つの大きな話題がありました。

☆第一弾☆5月に開催された、第24回総明会チャリティゴルフ大会で紫魂会代表・村田君が優勝したことで大いに盛り上がりました。115名の猛者の

中での見事な優勝でした。

☆第二弾☆「これだけを実行すれば髪がフサフサになる方法」という、ここだけの話を理容業界のカリスマ・古瀬君が公開。その成果は数年後の紫魂会で実証?されることでしょうか(お楽しみに!)

私共紫魂会も総明会の幹事学年を務めさせて頂いたお陰で明治高校を中心とした皆さんとの繋がりが一層深まりました。

まさしく「明治はひとつ」と感じられた瞬間ですね。

明仁会の皆様、総明会総会・懇親会の盛会を祈念いたします。今年も総明会で「ひとつ」になりましょう!



めいしょうかい 明翔会

昭和56年卒 蓬田 裕一

今年の同期会は6月16日(土)にお茶の水の紫紺館椿山荘で開催されました。当日行われた役員改選では小生が会長に再選されました。これからの二年間は小生が統投することになりますが、従来と同様同期が気楽に参加できる会として運営して参りますので何卒宜しくお願いいたします。同期が集まって楽しめる場を提供することが最大の目的で、年会費もありませんのでまだ参加されていない皆様もお気軽にご参加ください。明翔会は、学生時代の思い出話や現在の仕事や家庭での苦労話などを美味しい酒でも飲みながらゆっくり語り合える場を提供していくことを目的として様々なイベントを開催しています。

今後もゴルフや温泉旅行など一緒に楽しみながら語り、旧友を温める機会を企画して参ります。この様なイベントは明翔会のホームページに随時掲載していきますので是非ご覧ください。最後になりますが、我々も四年後にはいよいよ還暦を迎えます。その区切りの年にはこれまで以上に多くの同期が集まって祝いのイベントが開催出来たらと思っています。それまでには是非一度同期会に足を運んでみてはいかがでしょうか。皆様のご参加を心からお待ちしています。

◇HP URL: <https://s56meiji.jimdo.com/>

めいこんかい 明魂会

昭和57年卒 岩崎 広人

明魂会の今年のテーマは、「あれから10年…」。総明会の幹事学年で久しぶりに多くの同期と顔を合わせ、一大事業(?)を成し遂げてから早いもので10年の歳月が経ち、四捨五入すると還暦に突入する微妙な年齢になった。

そこで今回は、豪華なおもてなしよりも気軽に集まる&集まりやすい企画に重点を置き、我々の原点『お茶の水』に集結しようとなった。

御茶ノ水ソラシティにある「プロントイルパール」を貸切、10年前の総明会映像なども流しながら3時間おおいに旧交を温めた。当日は雨模様で足元の悪い中、ご勇退された清水先生・大野先生・篠島先生も駆けつけてくださり、懐かしい話や近況などを伺った。

また今年度幹事学年の明仁会栗田さん、門田さんから総会の案内をもらいグッズの販売に協力した(ハズ?)同期会の最後は鉄板、応援団OBの矢島さんのリードで校歌斉唱。お店のガラス窓が割れんばかりに、気持ち良く酔いが回ったオジサン達の声が鳴り響いていた。

今回は一緒に幹事をやってくれたバドミントン部OBの松本さんが立ててくれた企画で、本人は当日やむを得ず欠席となってしまったけど、本当に良い会場で低予算で、みな、大変喜んでいて、この場を借りて報告します。



めいわかい 明輪会

昭和58年卒 浅見 尚次郎

ONE MEIJI ~ 明輪会から

明治中学・明治高校で過ごした青春時代も、気がつけば40年も前の事となってしまいました。楽しく、充実した思い出と共に、少なからず感じる淡い後悔…。明治での3年間、6年間の学校生活は、今でも、ふとした瞬間に、時にははっきりと、時には象徴的に思い出すことがあります。日々の生活の中で、思うようにならないことに苛立ち、なんとなく、気持ちが前向きになれない時、明治での青春の日々は、そうした気持ちを、少しだけ(ほんの少しかもしれませんが)和らげてくれます。きっと、明輪会、そして総明会の皆さんにとっても、それぞれの思い出は違って、明治中学・明治高校で過ごした毎日は、忘れ難く、大切なものなのではないでしょうか。

『ONE MEIJI』。思い出は、人それぞれであっても、なにかの縁で「明治」に集い、共に青春時代を歩んだ事に違いはありません。仕事も、置かれている立場も違う面々が、同期会や総明会で再会し、そこから、共通の出来事に行きついた時の嬉しさは、何にも代え難いものです。

58年卒の「明輪会」立ち上げに奔走してくれた皆は、50才の声を聞いて、何十年かぶりに顔を出した自分を、温かく迎えてくれました。『明治はひとつ』というメッセージは、きっと、こんなところにもあるのだと感じています。



めいしんかい 明心会

昭和59年卒 玉井 孝一

第54回総明会総会・懇親会の開催おめでとうございます。また、幹事学年の「明心会」の皆様お疲れ様でした。我々昭和59年卒は卒業以来忙しさにまかしながら、同期会を開いていませんでしたが、第47回総明会の幹事学年を期に毎年同期会を開くようになりました。今年の同期会は6月23日(土)新宿の日比谷Barにて、吉田先生にもご出席いただき盛大に行いました。今年は各部活を通じで積極的に声をかけると共に、お店の協力を得て「明心会カクテル」や「明心会シンボル旗」を作るなど新しい企画を行い、参加メンバーが少しでも楽しんでくれるよう工夫しました。

「明心会カクテル」での乾杯で懇親会がスタートし、久しぶりに会う仲間との歓談と共に、メンバー全員から近況報告してもらい、高校時代の面影から想像も出来ない様な近況やエピソードで大いに盛り上がりました。恒例の校歌においては、エールを振れるメンバー不在の中、私の発声に合わせて、全員がリズム、音程崩れることなく、大きな声で誇りを持って熱唱しました。まさに「ONE MEIJI」を感じた瞬間でした。明心会の「シンボル旗」下で皆が一つになって記念撮影が出来たことも良い思い出となりました。明心会では同期会のほか、ゴルフコンペや不定期ですが旅行に行ったりしています。今後も様々な明心会の企画を行い、一人でも多くの同期のメンバーに再開する機会を設営していきます。参加をお待ちしています。

とうこんかい 闘紺会

昭和60年卒 和田 直弘

来たれ闘紺会の仲間たち!

昭和60年3月に明治高校を卒業して、早34年が経とうとしています。

我々闘紺会では、毎年2月第一土曜日に新年会、7月第一土曜日に闘紺会総会、11月総明会総会直後の年3回同期会を行っています。これまで出席できなかった人も、是非一度、闘紺会の同期会に来てみてください。三十数年ぶりに会って話をしてみると、高校生時代には面と向かって言え

なかったことや誤解も不思議と氷解してしまいます。宴会の最後には、やはり明治高校校歌を肩を組みながら歌うと「明治はひとつ」であると感じる瞬間がよみがえってくること間違いありません。また、闘紺会では、釣り、ゴルフ、小旅行、グルメなどの有志による小グループでの活動も行っています。年に一度だけでも是非、闘紺会の同期会に出席して、楽しかった高校生時代に一緒にタイムスリップしましょう。今回は連絡先を下記に明記しておきます。お気軽にご連絡ください。お待ちしております。

【連絡先】(元高ⅢA組・剣道部)メールアドレス:watanabetomoo@gmail.com 携帯電話:080-6581-7788

なお、Facebookでも「渡辺智郎」で検索していただき、コメント欄にメッセージを入れていただいても結構です。

また、闘紺会のgmailアドレスは、meiji.toukonkai@gmail.com です。闘紺会ホームページアドレスは、<https://toukonkai.jimdo.com>です。

「闘紺会」でインターネット検索してもトップに出できます。または、Facebookに登録し「闘紺会」を検索して下さい。



しんせいぎ 新世輝

昭和61年卒 高橋 誠

平成30年7月14日(土)午後4時より両国・錦糸町の『鳥義』において第10回新世輝同期会が開催されました。こちらは、同期の柔道部OB・氏家喜久雄君のお店で、これまでの同期会でも焼き鳥やつくね等を差し入れていただいていたいました。

当日は、最高気温35度を超える猛暑にもかかわらず、参加者は同期が17名の他、恩師の篠島先生、山田先生、柴田先生他多数のゲストにも参加いただき併せて総勢23名の同期会でした。

まずは『ホームルーム』と名付けられた会計報告及び総明会の活動報告。続いて、篠島先生による乾杯で懇親会がスタートしました。途中、山田先生、柴田先生にも有り難い(?)お話を頂戴したり、参加者全員の近況報告会が急遽始まったり楽しい宴となりました。最後は飛び入り参加してくれた昭和戊辰乃会の光岡君に校歌を振ってもらい、同期の吉野君が三本締めで締めてお開きとなりました。例年のごとく、ゆる〜い同期会となりましたが当代にふさわしい同期会となりました。



めいえんかい 明猿会 昭和62年卒 大武 利弘

あつという間に半世紀。本年度でいよいよ50代を迎える我々明猿会で。振り返れば、学生時代は遠くになりけり。久しぶりに見る友の顔。それぞれ歴史を刻み、大人の男として渋さと哀愁を漂わせるようになっているはずだったのに…。相変わらずのバカ騒ぎ、学生時代から進歩なし。いやこの日だけの若返り、普段はナイスミドルとして世間と戦う我々のはず。そうに違いない、そう信じて、そうだよ。

今年も同期の永瀬君のお店「みの家」で6月2日に集まることができました。

当日は藤田昭造先生、清水克悦先生、栗野哲也先生、鈴木康巳先生、山口弘先生の5人の先生にご出席いただきました。本当にありがとうございました。先生方のほうが我々より若く見えるのはなぜだろう？

今年は同期の鈴木賢志君が明治大学国際日本学部学部長就任、栗野先生は明高の副校長先生、鈴木先生も教頭先生にご就任とお祝いムードの集まりとなりました。やはり明るい話題があるのはいいですね。

今回、都合がつかず参加できなかった同期諸君、人生100年時代、我々はまだ折り返したところだよ。まだまだ長い付き合い、これからもよろしくまた会いましょう。

しょうわぼしんのかい 昭和戊辰乃会

昭和63年卒 芳澤 徹

高Iの時の林間学校で全員が遭難しかけた事や、部室から部活着などを勝手に先生に捨てられたので4号館の生徒ホールに当事者の先生を呼び出したら生徒ホール一杯に生徒が集まっていた事など色々あったが、卒業式の夜に新宿のお店で、肩を組み皆が一体となり校歌を歌ったのが今でも印象に残っている。

その後、年に数回は同期の誰かに会う事ができるが、ここ最近では、集まるメンバーは固定化し未だ卒業以来会えていない仲間が多数いる。酒の席での昔話を嫌がる人もいるだろうし、歳を重ねる毎に色々な事情が次々と襲ってきたり、昔とは考え方が変化したり、様々な理由で参加できないのは仕方がないと思う。総明会の幹事だった年の同期会だったと思うが、(元)先生が、『この場に來たくても色々な事情で来る事が出来ない仲間もいるはずだ』と言われた事がとても考えさせられた。高校時代が黒歴史だったとか、在学中の思い出がないといった話も聞く事もあるが、またあの仲間とで肩を組み、あの時の新宿の夜みたいに校歌を歌えたらと思う。



へいせいかいげんかい 平成改元会 平成元年卒 田中 潤二

やっぱ俺たち最強!

居酒屋に行くと、よくこんな会話を耳にする「やっぱ俺たち最強だよな!」とか「お前ら最強だよ!」とか……。まったくもって、ヨッパライの戯言で呆れる。お前らが最強だったら世界中最強だらけになるだろ!

気安く「最強」という言葉を使うんじゃない、と小一時間問い詰めたくなる。ときに、平成最後の同期会が6月30日に、東京湾クルーズ豪華客船の一等船室内パーティ会場で開催された。会が進むにつれ、すっかりできあがった面々の中では、こんな会話が交わされていた、「やっぱ俺たち最強だよな!」と。うん、間違いない、これは決してヨッパライの戯言ではない。俺たちは間違いなく最強であり、最強という言葉は俺たちのためにあることに異論を挟むものはいないだろう。

30年以上前の学校内での数々の伝説、2年前の幹事学年での活動——、最高にインパクトを与えた、総明会のパーティや会報誌。そして今年の同期会も含めて、我々が集まれば、そこはすべてが最強だ。寄付金を集めて来た明仁会の後輩の面々にも、我々が最強であることの片鱗を見せられたらと思っているが、いかがだろうか?ただ、もう最強を目指すのは辛くなってきたから、来年は最強の座を譲ろうね。



めいあいかい 明愛会

平成2年卒 今泉 仁

幹事学年からあつという間の1年間、昨年の活動の息切れも有り?今年度の同期会が6月時点で日程も決まらないまま時が過ぎ、そして8月26日の開催がやっと決定したのです。但し、今原稿の締切りの関係で、今年の同期会の写真・報告を掲載する事が出来ません…。

ところが、昨年久し振りに再会を果たした我々は、お店を開いている同期がいれば皆で押し掛け、明治の野球・ラグビーを見に行き、そして7月には第1回ゴルフコンペまで開催してしまいました!やっぱり中高の同期っていいですね。と改めて思う今日この頃、11月25日の総明会懇親会も昨年を思い出し、また皆でハイアットリージェンシーへ集まりましょう!そして頑張れ、明仁会!!



めいじんかい 明仁会

平成3年卒 矢代 亘

我々、明仁会は昭和47-48年生まれ。同い年の有名人と言えばキムタク、貴乃花親方、ホリエモンなどジャンルを問わずバラエティに富んでいます。在学中、世はまさにバブルまっ盛り。世間が浮かれさる中、残念ながら我々学生はその恩恵に預かることはなく、自宅では少年ジャンプを読みつつ、徹夜でドラクエ。学校に行けば部活終わりに大学の学食(当時、師弟食堂)や、近所のパン屋(森田屋)の周辺を徘徊し、試験前は文具店(日印)へ他人のノートを抱えてダッシュする日々を過ごしておりました(もちろん、全員ではありませんが…)。そんな我々も卒業から27年が経ち、久しぶりに集まってみると、弁護士あり、税理士あり、開業して経営者になっている者あり、と学生時代が嘘のように各方面で活躍しておりました。そして、いよいよ幹事学年。来るべき11月25日の総明会総会・懇親会に向けて、昨年よりメンバー集めやテーマ選定などの準備を始め、今年の3月には同期の結束を高めるべく、卒業時の学年主任および担任の先生5名をお招きして盛大に同期会を開催しました。我々は駿河台時代の象徴「松枝先生」の教えを受けていない世代ではありますが「最後の学帽・革カバン」世代であり、在学中は安部先生をはじめとした恩師の方々の愛のムチで鍛えあげられた自負もあります。同期の力を結集してより良い総会・懇親会となるよう準備を進めておりますので、多くの方のご参加をお待ちしております。



かいかん だすこいじゅく 快汗、どすこい塾

平成4年卒 小畑 啓

1991年5月千代の富士引退、てっきり九重親方になるかと思っていたらまさかの陣幕親方襲名。その翌月、雲仙・普賢岳の大火砕流によって修学旅行の大幅なルート変更を余儀なくされた我々「快汗、どすこい塾」。

そんな九州での最終夜。感動のイベントを経験した我々のエネルギーに呼応するかの如くフィリピンではピナトゥポ山が噴火の絶頂を迎えた。個人的には帰宅までにも色々あったのだが関係ないのでここでは割愛しよう。そのエネルギーを発散すべく、引退した我々運動部有志が高校最後の紫紺祭に投入したのは有志おぼけ屋敷、その名も「陣幕親方」であった。

そう、そうなのだ。修学旅行、紫紺祭、卒業アルバム編集、謝恩会。数々のイベントにはあの男がいたのだ。時に先頭に立ち、時に裏方に回り、変幻自在の活躍を見せたあの男。2019年11月(予定)にあの男、米川幸次が再び感動の涙を流すのだ。…という訳で平成4年卒「快汗、どすこい塾」は第55回総明会総会・懇親会に向けて活動開始しました! ※写真に米川くんは写っていません。



りゅうめいかい

隆明会

平成6年卒 三保谷 建介

初めまして。平成6年卒「隆明会」と申します。明治中学入学から明治高校卒業までの6年間を通してお世話になった山田伸夫先生に「総明会が益々隆盛となりますように」との思いから命名頂きまして3年が過ぎ、従来野球部と応援指導班出身者を中心としていた集まりから間口を広げまして、去る平成29年12月2日に神田駿河台の「ピアダイニング ヒナタ ガーデン」にて初めての懇親会を開催致しました。当日は名付け親であります山田先生にご臨席頂きまして、20名が結集しました。高

校卒業以来の顔合わせと言う方や、在学中に知り合わず初対面と言う面々もありましたが、明治高校で時を同じくして学んだ中では打ち解けるのも早く、校歌斉唱でお開きと相成りました。次回は2018年12月1日(土)神田駿河台の「ピアダイニング ヒナタ ガーデン」にて開催予定であります。平成6年卒の方々の一々でも多くのご参加をお待ち申し上げます。詳細はFacebook等にて随時お知らせしておりますが、詳細のお問い合わせ等は三保谷建介(mihoya@mtb.biglobe.ne.jp)までお願い申し上げます。

きょうがくかい

共楽会

平成23年卒 三浦 直人

すでにご存知の方も多いとは思いますが、同期の平田裕貴くんが、今年度より、晴れて母校の教員となりました。卒業してから数年も経つと、現役時代に教わった先生方が少しずつ退任され、新しく着任された、知らない先生方も増えてくるわけですが、見知った同期の顔を、これから何十年の後も教員室で見られると思うと、うちの学年はラッキーなのかもしれないと感じます。

思えば平田くんは、中学時代からすでに、「先生」の風格を身にまっています。定期試験前になると、同級生を捕まえては、文系・理系何でもござれの特別授業を展開し、先生方も顔負けの名調子で、試験対策のポイントを力説していました。野球部の同期メンバーを中心に、彼の特別授業に救われた、彼のお蔭で単位を落とさずに済んだ、という方も多いことでしょう。大学時代は塾講師のアルバイトで、そこまでやるか、とあきれられるほどの熱意をもって、生徒に向き合い、教育実習時には1人だけ、ベテラン教員かのような安定感を見せ、他の実習生をドン引きさせました。中学時代から今日に至るまで、勉強で困っている人を見ると、自分の知識を分けずにはられない、というアンパンマンのようなスタンスを貫いてきたのが、平田くんなのでした。修学旅行の出し物では、先生方の口癖ネタを披露したり、卒業後何年経っても、中1から高Ⅲまでに習った教育実習生の名前と担当範囲を全て覚えていたり、明治中高の授業に対する思い入れは、オタクと言っても良いほどでした。そんな平田先生、今年は中学3年生を担当しているそうです。ちょっと前まで僕たちが中3だったような気もするのですが、時の経つのは早いものです。平田先生が落ち着いたら、彼の就職祝いにかこつけて、教育実習メンバーの飲み会でも企画しようかなと考えている今日この頃です。



応援団OB会

幹事長 光岡 孝之 昭和63年卒

第54回総明会総会・懇親会の開催、誠にありがとうございます。また、幹事学年の明仁会の皆様、本当にありが

とうございます。さて、応援団は本年結成70周年、またチアリーディング部は創部10周年を迎えることが出来ました。これも学校関係者、保護者、卒業生および現役の皆様のお蔭と感謝いたしております。平成30年6月3日(日)明治大学駿河台キャンパスのアカデミーコモンにて「70年の伝統と誇りの継承 そして未来へ」と題し、OB会と現役応援団との共催による記念式典および祝賀会を開催いたしました。当日は学校法人明治大学柳谷理事長はじめ学校関係者、東京六大学附属高等学校応援団連盟の各校応援団OBOG会の皆様など約350名の方々にご列席賜り、盛大に開催することが出来ました。

また記念事業の一環として、歴史を継承すべく70年史を編纂し発刊。また、チアリーディング部の新ユニフォームを寄贈いたしました。このユニフォームは本誌を読んでいる皆様の思いも乗せて、野球応援では神宮球場以上の球場のみ着用できることとなっています。今夏はあと少しのところでしたが、近々その姿が見られることを祈っております。

今後も、硬式野球部はもとより明治高校を応援していく所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



吹奏楽班OB・OG会

平成2年卒 深井 重男

共学化して満10年、OB・OG会となって8年目となりました。昨年度の総会・懇親会は、3月25日に開催された

学内行事「プラスの祭典」の終演後に調布駅前の中華料理店で開催され、顧問の先生方、外部コーチの方々、お世話になっている楽器店さん等も一緒に、新入会員である大学一年生を御祝いすることができました。

平素の活動は「現役の為に」をモットーに、母校と、いま在籍している現役生あってこそOB・OGであるという認識の下、夏のコンクール大会や定期演奏会の裏方業務を担っております(写真は定期演奏会終了後に裏方のOB・OGと一緒に撮影)。

現役後輩達も、夏のコンクールでは心ワクワクする演奏で金賞を頂き且つ東京支部大会へ推薦されています。また数々の海外演奏旅行など、着実に進化している姿に卒業生としても頼もしい限りです。

昨年の会報に掲載の通り、いよいよ吹奏楽班も創立60周年を迎えます。来年の1月に開催されます第60回・記念定期演奏会または3月年度末に開催予定の「プラスの祭典」にて、現役後輩と共にOB・OGも合同演奏をさせて頂く予定です。卒業生の皆様の御来場を心よりお待ちしております。詳細は高校のホームページ等でも御案内させていただきます。

図書班OB会 昭和52年卒 大西 静士郎

那古のおばちゃんと図書班

本年4月23日、明治大学那古寮(千葉県館山市にあったが、現在は閉寮)の寮母を務められていた「那古のおばちゃん」こと櫻井利子さんがお亡くなりになりました。櫻井さんと図書班との関係については、平田幸彦氏(昭和45年卒)の話によると、1967年から夏の合宿(1972年から春・夏)を那古寮で行なうことになったことが、その後のご縁を結ぶ契機となりました。詳しくは、2004年の会報の『図書班那古物語』をご参照いただければ幸いです。訃報は、平田氏を通じてOBに知らされました。

平田氏は大学卒業後も那古に通ったり、OBの集まりにお招きしたりして櫻井さんと交流を深めていました。昨秋、櫻井さんが体調を崩されて入院すると、平田氏は東京から館山にお見舞いに通っていただけでなく、病気が悪化して食事が喉を通らなくなった櫻井さんに栄養ドリンクを探して届けました。平田氏の気持ちが通じたのでしょうか。25日の通夜に内木幸介氏(昭和50年卒)と私、翌日の告別式には桜井秀明氏(昭和45年卒)が館山まで駆けつけました。その他にも小松敬典氏(昭和47年卒)、山村嘉雄氏(昭和50年卒)などOB諸氏から香典、弔電があったそうです。(25日から海外出張の予定が入っていた平田氏は、通夜前日の24日夜に弔問されました。)斎場には故人が大切にされていたものが飾られていました。寮を利用した大学のゼミやクラブが残っていた多くの寄せ書きと寮が閉寮となった時(1996年)に図書班OBが開いた『おばちゃんに感謝する会』の写真でした。それを見た時、櫻井さんが『明治』の子どもたちを愛してくれていたことを改めて感じました。心からご冥福をお祈りいたします。おばちゃん、ありがとうございました。合掌



放送班OB会 昭和57年卒 宮田 健

放送班OB会のうち、故田村晴彦先生に教えを受けた有志で、先生の命日(5月17日)にあわせ先生の眠る港区三田の長久寺へ墓参りと懇親会を行っています。

この墓参会は、毎年5月の第3土曜日に、集合は田町駅前Dコーヒー店前に16時と決めて開催しています。今年は幹事学年から放送班OB1名を含む2名が参加してくれました。1年ぶりや初対面の先輩、後輩ですが、挨拶もそこそこに会話が始まります。

明治のそして放送班のOBであること、この機会を作って下さっている先生に毎年感謝する瞬間です。さて、夏前の過ごしやすいい気候に恵まれ、今年も歩いて先生の眠る長久寺へ向かう事となりました。お寺に到着すると阿吽の呼吸で掃除が始まります。今回は、昨年9月にご逝去された応援団OBで先生のお兄様でもある、故 田村正彦先輩のお墓もすぐ横にありましたので、同じく掃除を行い、それぞれのお墓に各自手を合わせました。その後、門前で写真を撮り恒例の墓参りを終えました。その後、これまた恒例の場所で開催した懇親会では、時が経つのも忘れ思い出話に花を咲かせました。今回の幹事学年は田村先生の教えを受けた最後の世代との事で、時の流れをひしひしと感じました。

これからも、放送班OBに限らず、故 田村先生にゆかりのある方には気軽に参加して頂き、ともに楽しい時間を過ごしたいと思います。次回は、2019年5月18日(土)ですよ! 田町駅前のコーヒー店の前でお待ちしています。



けんしんかい 剣道部OB会 見心会

昭和52年卒 羽田 郁雄

見心会では、この1年は特に大きなイベントは行わず、OB・OG総会、稽古会(写真、文京区の皆さんと合同稽古)、五大学付属剣道大会の応援とその後の懇親会など、毎年恒例の行事を実施してまいりました。

また、現役剣道部員との交流の一つとして、見心杯剣道大会を7月に開催し、大いに盛り上がりました。「継続は力なり」と言いますが、これらの行事は毎年続けていきたいと思えます。多くのOB・OGの参加をお待ちしております。

一方剣道部では今年嬉しいことがありました。それは例年になく多くの部員が入部したことです。高1が男子9名女子3名(内、内部進学者、男子3名女子2名)入部したことで、これまで以上に活気がわいています。

試合では久しぶりに男女そろって都大会出場を果たし、今後ますます期待が持てます。これからも顧問の先生方と一丸になって、剣道部を支えていきたいと考えております。

めいきゅうかい 硬式野球部OB会 名球会

会長 一泉 二郎 昭和51年卒

日頃より明球会へのご支援を頂きまして誠に有難うございます。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。今夏も残念乍ら日大鶴ヶ丘高校に0対7x。今年の東京都予選神宮球場の入場行進は100回記念大会にて過去の出場経験校が先に入場し前列にグループ分けして整列致しました。その順番は出場回数順。夏の大会3回出場明治高校は3回出場の他の学校と同時の行進・整列となりました。6月3日には明治高校応援団結成70周年・チアリーディング部創部10周年記念式典にご招待頂きました。柳谷理事長始め安藏校長先生、皆様と楽しく(特に明治高校野球部の事を)お話させて頂きました。式典にて応援団OB会より現役チアリーディング部員に背番号21の応援用のユニフォームが贈呈されました。野球部のベンチ入り20名の次の21番との事です。この背番号21番は甲子園か神宮でしか着る事が出来ないとの事です。近い内にこの21の背番号を見てみたいものです。また、応援団OB会長の廣野宏士様から明球会会報誌に、応援団は「野球部と『常に共にあり』」という素晴らしいご挨拶を頂きました。あと3年で明治高校硬式野球部創部90年です。創部80周年記念式典から早や10年です。明治高校硬式野球部創部90周年記念式典を開催する計画でございますので、皆様のご協力・ご参加を是非お願い申し上げます!!



めいすいかい 水泳部OB会 明水会

平成3年卒 中村 正章

今年度の「明水会」は、4月21日に、総会が赤坂の村嶋先輩の事務所にて、その後懇親会が赤坂サカスの飲食店で開催されました。当日は、諸先輩方をはじめ幹事学年の3名を含め総勢17名が集まりました。お恥ずかしい話ですが、幹事学年の3名は久しぶりの参加でしたので、少し緊張しながら参加しました。

しかしながら懐かしい顔ぶれと久しぶりの再会をすると、気持ちは一気に当時(明治中学・明治高校時代)に戻りましたし、また現役時代が重なっていない大先

輩方にも非常に温かく迎えて頂き、嬉しく思いました。そして懇親会では、この会のために、私が持参した現役時代の写真を、数枚回覧したりしました。それを見ると、皆さん、当時の記憶がよみがえり、入部した頃の話や、懐かしき福島猪苗代での夏合宿、その後の新潟や千葉での夏合宿などの思い出話などに花が咲き、楽しい時間を共有することができました。私も卒業してから20年以上経ちましたが、まさに「明治はひとつ」を感じた経験でした。明水会事務局の木内先輩(昭和63年卒)、誠にありがとうございました。尚、総会や懇親会の他にも、随時、親睦会は開催しており、開催場所は、水泳部OBの先輩が経営する飲食店(この会報にも載っています)との事です。懐かしい再会はととても貴重だと思います。皆様のご参加をよろしくお願い致します。



スキ一部OB会 めいせつかい 明雪会

平成3年卒 浅倉 太明

初めてスキーをしたのは小学生時代、妙高のスキースクールだった。整備されたゲレンデから外れて

バックカントリーを滑るのが楽しく、自然と一体になれるスキーが大好きになった。明治中学では班・部を転々とし高校から入部したのだが、吹雪の中での練習や大会、夏の立山合宿での経験は、私を大きく成長させてくれた。そして卒業後、先輩に誘われ日本橋で開催されるOB会に出席するようになった。「明雪会」には毎年多くの先輩方が参加されるが、総じて優雅さが大人の余裕感を漂わせている。それに加えても仲が良くパワフルなので毎回盛り上がりつつ楽しい。また本年度は幹事学年として寄付広告のお願いにも先輩方は気前良く応じていただき大変有り難く思う。本年度総明会のテーマは「ONE MEIJI ~明治はひとつ~」。かつては男子のみだったが今は後輩にOGがいるし部長も女子部員である。昨シーズンの成績は、中学生ノルディック男女とも全中大会出場。高校生ノルディック男子、インターハイ出場。高校生アルペン女子、関東大会出場と輝かしい。これも顧問の西村先生をはじめ、副顧問の先生方やOBOGによるコーチ指導や激励会、厳しい練習をこなす現役部員とそれを支えるご父兄方のおかげだ。世代を超え全員が一丸となって名門スキー部を復活させた。これこそONE MEIJIの賜物だと思っている。

バレ一部OB会

事務局長 樋田 哲次 昭和52年卒



明治はひとつ バレ一部もひとつ OB会もひとつ

昨年9月の総会場で、満場一致で会長に就いた石田氏は、今年以下2点をテーマに役員一同OB会の運営に、注力しております。

☆「現役ファースト」現役に対する応援・支援 ☆「バレコート」の絆」会員相互の親睦及び情報発信

1点目については、文字通り試合の応援に行くこと。また合宿へ指導に行く若手OBに対して、旅費・宿泊費へのOB会からの補助等を打ち出しました。2点目については、記事が停滞しているHPを見直し、活発な情報発信するように計画しております。

さて、表題の「ひとつ」ですが、バレ一部は、60年以上の歴史をもちながら、男子の顧問先生は、故松枝先生と、山中先生のお二人だけです。また、女子部も創部以来、牧野先生、松本先生に10年間暖かく見守っていただいています。都内のかつての名門高校のバレ一部は、全国大会優勝経験のある顧問が亡き後、OB会がバラバラになってしまったということも聞きます。明治高校バレ一部OB会はそんなことはなく、年配、中堅、若手、女子が一丸となって、現役バレ一部を応援していきます。



フェンシング部OBOG会 昭和41年卒 岩重 哲雄

※今年三月、初めての女子卒業生誕生!!

二年連続して関東大会に出場!! 昨年水戸大会に続き、今年6月3日埼玉新座大会に出場し、初の一勝をする事が出来ました。少ない練習量の中で発足三年足らずなのに、集中力、努力の成果の現れだと思います。今後はもっと練習量を増やし、やるからには勝てる力を付けさせてあげたいとコーチ同志しております。○現在の練習環境!! 現在は火曜日に調布にある「東京ガーデンフェンシング」を二時間有料で借り、OB二名で指導しております。又、金曜日は校内の剣道場を使わせて頂いており、OB一名で指導しておりますが、道場という事でシューズを履けず、フェンシング専用のピストを練習の毎に設営と撤去を繰り返しております。その為シューズを履いての練習はピスト上のみとなり、限られたスペースでのフットワークとなっております。○ご寄付のお願い!! 強く成る為に生徒から練習日増の要望がありますが、有志同好会の為、これ以上の校内での練習場の要求は難しい状態です。従って有料練習場での練習日を増やすしかありません。OB会も廃止状態が長かった為に高齢化で生徒達を援助する資金不足が心配です。そこで今回は、総明会員の皆様にご寄附のお願いをさせて頂きたいと思っております。金額は問いませんので宜しくご理解の程ご協力下さい。

払込取扱金融機関 銀行口座 ゆうちょ銀行
〇一八(ゼロイチハチ) 普通 5643213
口座名 メイジコウコウフェンシングブ
オービーカイ(後藤義明)※ATMの場合、記
号=10100-1、番号=56432131です。
(お願い)振込手数料は各自のご負担をお願い
いたします。なお、郵便局での現金振込は振込
手数料が540円かかりますので、他の方法等
での振込をお勧めします。(ATM利用による
ゆうちょ銀行口座間の振込は無料)



バスケットボール部 OB・OG会 平成4年卒 山下 康彦

バスケットボール部OB・OG会では、現役生徒をサポートするために1、現役の指導協力 2、春/夏合宿での指導協力 3、大会での応援の3つをメインに行なっております。現役のサポートはOB・

OGが個別に実施するのも良いのですが、OB・OGが一致団結することで持続的支援が可能になる事をモットーにOB・OG同士の親交を深めるべく毎年以下のことを実施しています。
・バスケットボールトーナメント(秋) OB・OGガチンコトーナメントを実施(18才から50才代まで参加)トーナメント終了後は選抜メンバーで現役とも対戦
・OB・OG総会(冬) 新OB・OGを紹介しながら会食
・ゴルフコンペ(秋) バスケをしないOB・OGも参加できるよう開催。さらにさらにOB・OGでバスケを続けているメンバー同士での繋がりを作れないかと思案し、昨年の2017年度開始したのが
・OB・OGバスケットボールチームを発足し、区民大会に参加 夏のシニア大会(40才以上)…前島先生も参加、冬の通常の大会(18才以上)。最後に昨年は前島先生の勤続30周年記念パーティーを実施(バスケ部支援も同じく30周年)。上は80才代のOBから下は大学生まで100名を超える一同が集まりました。バスケットボール部はOB・OG一丸となって現役を支援しています!!

化学部OB会

OB会事務局 山崎 一郎 昭和49年卒

第四回明治高校化学部OB会報告

平成30年8月11日 生田ひろ寿司にて、顧問の後藤先生の米寿のお祝を兼ねて18名の参加で昼間に行いました。山の日で祝日なのに仕事で来られない、介護で来られない、自身の体調不良で出席できないという状況により前回より6名も少ない集まりでした。昭和53年以降の名簿もなく、現状ではいずれ自然消滅するOB会であります。昭和42年卒柳岡会長の時に科学部から化学と物理に独立して半世紀、今もクラブとして共学になっても存続しているようですが、OB会としては機能不全ではあります。

総明会のつながりから若手のOB会とつながればと思います、明治はひとつ、前へです。



物理部OB会 明物会

めいぶつかい
評議員 磯部 進 昭和45年卒

明物会は物理部のOB会です。文化部では珍しい幅の広い年齢構成を誇っていますが、現役部員の少なさに危機感を持っております。今年に入って、2月17日にOB会、4月7日に新入会員歓迎会と立て続けに開催しました。今年度は3人の

新入会員を迎えることができ、大変嬉しく思っています。新入会員とお会いしたのは初めてである上、自分から見たら50才近く離れている訳ですが、明物会の会員として何ら違和感がありませんでした。これこそが、今年のテーマ「ONE MEIJI ~ 明治はひとつ~」なのかと、改めて感じた次第です。会員は、ただ単に増えれば良い訳ではありませんが、OB・OG会として増やすための努力や援助をしていきたいと思えます。三年前の歓迎会では、「男の趣味」としての色合いが強い活動内容にまで触れ、対策を考えましたが、それはそれで良い事と考えるように変わって来ています。現役の部内には、いつの間にか3Dプリンターも稼動していたり、どんどん変化しております。今年こそ、実際に学校を訪問し、現役部員や顧問の先生方との交流を図ること。歓迎会や総会の開催に捉われなくて、更にOB同士の会合を増やして行きたいと思っています。そのためには、井家上明物会会長を中心に、大学生から老人会員まで、更に纏まって行かねばならないと思えます。



地理研究部OB・OG会

平成30年卒 松浦 毅

今年、地理研は創立70周年を迎えました。これを記念して、地理研OB・OG会総会・懇親会を11月11日(日)に明治大学駿河台キャンパス紫紺館にて開催します。この原稿を書いている6月時点では有志が集まって検討を始めたばかりの段階ですが、70周年の節目にふさわしい式典を実現したいと思っています。

矢口清先生、櫻井正美先生、由井将雄先生と続く歴代顧問の先生の薫陶を受けた各世代で、社会背景や活動スタイルに違いはあるかもしれませんが、明治高校地理研部員として全国の産業や自然を訪ね歩いて、見て、考えた経験は、全員共通の思い出であり誇りです。私自身も、青森、愛媛、当時開通したばかりの瀬戸大橋、などでの調査を懐かしく思い出します。

これが私たちにとっての「ONE MEIJI」であり、「ONE地理研」ではないかと思えます。

今後、総会・懇親会は2年に1回の開催で定例化する予定です。一人でも多くのOB・OGのご参加を得て交流を深め、より盛大な集まりにできるよう、微力ながら努めてまいります。

歴史研究部OB会 昭和63年卒 山下 征隆



私も、歴史研究部には昭和25年に初めてOBを輩出したことが記録に残されています。歴史研究部自体が誕生した時期を考慮すると、文字通り「歴史」を刻んだ由緒ある文化部です。今でも、歴史に熱い探求心をもった11名の部員たちによって、元気に部活動が運営されています。

平成30年6月23日、OB会が3年ぶりに開催されました。場所は御茶ノ水「ビストロ 備前」フランス料理のお店です。上は昭和33年度卒業の先輩から下は平成18年度卒業の後輩まで、29名の歴史研究部OBが集まりました。

今年のOB会は、30余年にわたって歴史研究部顧問を務められ、今般顧問をご勇退された栗野哲也先生の労をねぎらい、新たに顧問に就かれた田中元暁先生の前途を祝福する思いを込めて催させていただきました。

栗野先生には長年、歴史研究部を引っ張っていただき、並々ならぬご苦労をおかけしましたが、現在も歴史研究部が存続しているのは栗野先生がいたからこそと言っても過言ではないと思います。そして、新たに顧問となられた田中先生には、更なる歴史研究部の発展を切にお願いしたい所存であります。我々歴史研究部OB会一同も、今後発展していく歴史研究部のために、その一助となれる存在になれるよう、努力してまいります。



『ごとう会』 昭和52年卒 大西 静士郎

1995年に退職された後藤朋智先生(化学)を囲んで、当時の教え子たちをはじめとする先生にお世話になった者たちが集う『ごとう会』が、今年も五月(ごとう)十日(のひ)(木)に新宿三丁目の『クルーズクルーズ新宿』で開催されました。今年は、後藤先生が米寿(八十八才)を迎えられるということで、いつもよりは気合の入った四十人を越える方々にご出席いただき、先生をお迎えいたしました。

さて、この後は当日の様子を報告するべきなのですが、どのように言えばよいのでしょうか。と言いますのは、冒頭の先生のご挨拶で奥様の美恵子様がお亡くなりになったお話をされ、私たちの全く予想していなかった展開になったからです。先生のお話によると、奥様は昨年の三月に体調を崩されて急逝されたとのことで、私たちには、余計な気を遣わせまいとして秘密にされていたそうです。ただ、いつまでも隠してはおけないので、今回お話くださった、ということでした。私は、美恵子奥様とは『ごとう会』の時しかお目にかかりませんでした。物静かでお優しい印象の方でした。この奥様の支えがあるから、後藤先生が明治高校の教諭として活躍できたのだらうな、と思った記憶があります。奥様を悼む気持ち。奥様を亡くされた先生のお心を慮る気持ち。気を遣いすぎるのは、(奥様のことを話された)先生の本意ではないだらうという気持ち。先生の米寿をお祝いしたいという気持ち。出席者のいろんな気持ち、思いが会場に満ち溢れた、記憶に残る『ごとう会』になりました。あらためまして、美恵子奥様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌



第8回ヤマダ大感謝祭

平成6年卒 三保谷 建介

すっかり恒例となりました「ヤマダ大感謝祭」も本年で八回目となりました。今回は明大生に馴染み深い新宿は西口の栄寿司さんにて去る4月28日土曜日に40名の参加者にて盛大に執り行われました。

山田先生の教えを受けた昭和から平成の卒業生の年齢差は四半世紀を優に超えるものではありませんが、先生を中心とした話の輪は垣根無く広が

り、終始和やかな雰囲気の中で宴は進んで参りました。当日は総明会幹事学年から廣田拓郎先輩にご参加頂きまして、開設された明治グッズの販売ブースも盛況で多くの参加者の方々にご購入を頂きました。

終盤には「明治高校を甲子園に送る会」代表の山浦晟暉様より山田先生に記念品が贈呈され、による校歌斉唱によりお開きと相成りました。次回の「第9回ヤマダ大感謝祭」につきましては例年通り4月の最終土曜日の2019年4月27日(土)に開催予定であります。今回に引き続き多くの方のご参加をお待ち申し上げます。詳細はFacebook等にて随時お知らせしておりますが、お問い合わせ等は幹事の三保谷建介(mihoya@mtb.biglobe.ne.jp)までお願い申し上げます。

(有)太陽精器製作所

昭和50年卒・明紫会

代表取締役

世古俊之

材料から加工・熱処理・めっき研磨までワンストップが強みです。今、下町ボブスレープロジェクトを盛り上げています。

HP : 090-8892-5576

祝 第54回総明会 総会・懇親会

昭和50年卒

明 紫 会

昭和50年卒 明紫会

高橋郁夫

ダイアナ株式会社



www.dianashoes.com

祝 第54回総明会総会・懇親会

明 々 会

昭和51年卒

割烹 魚きく

亀井利一

(昭和50年卒 明紫会)
山岳部OB

Tel. 03-3386-6128
東京都中野区沼袋3-26-12



ハワイアンダイニング&バー

マハロア

窪寺弘匡(昭和50年卒 明紫会)

東京都中野区新井1-23-21 プルメリア1F
TEL. 03-5345-5086

f ハワイアンダイニング&バー マハロア Q



〒177-0033
練馬区高野台一三七 N2フラザ
TEL 03-3591-0105
FAX 03-3591-0156

吉田 博

代表取締役

株式会社 エヌエフウイレッジ

総合不動産

昭和五十一年卒 明々会

有限会社トラストワーズイ
金属・アクセサリー企画、製造
代表取締役社長 山田真也
(硬式野球部OB)
取締役専務 山田健一
(硬式野球部OB)
〒111-0004
東京都墨田区八広四丁目八番一十号
TEL 03-3682-3333
FAX 03-3682-3938

疲れるけど履きたいヒール靴に。

ARCH FIT

FOR BOOTS & PUMPS アーチフィット

ウレタンフォーム
+マイクロファイバー

つま先部分が薄型(1mm)で
足入れスムーズ。
パンプスでも窮屈感はありません。

土踏まずのすきまを
うるめるアーチサポート

足裏面をホールドする、
裏付けパッド+カップ形状



●サイズ: S-22.0-22.5cm
M-23.0-23.5cm
L-24.0-24.5cm

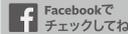
荒川産業株式会社 〒111-0024 東京都台東区今戸2-14-6

昭和51年卒 明々会 前田 稲一郎

厨房のアメニティを創造する
津守興業株式会社
代表取締役 **津守 徹**
(昭和51年卒 明々会)
〒332-0001
埼玉県川口市朝日5-5-22
TEL 048-222-6187
FAX 048-222-8584
E-mail:tsumori@luck.ocn.ne.jp

銀座線 外苑前駅すぐ
豆菓子・おかきの店
青山但馬屋
太田垣 政紀
(昭和51年卒 明々会)
〒107-0061
東京都港区北青山2-7-11
TEL.03-3401-2843
www.aoyama-tajimaya.co.jp

プラスチック製品製造
株式会社 プラテック
代表取締役
林 伸光
(昭和51年卒 明々会)
〒339-0034
埼玉県さいたま市岩槻区笹久保1137-2
電話 048-791-7311(代)
FAX 048-791-7312
E-mail Platec@image.ocn.ne.jp

手打ち
如月 徳
如月 徳 (きさらぎとく)
昭和52年卒 男子校根性組
石黒 理樹
TEL 03-3801-9001 荒川区荒川7-26-9
 Facebookで
チェックしてね

株式会社 大西静商店
取扱商品:貸事務所・パーティーグッズ
大西静士郎
男子校根性組(昭和52年卒)
〒101-0032
東京都千代田区岩本町2-2-13
TEL. 03-3866-6097
FAX. 03-3866-6098
http://www.rakuten.co.jp/osparty/

昭和52年卒
佐藤 大英
曹同宗圓通寺
墨田区向島3-11-6
Tel. 03-3622-7045
http://www.entuuji.or.jp

パートナーズ総合事務所
司法書士 **菅原 誠**
行政書士
(S52年卒 男子校根性組)
〒110-0008
東京都台東区池之端1-1-1
池之端ビル8階
TEL. 03-3835-8041
FAX. 03-3835-8042
E-mail: ZVC00312@nifty.ne.jp

V3 Kadoya
小川町スポーツ店街へようこそ
www.facebook.com/v3kadoya/
角谷幹夫
Mikio Kadoya
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-2
TEL: 03-3295-2525
FAX: 03-3291-3564

米田税務会計事務所
昭和53年卒(バスケット部)
税理士 **米田晴彦**
〒130-0026
墨田区両国2-17-3
(両国高橋ビル3F)
TEL 03-3631-8878
FAX 03-3632-3346
E-Mail: yonetakaikai@tkcnf.or.jp

練馬 高野台
ネーチャーズフォーレストグループ
代表 **横山 茂樹** (昭和52年卒男子校根性組)
本店 東京都練馬区高野台1丁目7番3号NFプラザ3-210
TEL 03-3996-0612 FAX 03-3996-0630
http://www.neritaka.net/ E-mail: nfsy@opal.famille.ne.jp

祝 第54回総明会 総会・懇親会
男子校根性組
昭和52年卒
http://dankon52.web.fc2.com
題字:小嶋真作書

 株式会社 小島商会
自転車部品・用品卸
代表取締役
小島 隆司
昭和53年卒
東京都台東区上野1-6-5
TEL.03-3831-9792

昭和53年卒 マンドリン部OB
弁護士 **高木 茂**
銀座木挽町法律事務所
〒104-0061 東京都中央区銀座4-10-3 セントラルビル6F
TEL.03-6228-4487 FAX.03-6228-4489
URL http://kobikilaw.jp/

Wako Real Estate Investment Co., Ltd.
和光アールイーアイ株式会社
代表取締役
熊澤正幸
昭和54年卒
〒102-0072
千代田区飯田橋4-1-11 六洲社ビル
TEL.03-3512-0750
FAX.03-3512-0753
http://www.wako-rei.co.jp/

昭和54年卒
明誠会
(株)朝倉鋳物
代表取締役
朝倉一寿

祝 第54回総明会 総会・懇親会

昭和54年卒同期会
明誠会
http://1st.geocities.jp/meiji_s54/index.html

昭和54年卒同期会
老伍会
SINCE 1980
吉田 雅博
埼玉県川口市

暮らしの衣料 まつざわ
株式会社
調布松澤屋
取締役
松澤和昌
(昭和54年卒明誠会)
〒182-0026
東京都調布市小島町1-3 4-12
TEL 042-482-2634

愛三電機株式会社
代表取締役
公認会計士
河合 洋
昭和54年卒 明誠会
〒101-0021
東京都千代田区外神田1-12-3
TEL. 03-3253-3611(代表)
http://www.aisan.co.jp

**相続
遺言**
つね ずみ
行政書士 税理士 **常住事務所**
☎03-3905-6981
〒115-0055 東京都北区赤羽西1-5-1-606
アビレ・赤羽アポード1ビル内 FAX: 03-5963-7430
E-mail: yutaka@tokyo.email.ne.jp
代表 **常住 豊** (昭和54年卒 明誠会)
日本行政書士会連合会 理事/東京都行政書士会 会長/公益社団法人成年後見支援センターヒルフェ 理事長

矢ノ目忠税理士事務所
昭和54年卒 明誠会
〒135-0048
東京都江東区門前仲町
2-2-16 えとりビル3F
TEL 03-5639-7761
FAX 03-5639-7762
E-Mail: yanome@yanome.jp

精密金属挽物加工
有限会社 **高埜製作所**
代表取締役
高埜 雅信
昭和54年卒 明誠会
〒131-0045
墨田区押上3-15-6
TEL.03-3617-4365
FAX.03-3612-2368

昭和54年卒
明誠会
株式会社 芝山
代表取締役
木村 誠

紫魂会
渡辺 裕之

税理士
廣田 敦
昭和55年卒
廣田税務会計事務所
〒330-0841
さいたま市大宮区東町2-201
TEL. 048-641-6679
FAX. 048-647-8383

有限会社 **オフィスダン**
代表取締役 **伊東正明** 昭和55年卒 紫魂会
本 社: 〒132-0031 東京都江戸川区松島3-32-1
銀座支店: 〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-2
ティアラグレイス銀座タワー
TEL:03 3653 1366 E-mail:bellito@softbank.ne.jp

包装資材販売・梱包請負
寺村梱包株式会社
代表取締役 **寺村一義**
(昭和56年卒 明翔会 バスケットOB)
東京都文京区本郷2-19-11
TEL 03-3813-6686
FAX 03-3813-6689
http://www.teramura-pack.co.jp

かばん・袋物 製造卸し (ビーボニー)
株式会社 B-BONNY
代表取締役 **馬場栄一** (昭和55年卒 紫魂会)
本社/〒273-0012 千葉県鎌ヶ谷市東中沢4-8-53 Tel & Fax 047-412-3495
工場/〒273-0012 千葉県鎌ヶ谷市東中沢4-8-50 mobile 090-8440-7002
E-mail b-bonny@gf7.so-net.ne.jp

ヤマダ社会保険労務士事務所
社会保険労務士
山田 覚
Satoru Yamada
昭和56年卒 明翔会
〒245-0061
神奈川県横浜市戸塚区汲沢2-1-5-D607
TEL/FAX.045-865-6282

総合建設・不動産
正宗産業株式会社
代表取締役 **市川 洋治**
(56年卒)
〒210-0834
神奈川県川崎市川崎区大島5-8-13
電話 044-244-1054(代)

株式会社東新理興
板硝子・理化学製品は齊木におまかせ!
昭和56年卒 明翔会
代表取締役 **齊木 麻州男**
〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-4
TEL.03-3814-7565 FAX.03-3818-0208

昭和五十六年卒(硬式野球部)
須藤司法書士事務所
司法書士
須藤 貢一
〒三五〇〇四六
江東区牡丹二丁目一六九一四
TEL 〇三三六四三二一六五〇

税理士法人 **狩野会計社**
www.kanou-kaikeisy.com
代表社員 税理士
狩野 智雄
(昭和56年卒)
〒114-0002 東京都北区王子2丁目28番2号 Tel:03-3913-1964 Fax:03-3912-0835
Mobile:090-1534-8396 E-mail:tkanou@kanou-kaikeisy.com

みなと協和法律事務所
弁護士 **鈴木一洋**
(昭和56年卒 明翔会)
〒105-0001
東京都港区虎ノ門2丁目1番1号
商船三井ビルディング4階
TEL: 03-5575-7157
FAX: 03-5575-7158
E-mail: toxotes@hyper.ocn.ne.jp

革業界の料理人・袋物製造卸
株式会社 **三和袋物**
代表取締役
深山隆義
(昭和56年卒 明翔会)
東京都台東区元浅草1-4-12
電話: 03(3844)0267
http://sanwa-wallet.com

総明開発株式会社

昭和57年卒 明魂会
硬式野球部OB会
代表取締役
染谷 貴男
〒340-0052
埼玉県草加市金明町473-4
TEL.048-946-2000
FAX.048-946-1700

昭和57年卒 **明魂会 岩崎広人**

“生産量全国二位”のうどん県
埼玉・蓮田名物 島田造りうどん

乾麺「島田造り」は、一般小売店
ではお求めになれません。製造
元と直結した直販・通販で販売
しています。ゆで時間が早く、生
めんのように滑らかなど越し
が特徴の美味しい乾麺です。



彩の国優良ブランド品
認定商品

翁の郷

埼玉県蓮田市大字関戸 280
営業時間 9:00~18:00/火曜定休

お電話での御注文はこちらから
0120-8733-07

製造元 株式会社 **岩崎食品工業**

紙一般包装資材企画販売
近代紙業株式会社
〒340-0834埼玉県八潮市大曾根1420
http://www.kind-ai.co.jp

昭和57年卒 明魂会
地理研究部OB会
小林 謙之
KENJI KOBAYASHI
k-koba@kind-ai.co.jp

東陽監査法人

代表社員
公認会計士 **岡田基宏**

(昭和57年卒 明魂会)

吹奏楽班OB

〒101-0053
東京都千代田区神田美土代町7番地
TEL. 03-3295-1040
FAX. 03-3295-1993

祝 第54回総明会総会・懇親会

明魂会

昭和57年卒

http://www.meikonkai.com

日本料理 手打ちそば

浅草 **十和田**
富永龍司

昭和58年卒 明輪会

台東区浅草1-13-4
TEL. 03-3841-7375

祝 第54回 総明会 総会・懇親会

めい わ かい
明輪会

昭和58年卒

このころのわ

有限会社クリーニング

あかひや

昭和58年卒 明輪会

小野 洋

東京都目黒区鷹番3-7-18
TEL 03-3714-0452

昭和58年卒 明輪会
青木経営法務事務所
行政書士
青木 正美

東京都江戸川区南篠崎町4-25-4
TEL 03-3676-5420
FAX 03-3676-5421

昭和58年卒

明輪会

遠藤憲治



有限会社 遠藤印刷

www.eqp.jp

白木そば

文京区本郷1-33-7
TEL:03-3812-4488

井上直樹

(昭和58年卒 明輪会)
都営三田線 水道橋駅
A6出口 徒歩5分

総合電設資材卸
伊東電機株式会社

代表取締役

伊東 稔

昭和59年卒 バスケット部OB

本社: 東京都江戸川区松島3-34-21
TEL.03-3654-9241
FAX.03-3654-9256
E-mail ito@ito-den.com
船橋営業所・松戸営業所

有限会社 **共栄化工**
一般装飾品鍍金

代表取締役

岩井孝之

昭和59年卒 明心会 バレー部OB
〒131-0041 墨田区八広2-18-13
TEL.03-3617-6050
FAX.03-3618-0711
http://www.kyoeikakou.com

昭和59年卒

大山 輝芳

明心会
硬式野球部OB

株式会社 **横濱屋**

株式会社 **エヌエスピー**

ウェブシステム開発/
サーバ保守・運用管理

代表取締役社長/公認会計士

根津 光弘

昭和59年卒 明心会

http://www.nsb.ne.jp/

昭和59年卒

エグゼクティブ ライフプランナー

渡邊 文夫

ソニー生命保険株式会社

新宿ライフプランナーセンター第9支社

東京都渋谷区代々木2-1-5

JR南新宿ビル 15F

電話 03-5358-1709

携帯 090-4376-6146

SL 18-4290-0014

一般社団法人 相続を考える会

あなたの相続に関するお悩み、
弁護士・税理士らの専門家集団が一緒に考えます。

昭和59年卒 税理士 田中重幸
〒279-0004 浦安市猫実3-5-14-104
TEL 047-323-6322

S H I M A M U R A D E S I G N

ホームページ・パンフレット制作

お客様のイメージをカタチにします。ご相談下さい。

グラフィックデザイナー 昭和59年卒 明心会

島村 武史

〒171-0052 豊島区南長崎3-31-14
TEL.03-5996-6828
E-mail.take-457@netjoy.ne.jp

☐ ロゴマークデザイン

☐ 商品カタログ制作

☐ 広告・会社案内制作

その他のいろいろ制作します。

<http://www.shimamura-design.com/>

祝 第54回総明会 総会・懇親会

めい しん かい
明心会

昭和59年卒

<http://www.meishinkai.com/>

有限会社忠建商事

不動産の有効活用 売買・賃貸・企画・管理

昭和59年卒 明心会 硬式野球部OB
代表取締役

渡辺 憲一

〒224-0001
横浜市都筑区中川7-17-18
TEL. 045-911-3011

<http://www.chukenshouji.com/>

宮沢孝昌

(S59年卒・水泳部)

珈琲亭 ルアン

〒143-0016
東京都大田区大森北1-36-2
Tel: 03-3761-6077

平日 7:00~20:00(オーダーストップ)
日・祭日 7:30~18:00(オーダーストップ)

木曜定休

祝 第54回 総明会 総会・懇親会

昭和60年卒 **闘紺会**

Technology and Trust

株式会社立山電機工事

代表取締役 寺山 裕也 (昭和60年卒)

東京都江戸川区鹿骨四丁目22番13号
TEL 03-3670-0277 FAX 03-3670-3159
E-mail yuuya01@pop02.odn.ne.jp

闘紺会

著作権契約書なら
駒沢公園行政書士事務所

行政書士 大塚 大

(昭和60年卒 闘紺会)
柔道部OB

世田谷区駒沢5-12-7
www.ootsuka-houmu.com



和食 玉 寿司

東京シティ信用金庫新小岩支店前・定休日木曜日、第三水曜日

☎ 3 6 9 1 - 3 0 8 8

<http://www.tamazushi.jp>

手束 謙一 (昭和60年卒 闘紺会)

ふぐ ちやんこ

焼き鳥

鳥 義

氏家 喜久雄

(昭和61年卒 新世輝)

墨田区石原 3-17-3
TEL.03-3626-4466



かやば町 鳥徳

代表取締役 鍋島 孝太郎
(昭和60年卒 闘紺会)

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-5-6
店舗 TEL. 03-3666-4692 info@toritoku.com
iphone 080-4294-9674
mail kotaro.nabeshima@gmail.com



株式会社 レストラン・ピガール 明大1号店

ケータリング パーティー
各種お弁当承ります。

〒182-0033
東京都調布市富士見町4-23-25
明治大学付属明治高等学校・中学校内
TEL/FAX.042-480-9703
担当総括支配人 山口剛志

鈴木税理士事務所

税理士 鈴木 裕朗

Hiroaki Suzuki
(昭和60年卒 闘紺会)

東京都墨田区業平 1-21-9 あさひ墨田ビル2F 〒130-0002
Tel: 03-3623-8703 Fax: 03-3623-8706
<http://www.suzuki-firm.com/>

昭和60年卒 矢澤 徹 YAZAWA

理化学器械・器具製造販売

株式会社 矢沢科学

<http://www.yazawakagaku.co.jp>

東京都文京区本郷2-13-8



自動車 外装磨き 内装清掃 専門会社

対応車種 軽自動車～1BOX 輸入車 商業車 大型トラック・バス

外装ポリマー加工
水アカ除去磨き
タバコ消臭処理
革シート清掃
ルームクリーニング



株式会社 サンコー商会 昭和60年卒
闘紺会
代表取締役 町側 尚則 吹奏楽班OB

〒123-0872 東京都足立区江北3-38-1
TEL 03-3898-3501 FAX 03-3898-3701

NEW! E-mail: info@car-35.com
<http://www.car-35.com>

消火設備工事配管請負
三重工業株式会社

代表取締役

片桐 泰裕
(S 61年卒 新世輝)

y-katagiri@mie.email.ne.jp

〒141-0032

東京都品川区大崎3-6-17

TEL 03-3493-6731(代)

FAX 03-3493-6794

家庭文化用品 荒物雑貨 総合卸
輸出入竹工芸品全般

株式会社 大園

代表取締役 大園 正純(昭和60年卒 闘紺会)

本社 〒130-0014 東京都墨田区亀沢1丁目12番8号

電話 03(3624)5366(代)

FAX 03(3624)5368

Tickety
STORE II

昭和60年卒業 植村成典

上野ハイボール壺双
もつ鍋・馬刺し・串カツ・餃子

的場屋

総明会ワンドリンク無料!! 的場 尚 (S60年卒・闘紺会)

上野アメ横店

台東区上野4-4-12

TEL 03-5812-2326

巣鴨とげぬき地蔵通り商店街 とげぬき地蔵尊高岩寺様すぐそば

お食事と甘味
池田 曜

〒170-0002

東京都豊島区巣鴨3丁目37番2号

tel&fax: 03-3915-5709

mobile: 090-5202-6451

E-mail: ikeikd@gmail.com

www.facebook.com/TakeyamaSugamo

@takeyama_sugamo

あきら

池田 曜

(昭和61年卒 新世輝)



ふぐ・和風居酒屋

民芸茶屋 佐留丹

〒120-0034 足立区千住1-33-8

03-3882-7229

<http://r.gnavi.co.jp/g418500/>

<http://www.facebook.com/sarutan1971>

61年卒・新世輝 猿田尚弘



各種機械 設計・製作・修理 及び 部品加工
株式会社 高橋機械製作所

Takahashi-kikai@nifty.com

代表取締役 高橋 誠

(昭和61年卒 新世輝)

取締役会長 高橋 郁三

(白鷺会 顧問)

〒116-0011 東京都荒川区西尾久8-41-4

TEL 03(3893)8377 FAX 03(3893)8062

帽子製造卸 東栄
株式会社

こだわりの帽子をトレードマークに

取締役会長 土田 饒(昭和31年卒 明楽会)

代表取締役 土田 正昭(昭和61年卒 新世輝)



〒103-0002

東京都中央区日本橋馬喰町1-3-5

TEL.03-3664-0810 FAX.03-3664-0033

E-mail:toci@beach.ocn.ne.jp

鈴木税務会計事務所

税理士 鈴木 博史

(昭和61年卒 新世輝)

〒133-0053

江戸川区北篠崎2-19-12

TEL 03-3670-1430

FAX 03-3676-1440



Hatoya Beans

鳩屋の豆菓子

お問い合わせはこちら

TEL : 050-3820-7534 受付時間 : 10 : 00 ~ 17 : 00 (土日祝日を除く)

仕入・卸売ご相談下さい。TEL : 0476-33-4468

<http://hatoya-beans.com>



明仁会のみなさん マメなおもてなし ありがとうございます！
S61年卒 新世輝 鵜飼友義

木材・新建材・住宅機器 販売



代表取締役

染谷昇司

(昭和61年卒 新世輝)

〒132-0015 東京都江戸川区西瑞江3-2-6

電話 : 03-3679-3681

FAX : 03-3677-3174

E-mail : shoei.co@ceres.ocn.ne.jp

ホームページ <http://shoei.tokyo/>

新世輝
(昭和六十一年卒)
俳優
高橋信康
(歴史研究部OB)

祝 第54回
総明会 総会・懇親会

今年も新世輝は、
幹事学年 明仁会を
応援致します。



(昭和61年卒) 49/101

<http://sinseiki.jimdo.com>

明大明治OB、OG憩いの Wine Bar

vino e IL raccolta
キジン会

長谷川 キリキジン 隆洋
(昭和61年卒 新世輝)

水泳部OB

中央区日本橋2-9-6

TEL.03-3231-0610



計量システム・計量機器の総合商社 ハカリは共栄

共栄衡器株式会社

代表取締役 大森規雄 (昭和61年卒)

東京都足立区千住河原町45番6号

TEL. (03) 3882-8101 (代)

FAX. (03) 3882-8172

<http://www.kyoei-koki.com/>



RESOL リソルゴルフ株式会社

スパ&ゴルフリゾート久慈 (茨城県)	作州武蔵カントリー倶楽部 (岡山県)
南栃木ゴルフ倶楽部 (栃木県)	瀬戸内ゴルフリゾート (広島県)
益子カントリー倶楽部 (栃木県)	唐津ゴルフ倶楽部 (佐賀県)
北武蔵カントリークラブ (埼玉県)	(トーナメント開催コース)
真名カントリークラブ (千葉県)	裾野カントリー倶楽部 (静岡県)
大熱海国際ゴルフクラブ (静岡県)	中京ゴルフ倶楽部 石野コース (愛知県)
岡崎カントリー倶楽部 (愛知県)	運営提携ゴルフ場
相生カントリー倶楽部 (兵庫県)	伊香保ゴルフ倶楽部 (群馬県)

ご利用お待ちしております

代表取締役社長 富樫孝之 (昭和63年卒 スキー部)

祝 第54回 総明会総会・懇親会



中華麺専門工場
株式会社 浅草開化楼

昭和50年 明紫会 坂上 進

〒111-0041 東京都台東区元浅草4-8-4
Tel 03-3844-0637 Fax 03-3841-4551

MALIBU LOUNGE BAR

マリブ ラウンジ・バー

森田 勉

昭和48年卒 波の会
硬式野球部

☎ 03-6273-8583

🏠 新宿区歌舞伎町2-27-12
Lee2ビル B-1

両国力士最中



年田善政
(昭和62年卒 明猿会)

〒130-0026

東京都墨田区両国4-32-19

TEL: 03(3631)5928

FAX: 03(3631)5019

京急鶴見市場駅下車一分

大衆酒場
正木屋

横浜市鶴見区市場大和町3-17

Tel: 045-511-0573

営業時間16:00から23:00

(10時以降入店可・日曜定休)

岡崎正和税理士事務所



岡崎正和

昭和63年卒
昭和成辰乃会
マンドリン部OB

東京都墨田区横川2-2-10

岡崎ビル2階 〒130-0003

TEL: 03-6240-4262

FAX: 03-6240-4263

okazaki@setsu-zeirishi.com

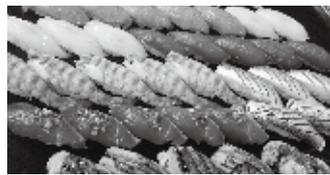
日本橋
吉野鮎本店

電話 〇三ー三二七四ー三〇〇一
中央区日本橋三ー八ー十一

高島屋さん真裏通り

吉野正敏

昭和六十一年卒 新世輝



厳選したこだわりの素材

創業 明治12年

絶品の王子焼き

変わらぬ伝統の味

ワンちゃんと一緒に
お食事も可能なウッドテラス席



お持ち帰りもできます!

<http://pizzeria-robotino.com/>



昭和63年卒 昭和成辰乃会

安齋 聡

ピッツェリア ロバベルティーノ

ご予約 044-788-5757

神奈川県川崎市高津区久末 402

弁護士 **三神光滋** (水泳部OB)

野本・吉葉法律事務所
(麹町 日テレビル前)

〒102-0084 東京都千代田区二番町4番地3

二番町カシュービル7階

TEL 03-3511-1111 FAX 03-3511-0222

mikami@nomotolaw.com

昭和63年卒
昭和成辰乃会



祝 第54回 総明会 総会・懇親会

ガンバレ!! 明仁会

〈昭和62年卒 明猿会一同〉

みとしろ法律事務所

弁護士

山崎 雄一郎

(昭和62年卒 明猿会)

〒101-0054

東京都千代田区神田錦町2-1-8

竹橋ビル2階

TEL 03-5282-3216

FAX 03-5282-3217

E-mail qwp01536@nifty.com

<http://mitoshiro-law.jp/>

Y 下町の住まい選びに夢を・・・ 不動産の山下商事



ポータルサイト未掲載の当社物件を多数掲載!!

〒116-0012 東京都荒川区東尾久1-1-6
電話 03-3895-9494 FAX 03-3809-7779
http://www.yamashitashoji.jp

代表取締役 山下征隆
(昭和63年卒 昭和戊辰乃会)
歴史研究部 宅地建物取引士
2級ファイナンシャルプランナー技能士

川口市・蕨市のお部屋さがしは当店へ

株式会社 八光商事

代表取締役 田中一任
(昭和63年卒 昭和戊辰乃会)
(硬式野球部OB)

〒335-0002 埼玉県蕨市塚越2-3-1
電話 048-441-8583
http://www.hakkoushouji.co.jp
info@hakkoushouji.co.jp



アパレル・ファッションの資材サポーター

「ふぞくやのブログ」毎日更新中!

株式会社 クロップオザキ

クロップオザキ

検索

代表取締役社長 尾崎博之 (昭和63年卒 昭和戊辰乃会)

〒101-0031 東京都千代田区東神田 2-1-11 第一坂本ビル (4F・5F)
電話 03-5820-0741 (代) FAX 03-5820-0742 (代) http://www.cropozaki.com

祭・踊衣裳

日本の歳時記®

製造・発売元

株式会社 佐藤万

佐藤 武

(昭和63年卒 昭和戊辰乃会)

東京都中央区日本橋久松町6番5号
TEL 03(3664)3611 (代)
http://www.nihon-no-sajiki.co.jp

祝 第54回 総明会 総会・懇親会

昭和63年卒同期会

昭和戊辰乃会

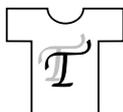
しょうわぼしんのかい

創業昭和15年 中安商店



北條勝彦 (平成改元会・平成元年卒)

感性豊かで高品質なカットソー製品を新しい切り口でご提供致します。



株式会社 ティアンドティ

〒133-0053 東京都江戸川区北篠崎2-3-23
電話 03-3677-1801 FAX 03-3678-7162

代表取締役 安川琢哉 (昭和63年卒 昭和戊辰乃会)

○自社工場: 江戸川サンプル工場、秋田比内工場
秋田鹿角工場、千葉東金工場



顧客満足度を高める事を基本に
メイドインジャパンにあえてご
こだわり続け、それを理解、納得
して選んでいただける企業を目
指しております。

作業服、防災服、製鉄所炉前用掛掛け、
オーバーシューズ、クリーンルーム用防塵服・
シート各種、野積用、自動車用

猪鼻繊維工業株式会社

代表取締役 山口嘉樹

(明愛会 水泳部 OB)

本社 東京都品川区南大井1-16-8
Tel. 03-3763-9651 (代)
Fax. 03-3763-9659
E-mail: inohana@titan.ocn.ne.jp

有限会社 三友金型

代表取締役

小柳貴裕 (バスケット部OB
改元会(平成元年卒))

東京都墨田区東向島6-25-13
TEL. 03-3617-6683
FAX. 03-3610-1299
E-mail sannyyuu@tj9.so-net.ne.jp

ゴム金型 設計・製作 短納期対応

業 種

マシニングセンター加工
NCフライス加工
NC放電加工
V33.V56.高速加工
U-GRAPH3次元コンピュータ



キッチンから厨房まで
本格志向の刃物店

あさがや しんかい

杉並区阿佐谷南1-35-21
(阿佐谷パールセンター商店街)
藤井達也 (平成2年卒)

2/6

株式会社 西原不動産鑑定は、鑑定評価
により高度な専門知識をクライアント様
に提供することを通じ、社会に貢献できる
会社を目指しています。



株式会社 西原不動産鑑定

代表取締役 不動産鑑定士

西原 崇 (平成元年卒・改元会)

東京都中央区銀座6-13-16 銀座Wallビル UCF501
TEL 03-3524-1715
E-mail: takashi.nishihara@n-rea.com
http://www.n-rea.com

東京ガス指定工事店 LPガス販売

株式会社 タナカ商店

代表取締役 田中丈士

(明愛会 平成2年卒、明水会)

川口市中青木1-2-14
TEL 048-251-4044
FAX 048-251-4295



桜なべみの家

<http://www.e-minoya.jp>

電話 **03-3631-8298** ばにくや

営業時間 平日 12時～14時 / 16時～21時

日・祝日 12時～21時

|| お知らせ ||
平成30年より
火曜定休に
変わりました

永瀬 守

(昭和62年卒 明猿会 水泳部OB) 都営地下鉄 大江戸線 新宿線「森下」下車

お酒のご用は

日本屋

銘酒「真澄」(長野) 特約店



- 〒277-0005 千葉県柏市柏 1-1-3
TEL. 04-7163-3252 (代表)
- 千葉県柏市柏 1-1-11 ファミリかしわ1階
TEL. 04-7163-7161 (柏駅前店)

明愛会 (平成2年卒)
鈴木 宏房

株式会社オガワ
 横浜でエクステリアのデザインから施工まで
 横浜の中心部に、スピーディな生コンの供給

代表取締役 **小川和弘**
 (平成元年卒 平成改元会)

横浜市保土ヶ谷区宮田町2-155-10
 TEL: 045-332-1411 (代)
 FAX: 045-335-2421
<http://ogawa-yokohama.com>



日本工業規格表示認証工場
 高強度コンクリート大臣認定取得

祝第54回総明会総会・懇親会開催

Meiji 平成元年卒(平成改元会)
 硬式野球部OB一同

田中博樹、村嶋健児、澤村大樹、篠田守建
 美濃部健太郎、笈崇彦、吉井昭、四手宏尚

自然や緑を通じ そこに住む皆様の
 心豊かな生活をご提案します。

日章造園株式会社
 代表取締役社長 **澤村大樹**
 (平成改元会 硬式野球部OB)

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3丁目8番5号
 TEL. 03-3716-3221 FAX. 03-3716-3226



今年も
 いい会報が
 届いたなあ

お、

平清盛坐柳

明愛会 歴史研究部OB一同



天福の花長

本多由明(S36年卒)
 彦蔵(H2年卒)

〒144-0033
 東京都大田区東糞谷3-4-11
 Tel: 03-6808-7021

営業時間
 月～金 昼11:30～13:30
 月～金 夜17:30～20:00
 (日曜日の夜は営業(要予約))




株式会社
 ネット・コミュニケーションズ

富沢康弘
 (平成3年卒)

〒104-0061
 東京都中央区銀座1-27-10
 ザ・アソシエイトビル2F
 TEL. 03-5524-3077
 FAX. 03-5524-3088
 E-mail: ytomisawa@nextcom.jp

昨年の総会・懇親会開催にあたり、多大な御支援を本当に有難うございました。

明愛会

昨年 年度幹事 学年
 平成 二年 卒業
 明愛会(めいあいかい)
 I ♥ Meiji

嗚呼なんと、
 人の心の「やさしさ」よ
 人の心の「あたたかさ」よ

同期諸君も昨年は色々とお有難う！ 来月再会しましょう！

※今年度の明愛会同期会は8/26に神保町で
 開催されました。来年も是非ご出席ください！

倉持法律事務所

弁護士 **倉持政勝**
 (平成3年卒・硬式野球部)

〒103-0025
 東京都中央区日本橋茅場町3-13-3
 興和日本橋ビル2階
 電話：03-5614-1420
 FAX：03-5614-1421
<http://www.kuramochi-law.jp>

台湾美食料理 **留園**

TEL03-3296-2988

留園イチオシの食べ飲み放題。
 うれしいオーダー式の食べ放題♪

お一人様**2,980円**～

「タイムサービス」
 ランチタイムがコーヒー・
 杏仁豆腐と前菜盛り無料で
 提供しております。

紫紺館から5分！
 閉店した「アミ」の左隣！
 東京都千代田区神田小川町3-16



筒井綜合法律事務所

代表弁護士 **筒井 剛** (平成2年卒 明愛会)

〒271-0092 千葉県松戸市松戸 1336-7 東風園ビル 4階
 Tel. 047-308-5050 Fax. 047-365-2210
 E-mail: tsutsui@tsutsui-lawoffice.com

祝第54回総明会総会・懇親会開催

Meiji 平成2年卒(明愛会)
 硬式野球部OB一同

桜井 敦、桑名 徹、木下英樹
 松尾健司、川辺康二

トウカン

東神急送 有限会社

東京陸運局認可 貨物自動車運送事業

平成2年卒 明愛会 硬式野球部OB
専務取締役 松尾 健司

〒134-0085 東京都江戸川区南葛西4-2-18
TEL 03-3878-7118 FAX 03-3878-4832
URL <http://www.tohkan-ex.co.jp/index.html>




株式会社 夢 サイクル

FP コンサルティング業

代表取締役 炭本 敏彦 (明愛会)

〒377-0012 群馬県渋川市渋川 1192-1 上毛ビルI 4F
TEL 0279-20-1911 FAX 0279-20-1912

不動産売買・仲介・管理

太明地所株式会社

代表取締役 浅倉 太明
(平成3年卒 スキー部)

東京都中央区銀座8-8-15 青柳ビル5F
TEL 03-3571-0655
FAX 03-3571-0615
ginza@taimeijisho.jp

横田公認会計士事務所

公認会計士・税理士
横田武久 (平成3年卒 明仁会)

〒101-0047
東京都千代田区内神田3-4-11
千代田共同ビル6階
TEL : 03-6805-8812
FAX : 03-6805-8810

E-mail : info@yokota-kaikei.com
<http://www.yokota-kaikei.com>

SURPASS

サーパス工業株式会社

代表取締役社長 今井 高志 (平成5年卒)

〒361-0037 埼玉県行田市下忍2203
Tel.048-554-9760 (代表) Fax.048-554-9772
e-mail t-imai@surpassindustry.co.jp

美しく希少性の高いカラーストーンやダイヤモンドを、リーズナブルな価格で取り揃えています。

株式会社 大柏



米国宝石学会鑑定士 (G.I.A G.G.)
大崎 裕和
明愛会 バドミントン部
09025542979

私世代のために今考えましょう。相続のこと

櫛田税務会計事務所

NPO法人 相続アドバイザー協議会認定会員

税理士・相続診断士 櫛田 実
(平成3年卒 明仁会)

〒273-0002
千葉県船橋市東船橋3丁目36番1号
TEL. 047-423-2545
kushida2010anchor@gmail.com



太鼓・神輿・祭礼具・神具の製造販売

創業元禄二年 南部屋五郎右衛門

平成2年卒 明愛会 歴史研究部OB 石渡浩司

〒111-0041 東京都台東区元浅草2-10-10
TEL. 03-3843-3335 e-mail : nanbuya56@nifty.com
FAX. 03-3843-3336 Online Shop <http://nanbuya.thebase.in>
太鼓・神輿の新調・メンテナンスの際は、是非当店にご相談下さい

不動産管理・賃貸業 有限会社 明克

MEIKOKU

<http://www.meikoku.co.jp>

代表取締役 櫻井 崇
(平成3年卒 明仁会)

川崎市川崎区日ノ出2-16-1
TEL 044 (266) 8111



日本蕎麦 堀留町

尾張屋

藤崎 信 (平成3年卒 バレー部)

東京都中央区日本橋堀留町1-11-7
TEL 03 (3661) 4488



有限会社 東宏商事

取締役 青木 貴史
(平成3年卒 明仁会)

〒171-0033
東京都豊島区高田 3-10-21 東宏ビル
TEL. 03-3200-1370
Takashi.Aoki@toko-shoji.com

公認会計士・税理士・社会保険労務士 神林克明事務所



神林克明

(平成3年卒 明仁会)

公認会計士・税理士・特定社会保険労務士・AFP

〒130-0026 東京都墨田区両国2丁目21番5号
両国ダイカンプラザ611号

TEL/FAX 03-6659-6937 Mobile 090-5817-4770
E-mail : kam-9211-mei@s6.spaaqs.ne.jp



税理士法人 オークパートナー

代表社員 大久保 俊治
(平成3年卒 明仁会 バレー部)

東京都荒川区町屋 8-8-7
TEL. 03-3892-4426
ohkubo-kaikei@tkcnf.or.jp
<http://okpartner.co.jp>

坂田税理士事務所

税理士 坂田 覚
(平成3年卒 明仁会)

〒173-0004
東京都板橋区板橋 3-41-3
都営三田線「板橋区役所前駅」徒歩6分
TEL 03-3962-6164

祝 第54回総明会総会・懇親会

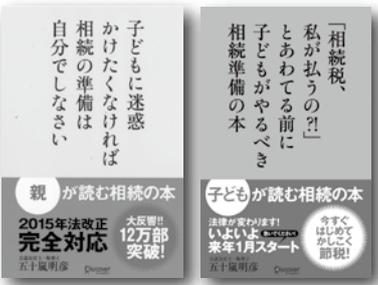
快汗、どすこい塾

平成4年卒同期会

代表 小畑 啓 k.obata@taiyo-seiko.co.jp (集え同期! 連絡請う!)

SAKURA Group
株式会社SAKURA-TRUST
代表取締役 **熊木達朗**
(平成6年卒)
〒105-0012
東京都港区芝大門1-5-2須田ビル3F
TEL 03-5472-7400 FAX 03-5472-3500
関連会社 株式会社さくら航産
株式会社さくら管財

Tax・Is
税理士法人 タックス・アイズ
代表社員 **五十嵐明彦**(平成6年卒)
〒101-0041
東京都千代田区神田須田町1-28 フォーラス神田3F
TEL: 03-3255-0551 FAX: 03-3255-0552




やまと建材株式会社
代表取締役 **今村 敦**
(平成3年卒)
東京都江戸川区東小松川1-12-36
TEL 03-3654-2334
FAX 03-3654-2335

— 誠実と技術でお応えする —

 **住友電設株式会社**

大阪本社 〒550-8550 大阪市西区阿波座2-1-4 TEL: 06-6537-3400(大代)
東京支社 〒108-8303 東京都港区三田3-12-15 TEL: 03-3454-7320(大代)

太平洋セメント株式会社特約店
生コン・壁材料・左官工具及機械
有限会社 福田商店
専務取締役 **和田康正**
(平成5年卒・バスケ部)
東京都墨田区押上2-7-8
TEL 03-3625-3309
FAX 03-3625-8395

繁栄する場を創る 建築・インテリアデザイン
SASSOU 株式会社
代表取締役 **塩野目 明**(平成3年卒)
東京都港区西麻布4-8-24-203
TEL: 03-6316-1822 / FAX: 03-6800-3778
E-mail: shionome@sassoujapan.co.jp
www.sassoujapan.co.jp




鑄造+切削+α =【ヤマタイ】

<p>株式会社 山泰製作所 取締役 営業部長 山本雅宣 昭和59年卒 バスケ部OB 〒949-6775 新潟県南魚沼市宮字西原 2294番8 TEL 025-773-3428 FAX 025-773-2763 masanobu-yamamoto@yamatai-mfg.co.jp</p>	<p>有限会社 山泰鑄工所 取締役 工場長 山本康平 平成2年卒 〒955-0152 新潟県三条市笹岡2841 TEL 0256-46-2722 FAX 0256-46-4771 kohei-yamamoto@yamatai-mfg.co.jp</p>
--	--

総合建設業
株式会社 吉田工務店
代表取締役 社長 **吉田浩士**
平成8年卒 吹奏楽班OB
〒331-0052
埼玉県さいたま市西区三橋6-152-10
TEL. 048-623-4711
FAX. 048-623-8944

第54回 総明会 総会ならびに懇親会 ご来場心よりお待ちしております
平成3年卒 幹事学年
人生の名人たれ **明仁会**
ONE MEIJI ~ 明治はひとつ ~

 **銀座升本**
銀座一丁目 並木通りの大衆酒場
三保谷 建介 (平成6年卒)
三保谷 和太 (平成14年卒)
昼の部(定食) 11:15~13:30
夜の部 17:00~22:00(L.O.21:30)
定休日: 土日祝日
東京都中央区銀座1-4-7 03-3563-2706

株式会社 山口商店
 代表取締役 **山口 隆**
 (昭和48年卒)
 総合研究 大学院大学 **山口孝明**
 (平成26年卒)
 〒143-0016
 東京都大田区大森北1-17-2
 TEL 03-3761-4838

KOBA YASHI DENSO
小林電装株式会社
www.kobadenn.co.jp/
 代表取締役 **小林 健太郎** (平成3年卒)
 MAIL info@kobadenn.co.jp
 〒111-0054 東京都台東区鳥越2-10-15
 TEL. 03-3866-6311 FAX.03-3866-6302



建築物を彩るイルミネーションなどの工事を手掛けるのが、私たち「小林電装」です

税理士法人 ディープインパクト
 代表社員 **松島俊行**
 平成8年卒 吹奏楽班OB
 〒102-0083
 東京都千代田区麹町二丁目3番地9
 麹町プレイス3階
 TEL. 03-3262-1307
 FAX. 03-3262-1317

明仁会、応援してます。

水野 勇
 平成改元会
 ギガファイル便代表

嶋田 剛久
 平成改元会
 吹奏楽班 OB
 総明会組織委員



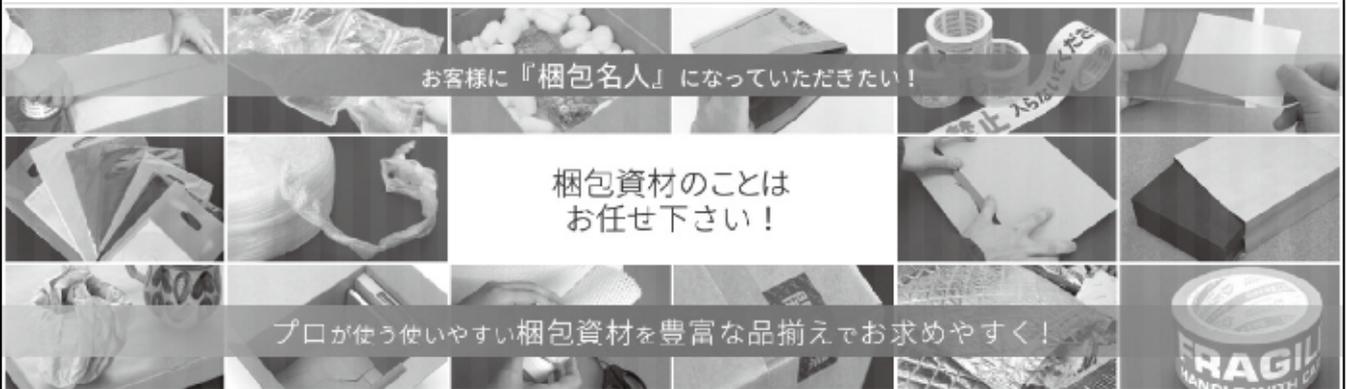
一日10名限定のカジュアル野菜会席の店
味農家
<http://minoyavege.com>
 店主 **河原潤治** (明愛会)
 東京都台東区鳥越1-5-5
 『おかず横丁』商店街内
 Tel. 03-3866-3795
 11:30~13:00/17:30~22:30
 定休日 日・祝・月末日

株式会社 キノシタ
 代表取締役社長 木下英樹
 (平成2年卒 明愛会)

(本社) 〒125-0032 東京都葛飾区水元 5-6-10
 (金町オフィス) 〒125-0042 東京都葛飾区金町 6-4-1
 金町木下ビル 30B
 TEL : 03-3826-5061 <http://kinoshita-corp.jp>

KONPOU MEIJIN <https://konpou-meijin.com/>

梱包用品専門店「梱包名人」通販サイト



創業 80 余年、キタミの梱包・包装資材は
専門店ならではの豊富な品ぞろえです。

包装一筋で培った確かな実績とネットワークで
お客さまのご要望にあわせたパッケージを提供します。

株式会社キタミ 北見 陽一郎 (平成 3 年卒)

〒154-0001 東京都世田谷区池尻 2-8-7

TEL : 03-3424-3491 FAX : 03-3412-9841

梱包・包装資材の専門店

きたみ  Net

**オリジナルパッケージの
相談受付サイトはこちらから!**
<http://www.kitami-net.co.jp/>

SOKEN ENTERPRISE



床を「貼る」、壁を「貼る」

内装仕上工事を行う企業として、「貼る」ことのクオリティを求め続け、優れた技術者集団が付加価値の高いサービスを提供致します。ソーケンエンタープライズ株式会社は「貼る」ことのプロフェッショナルです。

約束を守る、契約を実行する

当たり前のことを当たり前に行う「技術力」と「プロフェッショナルとしての自信」が皆様から評価されています。

快適な空間にこだわり続けること

仕上がりには細心の配慮を行い、空間を利用する全ての方が満足できること、それがソーケンエンタープライズ株式会社の仕事であり、誇りです。

そして、ソーケンエンタープライズ株式会社は2018年に創業51周年を迎えます。51年の間にお世話になった全ての皆様へ、厚く御礼申し上げます。次の50年後、創業100周年に向けて・・・

ソーケンエンタープライズ株式会社は、更なる高みを目指し、進化し続けて参ります。

ソーケンエンタープライズ株式会社 <http://www.soken-ep.co.jp/>

〒125-0062 東京都葛飾区青戸 4-18-12 TEL. 03-3603-8811 FAX. 03-3690-4641

代表取締役 小川 吾朗 (平成 3 年卒) 専務取締役 小川 滋 (昭和 44 年卒)

平成30年度 総明会活動報告

平成30年度 総明会 役員一覧

(敬称略)

委員会・役職	年 卒	氏 名	委員会・役職	年 卒	氏 名
名誉会長	昭和36年	向殿 政男	会報発送印刷	昭和57年	小林 謙之
顧問	昭和21年	小林 昭雄	学校P T A	昭和59年	田中 重幸
顧問	昭和29年	山浦 晟暉	ホームページ	昭和59年	佐藤 昌彦
顧問	昭和32年	山崎 敬生	会報構成編集	昭和62年	高橋 雅之
顧問	昭和41年	尾島 育四郎	幹事学年指導	平成2年	遠藤 克彦
顧問	昭和43年	佐久間 洋一	M編集	平成23年	三浦 直人
顧問	昭和44年	服部 雄二	企画委員会	昭和54年	志村 和哉
顧問	昭和44年	関谷 芳久	明朗会	昭和61年	横山 一実
顧問 明治高校校長	昭和44年	安蔵 伸治	チャリティゴルフ	昭和63年	安川 琢哉
			チャリティゴルフ	昭和61年	清水 孝浩
会長	昭和45年	吉田 耕太郎	明朗会	昭和63年	尾崎 博之
副会長	昭和50年	山崎 秀樹	チャリティゴルフ	平成元年	小柳 貴裕
副会長	昭和51年	井家上 哲史	明朗会	平成2年	今泉 仁
専務理事	昭和54年	熊倉 章雄	チャリティゴルフ	平成2年	松尾 健司
常務理事	昭和50年	近藤 敏彦	組織委員会	昭和61年	鵜飼 友義
会計	昭和50年	吉武 孝生		昭和58年	高橋 浩
事務局長	昭和59年	平野 一哉		昭和60年	渡辺 智郎
副事務局長	昭和61年	土田 正昭		平成元年	福島 維規
			総務委員会	昭和63年	光岡 孝之
総会委員会 委員長	昭和60年	町側 尚則		昭和52年	大西 静士
副委員長	昭和61年	栗本 宣長		昭和56年	須藤 貢一
副委員長	昭和63年	山下 征隆		昭和61年	野津 真男
副委員長	平成元年	嶋田 剛久	名簿委員会	昭和56年	鴨下 裕彦
広報委員会 委員長	昭和57年	関川 一浩			
M発刊総括 担当理事	昭和56年	衛藤 雅一	監事	昭和44年	中河 孝樹
ホームページ総括 担当理事	昭和59年	島村 武史	監事	昭和56年	狩野 智雄

平成30年度 総明会 評議員一覧

同期会

卒業年	名称	氏名	氏名
昭和12年		中富 光国	
昭和15年	明中26会		
昭和19年	明中28会	新田晃太郎	
昭和21年	午巳の会	小林 昭雄	
昭和24年	明高一期会	内藤 功	
昭和25年	明二会	小田川玉城	
昭和26年	猿楽会	熊井 実	
昭和27年	明高会	米山 耕右	渡邊 幹夫
昭和28年	明窓会	戸田 一郎	佐藤 欣生
八丈島高校	八明会	持丸 孝雄	高橋 和夫
昭和29年	29会	山本 孝義	橋崎 正義
昭和30年		宇田川雄弘	
昭和31年	明楽会	佐藤 健一	大出 育男
昭和32年	明治会	長野 敏樹	太田 喜久
昭和33年	三三会	鈴木 寿雄	藤田 義茂
昭和34年	旧雨会	秋山 希代	新代 章
昭和35年	珊瑚の会	倉林 貞夫	天野 洋一
昭和36年	明駿会	加藤 真義	谷 正之
昭和37年	37会	戸谷 誠樹	中村 哲士
昭和38年	二年に一会	三浦 昭生	服部 紀夫
昭和39年	三九会	佐藤 仁	堺 健一
昭和40年	明優会	阿部 正行	大関 清人
昭和41年	41明友会	廣瀬 準	菊本 哲也
昭和42年	M41	後藤 孝男	新村 秀男
昭和43年	紫讃会	志村 一夫	小田嶋保男
昭和44年	男坂倶楽部	寺田 康夫	藁谷 豊
昭和45年	獅子の会	比留間竹郎	山形 英明
昭和46年	明潮会	木村 茂	金子 敏一
昭和47年	四七四七同志会	戸張 毅	
昭和48年	波の会	海老根一介	雨海 重明
昭和49年	翼明会	佐藤 真弘	大前 実之
昭和50年	明紫会	三森 勲	雨宮 弘典
昭和51年	明々会	前田稲一朗	山田 真也
昭和52年	男子校根性組	佐藤 大英	角谷 幹夫
昭和53年	紫友会	加藤 裕之	竹越 利之
昭和54年	明誠会	矢ノ目 忠	
昭和55年	紫魂会	大迫 好孝	渡辺 裕之

卒業年	名称	氏名	氏名
昭和56年	明翔会	寺村 一義	逢田 裕一
昭和57年	明魂会	岩崎 広人	田中 幹浩
昭和58年	明輪会	秋間 聡	高橋 浩
昭和59年	明心会	田中 重幸	渡邊 文夫
昭和60年	闘紺会	和田 直弘	矢澤 徹
昭和61年	新世輝	池田 曜	高橋 誠
昭和62年	明猿会	赤岩 大輔	中澤彰次郎
昭和63年	昭和戊辰乃会	芳澤 徹	川角 光太
平成元年	平成改元会	横島 高之	杉山 純也
平成2年	明愛会	今泉 仁	神保桂一郎
平成3年	明仁会	小畑 啓	斎藤 直宏
平成4年	快汗、どすこい塾	安藤 高利	福田 浩茂
平成5年		三保谷健介	長野 吉克
平成6年	隆明会	石田 頼史	熊木 達朗
平成7年		青木 大樹	金子 敦史
平成8年		小谷 健志	香川 満洋
平成9年	紫雲会	秋山 光億	平田 寛
平成10年	紫98俱	石川 一仁	戸邊 健
平成11年	明哲会	玉木万理夫	保科 大輔
平成12年	明瀑会	大橋 弘顕	岡庭 朋威
平成13年	明治21	上原 康仁	下田 良征
平成14年		武 雄一郎	
平成15年		杉田 純	徳竹 正憲
平成16年		室井 裕貴	荒川 佳史
平成17年		山崎 裕貴	角田 隆悟
平成18年	白雲会	横倉 光輝	大竹 惇
平成19年		渡辺 圭	早川 慎吾
平成20年		加藤 敦	大森 貴之
平成21年		亀屋 将紀	佐藤亨太郎
平成22年	明雄会	平田 裕貴	三浦 直人
平成23年	共楽会	三浦 彩	市川 陸
平成24年		師岡 忠寛	押田 華徳
平成25年		岡田 尚也	柴田加菜子
平成26年		赤坂 菜摘	渡邊 直人
平成27年			
平成28年			
平成29年		佐藤 陸	小栗 未琴

班部OB会

名称	氏名
生徒会本部	(休部)
応援指導班	廣野 宏士
新聞班	西山 光彦
吹奏楽班	斉木麻州男
図書班	平田 彦彦
放送班	官田 健
剣道部(見心会)	鈴木 幸男
硬式野球部(明球会)	世古 俊之
サッカー部	大室 智一
柔道部	小川 洋一
水泳部(明水会)	中村 明彦
スキー部(明雪会)	岡本 雅仁
卓球部(明卓会)	高橋 正信
庭球部	奈良部利昭
バレー部	樋田 哲次
フェンシング部	岩重 哲雄
陸上競技部	櫻井 勝也
バスケットボール部	木戸 基満
囲碁部	田島 弘資
化学部	森 八一
物理部(明物会)	磯部 進
マンドリン部	赤岩 大輔
地理研究部	大塚 和哉
歴史研究部	山下 征隆
アイスホッケー愛好会(明水会)	武藤 仁
J R C	横谷 昌明

昨年1年間ご連絡を取れなかった評議員の方はお名前を記載できませんでした。お気づきの方は、総明会事務局まで、ご連絡を頂きますようお願いいたします。

平成30年度活動報告

総明会 専務理事
熊倉 章雄

総会委員会活動報告

総会委員会 委員長
町側 尚則

第53回 総明会総会・懇親会は、平成29年11月26日(日)ハイアットリージェンシー東京にて350名を超える方々が参加し盛大に行われました。

ご来賓の皆様方、参加された皆様方、誠にありがとうございました。

今回幹事学年は、平成2年卒「明愛会」で、「世代をこえる明治愛〜I Love Meiji〜」というテーマを掲げ、会報誌「紫紺の詩」には様々な世代を取材した記事が載せられ、懇親会においては昭和34年卒のアントニオ古賀さんが出演され、素敵な音楽を演奏され、「総明会サ・ムービー」なども上映されました。



幹事学年の皆様さん、ありがとうございました。さて、総明会では今年度も以下のような活動をしてまいりました。

3月10日の卒業式には本部役員が出席して、卒業生の中で、学業だけでなく班・部活動などで顕著な活躍をした5名に「総明会賞」を授与しました。

5月12日には第24回総明会チャリティゴルフ大会を開催し、115名が参加して世代をこえる親睦ができました。

9月9日の「明朗会」は、深川森下にある「みの家」で落語鑑賞をしましたが、こちらの店は明治高校卒業生の永瀬守氏の経営で、演者も卒業生という明治尽くしの企画となりました。美味しい料理と楽しい斬で、参加した皆さんにはご満足いただけたと思っております。

対外的な活動としては、明大中野校友会「武陵会」と2月23日に懇親会を、5月26日に「武陵会」総会への参加をしました。PTAのOB会である「白駿会」への参加もしました。

若手との接触も活発で、高校3年生への総明会説明会や、卒業生との昼食会、大学4年生との交流も進めております。

忘れてならないのは、今年度は会長・副会長の任期満了による改選です。

佐藤健一委員長率いる「会長副会長選出委員会」により、吉田会長の留任と井家上副会長の留任。関谷副会長の勇退に伴い、新たに山崎副会長が就任いたしました。会長副会長選出委員会の皆様、お疲れ様でした。

更に今年は、総明会の財政安定を図り、新会員と班クラブOB会の会費の値上げをお願いしております。総明会の更なる発展のため、皆様方からのご理解・ご協力をお願い申し上げます。活動報告とさせていただきます。



本年度、総会委員長を拝命致しました昭和60年卒(闘紺会)町側尚則と申します。昨年度の幹事学年、「明愛会」による第53回総会・懇親会が平成29年11月26日(日)にハイアットリージェンシー東京にて大盛況で開催されましたこと、総会委員会と致しまして、ご参会頂きました総明会会員の皆様方に厚く御礼申し上げますと共に、幹事学年の企画運営、心より感謝申し上げます。

桜井実行委員長をはじめ、各委員長の統率で、同期が一丸となり「世代をこえる明治愛」のテーマで、こだわった企画での諸先輩方へのおもてなしが功を奏した結果だと確信しています。

本年度、我々総会委員会も組織変更があり、栗本副委員長(昭和61年卒新世輝)・山下副委員長(昭和63年卒昭和戊辰乃会)・嶋田副委員長(平成元年卒平成改元会)をはじめ、本間委員(昭和61年卒新世

輝)・山崎委員(昭和62年卒明猿会)・永瀬委員(昭和62年卒明猿会)・高山委員(平成2年卒明愛会)のメンバーとなり、分科会での意見交換や、定例会で幹事学年をサポートしています。

本年度幹事学年の「明仁会」も現在「ONE MEIJI」をテーマに積極的に頑張っており活動しています。

本年の総会・懇親会は11月25日(日)ハイアットリージェンシー東京にて開催致します。

若手会員も参加しやすい内容と、皆様方に楽しんで頂ける様に昨年に負けない企画を練っています。そして最後はやはり、校歌斉唱で今年のテーマである「ONE MEIJI」で一致団結致したく、お願い申し上げます。是非、一名でも多くのご同期の方をお誘い頂きご参会頂けますよう、幹事学年共々、心よりお待ちしております。

平成30年度 会計報告

総明会 平成29年度 一般会計報告 (自)平成29年4月1日～(至)平成30年3月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	11,575,106円	会議費	436,400円
新入会員入会金	2,740,000円	交流費(学校・他)	1,321,273円
新入会員永年会費	2,740,000円	会報発送費用	1,126,853円
学年会費	670,000円	事務通信費	119,657円
雑入(会議費・他)	630,000円	各委員会活動費	1,247,561円
雑入(ゴルフ委員会)	26,972円	財政基盤基金へ組入れ	1,500,000円
預金利息	15,972円	次年度繰越金	12,646,306円
合 計	18,398,050円	合 計	18,398,050円

総明会 平成29年度 基金会計報告 (自)平成29年4月1日～(至)平成30年3月31日

基金区分	平成28年度末残金	平成29年度増減額	摘要	平成29年度末残金
事業遂行基金	14,347,206円	－ 円		14,347,206円
財政基盤基金	4,516,000円	1,500,000円	一般会計から繰入	6,016,000円

上記の通り報告いたします。
監査の結果相違ありません。

平成30年3月31日
平成30年6月30日

会長 吉田耕太郎 会計 吉武 孝生
監事 中河 孝樹 監事 狩野 智雄

総明会 平成30年度 一般会計予算(案) (自)平成30年4月1日～(至)平成31年3月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	12,646,306円	会議費	520,000円
新入会員入会金	2,400,000円	交流費(学校・他)	1,400,000円
新入会員永年会費	2,400,000円	会報発送費用	1,690,000円
学年会費	650,000円	事務通信費他	270,000円
雑入(会議費・他)	600,000円	各委員会活動費	1,573,000円
雑入(寄付金・利息)	50,000円	財政基盤基金へ組入れ	1,000,000円
		次年度繰越金	12,293,306円
合 計	18,746,306円	合 計	18,746,306円

総明会 平成30年度 基金会計予算(案) (自)平成30年4月1日～(至)平成31年3月31日

基金区分	平成29年度末残金	平成30年度増減額	摘要	平成30年度末残金
事業遂行基金	14,347,206円	－ 円		14,347,206円
財政基盤基金	6,016,000円	1,000,000円	一般会計から繰入	7,016,000円

第53回 総明会 特別会計報告 (自)平成29年4月1日～(至)平成30年3月31日

収入の部		支出の部	
総会費収入	2,730,120円	総会関係費	6,541,790円
総明会より助成金	1,426,853円	会報関係費	4,174,750円
寄付・広告	8,436,820円	運営関係費	1,877,253円
合 計	12,593,793円	合 計	12,593,793円

第54回 総明会 特別会計予算(案) (自)平成30年4月1日～(至)平成31年3月31日

収入の部		支出の部	
総会費収入	2,700,000円	総会関係費	6,500,000円
総明会より助成金	1,990,000円	会報関係費	4,800,000円
寄付・広告	8,400,000円	運営関係費	1,790,000円
合 計	13,090,000円	合 計	13,090,000円

総明会設立50周年事業会計報告 (自)平成25年11月10日～(至)平成30年3月31日

収入の部		支出の部	
学年・班・クラブ寄付金	1,752,000円	会報作成費用	7,847,458円
個人寄付金	4,691,000円	消耗品費	211,857円
チャリティゴルフ寄付金	150,000円	事務通信費	88,926円
企業広告収入	3,000,000円	保管料	197,847円
預金利息	662円	次年度繰越金	1,247,574円
合 計	9,593,662円	合 計	9,593,662円

広報委員会 活動報告

広報委員会 委員長
関川 一浩

広報委員会は、今年度より総明会会員の皆様への情報発信をする従来の「会報委員会」と「広報委員会」を統合し、紙媒体とweb情報の共有化を図ることでよりタイムリーな情報発信を行うことを目指し、新生広報委員会として新たなスタートを切りました。今年度もこれまでと同様に「紫紺の詩」・「M」の発刊、「ホームページ」の運営」を柱に活動をしてまいります。



ホームページの運営

「紫紺の詩」発刊活動
本年も、幹事学年の学年テーマに沿った編集内容の会報誌となるよう、1月から月1回の頻度で活動を行ってまいりました。

鳥村担当理事を中心に、総明会活動報告・各種告知、同期会・班クラブOB O G G会開催の案内、連絡先不明の同期の皆様への呼びかけ等を行っております。

「M」発刊活動
衛藤担当理事、三浦副委員長を中心に、特集テーマを「らしさをゆきまを」とし、平成23年卒林田さん・三浦君・高橋君、平成24年卒朝倉君、平成26年卒土屋君、平成27年卒坂本君・塩出君・岩田さん、平成28年卒垣さん・高波さん、平成30年卒井畔さんという若手11名体制で活動を行ってまいりました。総明会会員のなかでも若年層会員の方々に、よ

り総明会を理解していただけるよう若手メンバーが独自に企画・編集しておりますので「紫紺の詩」同様こちらもお待ちしております。なお、「M」につきましては、「紫紺の詩」同封にて皆様のお手元に届けさせていただきます。

残念ながら現状は、ホームページへのアクセス数もあまり多くない状況ではありますが、総明会活動の各種情報提供の場としてタイムリーな情報発信をしてまいりますので、是非、同期の方々へホームページの紹介をお願いします。

広報委員会では、今後も皆様へ様々な情報をお伝えする活動を進めてまいります。お気づきの点や、ご意見・ご要望などがございましたらホームページの「お問い合わせ」からお寄せいただければ幸いです。

<http://www.meiji-soumeikai.com>

総務委員会 活動報告

総務委員会 委員長
光岡 孝之

総明会会員の皆様、いつも総明会活動にご協力いただきまして誠にありがとうございます。総務委員会は引き続き微力ながら総明会をお手伝いしてまいる所存です。さて、総務委員会はどのような活動をしているのか？以下に、簡単ではありますがご報告させていただきます。

皆様の前に出て業務を行うこともなく、縁の下で総明会を支えていく地味な委員会ですが、議事録の作成や、管理運営に関しとても重要な委員会ですので、総務委員全員誇りをもって活動しております。また、本年度より平成卒業の委員も加わり業務の継承を行っております。

①年3回(1月、3月、10月)の総明会評議員会の準備及び運営

本年度の幹事学年「明仁会」のテーマは『ONE MEIJI』明治はひとつです。各学年・団体を代表する評議員の皆様におかれましては、評議員会への出席や議事録を伝える機会を作ることによってONE MEIJIを感じていただけたらと思います。どうぞよろしくお申し込み申し上げます。

②評議員・班クラブOB・OG会懇親会(7月)の準備及び運営

【評議員会でのお弁当廃止】
昨年度まで評議員会では会費1000円をお預かりし、お弁当とお茶をお出ししておりました(本部が一部負担)。しかし、不要との声や当日のキャンセル時の本部負担もあり、本年度よりお弁当は廃止とし、お茶のみを提供することが評議員会で承認されました。

③総会(11月)での議事録の作成



懇親会開催のための会場予約、案内送付、運営、受付業務

④忘年会(12月)の準備及び運営



忘年会開催のための会場予約、案内送付、運営、受付業務

以上の通り、総明会会員の

以上

組織委員会活動報告

組織委員会 委員長
鵜飼 友義



本年度組織委員会は、近藤敏彦前委員長(昭和50卒明紫会)から私鵜飼友義(昭和61卒新世輝)が委員長受け継ぎ、副委員長に福島維規(平成元年卒平成改元会)ほか、新たな委員も加わり、スタート致しました。これまでの総明会の組織づくりへの取り組みはもちろん、社会人と大学就活生をつなぐ『就活会』も総明会の繋がりを活かした取り組みとして、明治高校や在校生およびそのご父兄まで認知度を高めております。以下に、総明会組織委員会の年間を通じた活動をご紹介致します。

3月 高Ⅲ卒業前オリエンテーションにて総明会の説明および学年幹事選任

3月 卒業後に学年幹事を集め、総明会および学年幹事の詳細説明



3月に行われた、総明会役員と卒業したの学年幹事らとの顔合わせ食事会学年幹事にとって“はじめての総明会活動”となる

4月以降 総明会幹事学年や総会委員会との『就活会』概要共有
 8月 明治高校明治大学教職員による職域「明高会」開催
 9月 明治高校「紫紺祭」への総明会ブース出展
 11月 総会運動企画「就活会」開催および懇親会での就活生への先輩アテンド
 他、大学4年生同期会発足への支援活動

今年も『就活会』を開催いたします！
 過去2回開催し、ご好評を頂いた『就活会』は今年も総会懇親会の日と同場所にて開催されることとなりました。就活生たちが満足のいく就職活動が出来ているかどうかは、ご父兄はもちろん明治高校の先生

方も気がかりなところ。そんな後輩達の為に12000人を超える総明会の社会人ネットワークを活かせないものだろうか、先輩後輩同期達へと声を掛け合い『就活会』へ協力するよと集まって頂いたOB・OG達は、翌年に就活を控える大学3年生達に対して就活に際してのアドバイス、会社のこと、社会人になるといふこと、中には人生のことまで、いろんな角度から後輩達に有益な情報を共有して頂けました。

そして昨年はこの『就活会』がきっかけとなり、就職のご縁に結びついたという嬉しい実績がございました！

そんな昨年の『就活会』が盛況であり実績もあったという情報は、今年の就活生にも、明治高校教員の方々にも伝わっており、今年もさらに多くの就活生が来場されることを想定しております。

この企画は、一昨年度、幹事学年の平成改元会から企画・実施し始めてくれたもので、この意志を繋ぐべく平成改元会から組織委員会へそのまま担当メンバーが加わり、本年度も組織委員会の大きな企画として開催準備をしておるところです。(冒頭の福島維規君もそのひとりでございます)組織委員会福島維規副委員長からOB・OGとしての参加ご協力要請があらうかと思いますが、後輩達の為に何卒ご協力くださいませ。

これからも総明会組織委員会は、「総明会」組織のポテンシャル向上に繋がる、またそれを活かした魅力ある企画を実施し、会員の皆さまが明治高校・中学校の卒業生であることを誇れる取り組みを組織作りの側面から実施してまいります。



名簿委員会活動報告

名簿委員会 委員長
鴨下 裕彦

名簿委員会では、毎年会員の皆様へお届けしております会報「紫紺の詩」の発送業務をはじめ、評議員会やゴルフ、朗朗会等への宛名シール、情報の提供を行っております。

会報「紫紺の詩」は、登録がある会員12000名余の方に送付しておりますが、毎年さまざまな理由で、多くの会報が返送されて参ります。ちなみに昨年の返送数は578件です。理由は宛先不明、不在期限切れ、旧住所表示の為、配達不能、配達中の毀損により配達不能、受取拒否、逝去により返却というものです。一昨年は445通ありました。配達中の毀損によるものは、勿論、再発送いたします。ご本人による受取拒否、ご逝去による返却に関しては仕方ないとして、宛先不明、不在、旧住所表示等の理由に関しては、なんとか修正して、『出来るだけ多くの方に会報を読んでも頂きたい』毎年、そんな思いを抱えつつ、名簿の管理をしております。

毎年同じ話ですみませんが、お引越しの時は勿論、同期の方の転居のご案内等の情報がございますは是非「一報ください。正確な名簿は、同窓会の要です。また、同期会のご案内を出されます幹事の皆様、ご連絡頂ければ、御依頼の宛名シールの出力致しますので、是非ご活用ください。(宛名シール出力は1回1000円となります)

す。ご了承ください。

今年の幹事学年のテーマは、『ONE MEET JI』です。多くの学年の同窓生を束ね、1つの組織を運営することはとても難しいことです。名簿委員会として、その一翼を担えるよう日々精進しております。ただし、情報管理も厳しい時代となり、特にもプライバシーポリシーのもと厳格な管理を心がけて参ります。

引き続き皆様のご協力とご理解をお願い申し上げます。情報を提供いただく際は、間違え防止の為メールまたはFAXで左記の連絡先へお願い致します。

企画委員会活動報告

企画委員会 担当理事
横山 一実

平成29年9月9日(土)16時より毎年恒例となりました「朗朗会」が行われました。今回は「朗朗寄席」と称し、立川流の三名の嘶家さんによる落語会と、深川「みの家」さんで馬刺しと桜なべを食しながらの一杯…という企画。

落語会では、立川志ら乃師匠、立川志獅丸さん、立川がじらさんが演じられ、笑いの絶えないひと時を過ごしました。大先輩方も終始大笑い、大変お楽しみいただけました。寄席が終了後は同会場にて懇親会を開催いたしました。宴会では、みの家さんの馬刺し、桜なべに舌鼓を打ち、楽しいお酒をいただきました。

宴会の後半では、立川志獅丸さんの司会で、初めての大喜利大会を催しましたが、皆さん面白おかしい回答をされ、大いに盛り上がりました。終盤には恒例の校歌。そして全員揃ったの集合写真を撮り、無事にお開きとなりました。最後になりましたが、ご寄付(お祝い、物品協賛)をいただいた方々を報告させていただきます。

- ・S31年卒 明楽会様
- ・S32年卒 山崎敬生様
- ・S41年卒 尾島育四郎様
- ・S44年卒 関谷芳久様
- ・S44年卒 中河孝樹様
- ・S44年卒 栗田茂様
- ・S45年卒 吉田耕太郎様
- ・S49年卒 大前実之様
- ・S50年卒

- 山崎秀樹様
- ・S51年卒 井家上哲史様
- ・S51年卒 岡本雅仁様
- ・S54年卒 熊倉章雄様
- ・S57年卒 小林謙之様
- ・S59年卒 平野一哉様
- ・日2年卒 明愛会様

この度は、過分なるご支援をいただき、誠に有難うございました。

今回の「朗朗会」を開催するにあたり、多くの方々のご協力をいただきました。幹事学年をはじめ、ご寄付等を賜りました皆様に感謝申し上げます。これからの「朗朗会」をさらに諸先輩方に楽しんでいただけますよう、より良い企画をして参ります。今後ともお力添えの程、何卒宜しくお願い申し上げます。

総明会事務局長 昭和59年卒 平野一哉
メールアドレス: k_hirano@motoyuki.jp
FAX: 047-354-7070



企画委員会活動報告 チャリティゴルフ

平成30年卒 明仁会
市川 正志



学校への寄付贈呈

勝の村田さんには全ゴルファーの夢「紫紺ブレザー・優勝エンブレム」が志村委員長より贈呈されました。

プレー終了後から表彰式までのアイドルタイムには、ゴルフバックを持たずこのためだけに楽器持参で駆けつけたマンクラOB有志4人による演奏会も行われ、優雅なひと時も楽しんでいただきました。最後はマンドリン伴奏をバックに鉄板の『お明治』締め。世代を超えた紫紺の絆を確認しつつ、盛会のうちに閉幕となりました。

去る平成30年5月12日(土)に、第24回総明会チャリティゴルフ大会が千葉県市原市のムーンレイクゴルフクラブ鶴舞コースにおいて総勢115名の参加により、盛大に開催されました。

これぞベストコンディションと言える春の晴天の下、昭和31年卒〜平成21年卒までコース内には多くの笑顔が弾けました。

競技は「新ペリア方式」で行われ、「個人戦」は「村田修司氏(紫魂会/昭和55年卒)」「大名人戦」は「鈴木利明氏(明楽会/昭和31年卒)」「名人戦」は「堀真壽氏(明潮会/昭和46年卒)」「学年対抗戦」は「獅子の会/昭和45年卒(榎原光一氏、輪座克彦氏、中村裕次氏)」が見事な成績で優勝されました。今回も豪華商品の数々に表彰式は最後まで大変な盛り上がりでした。そして個人戦優

「あの町」に繰り出し、ノンプレーの平成世代数名も合流し、恩師山田伸夫先生を囲み・・・夜もフルスイングでした。まさに家に帰るまでが総明会コンペですね！(笑)

最後になりますが、

「総明会ゴルフコンペ」の盛会に向けて多大なご協力、ご寄付、ご協賛いただきました皆様方にゴルフ委員会を代表して御礼申し上げます。今後この大会が「ONE MEET I」を具現化する素敵な場となるよう、明仁会も微力ながらサポートさせていただきます。来年もまた笑顔で皆様にお会いできますことを心より願っております。



個人優勝



学年対抗戦優勝

個人順位戦	氏名	卒業年	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	村田 修司	S55	45	44	89	19.2	69.8
準優勝	木村 誠	S54	42	40	82	10.8	71.2
3位	堀 真壽	S46	40	41	81	9.6	71.4
ベスグロ	斉藤 公義	S46	40	36	76	1.2	74.8

学年対抗戦	卒業年	代表選手名	NET
優勝	S45 獅子の会	榎原 光一	219.4
		輪座 克彦	
		中村 裕次	
準優勝	S60 闘紺会M	宮島 賢	219.8
		山口 達明	
		平林 康稔	
3位	S63 昭和成辰乃会M	安川 琢哉	221.8
		尾崎 弘之	
		川角 光太	

名人戦	氏名	卒業年	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	堀 真壽	S46	40	41	81	9.6	71.4
準優勝	渡辺 弘之	S46	42	45	87	14.4	72.6
3位	榎原 光一	S45	46	46	92	19.2	72.8

大名人戦	氏名	卒業年	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	鈴木 利明	S31	52	58	110	33.6	76.4
準優勝	佐藤 健一	S31	50	48	98	21.6	76.4
3位	北川 恵一	S31	49	55	104	27.6	76.4

総勢115名の先生、父母会による「個人戦」、計30チームがエントリーした「学年対抗戦」のほか、昭和38年〜昭和47年卒の先輩方26名による「名人戦」、昭和37年以前卒の先輩方10名による「大名人戦」が行われました。

4位以下の方はスペースの関係上、省略させていただきます。

寄付ご報告 (金一封)

吉田耕太郎 様	金壱万円	田中 重幸 様	金壱万円
井家上哲史 様	金壱万円	光岡 孝之 様	金壱万円
山崎 秀樹 様	金壱万円	佐藤 健一 様	金壱万円
山浦 晟輝 様	金壱万円	尾島育四郎 様	金壱万円
吉武 孝生 様	金壱万円	関谷 芳久 様	金壱万円
近藤 敏彦 様	金壱万円	熊倉 章雄 様	金壱万円

学校チャリティー報告

寄付 11万5千円

賞品寄贈

明 楽 会 様	バター2本
栗田 茂 様	バッグ各種
堀 真壽 様	キャディバッグ、ヘッドカバー
志村 和哉 様	コカ・コーラグッズ
宮井 俊樹 様	モンダミンカップ観戦券
寺山 裕也 様	東京ドームチケット
土田 正昭 様	キャップ
今泉 仁 様	カップ麺
ムーンレイク GC 鶴舞 様	プレーフィ無料券、ポストンバック、ゴルフボール

※今回もたいへん多くの寄付と協賛を頂き、誠にありがとうございました。

前年度幹事学年挨拶

第53回総明会 実行委員長
平成2年卒 明愛会

桜井 敦

第54回総明会総会・懇親会の開催に際しまして、前年度幹事学年であります明愛会一同、心よりお祝い申し上げます。

我々も一年前のちょうど同じ頃、幹事学年として『総会・懇親会』を無事終える事が出来ました。勝手がなにも分からない状態からはじまった準備期間で、本当に多くの先輩や後輩の皆さんから多大なるご支



援をいただきました。事ができました。今、改めて振り返ってみますと大変な事も多くあった半面、人となりのつながりや様々な『明治愛』に肌で触れる事ができ本当に貴重な経験をさせて頂きました。普段の会社での地位や立場など一切

関係なく、同じ校歌を歌ってきた仲間としてひとつの目的に向かい協力し成し遂げる事。このような機会はないか体験出来るものではなく、総明会の素晴らしい伝統であると改めて感じております。

結果として幹事学年の一年間の活動を通し同期のメンバーとの絆が更に強くなり、それは一年経った今でも変わらない事は言うまでもありません。

本年度の総会・懇親会のテーマは『ONE MEIJI』(明治はひとつ)だとお聞きしています。個人的には昨年の我々のテーマである『世代をこえる明治愛』(Love Meiji)を更に進化させて明治愛をひとつにしようと言う事であると捉えています。とても素晴らしいテーマです。

まさにこの一年間、幹事学年の皆さんは忙しい中ひとつになり協力し合って準備をして来られたと思います。そのチームワークでまずは皆さん自身が『総会・懇親会』を楽しんでいただければと思っています。

そして、幹事学年であったこの一年間を同期の仲間が改めてひとつになるスタート地点として同期の絆を更に強くしていった頂ければと思います。

また、今後は先輩がこの素晴らしい伝統を引き継いでいってくださるので、一緒に盛り上げて行くためにお力を貸して頂ければと思います。

何卒よろしくお願い申し上げます。

次年度幹事学年挨拶

第55回総明会 実行委員長
平成4年卒 快汗、どすこい塾

小畑 啓

『ONE MEIJI』(明治はひとつ)の旗のもと日々活動されている明仁会の活動を間近にし、校内で最も長くお世話になった先輩方の団結力に感動する日々です。本年度の総会本番での爆発力を楽しみにしております。

さて、まずは気になる我々の会の名称ですが、高IIで実行委員として活動した体育祭と文化祭のテーマが由来です。体育祭が「快汗」、文化祭が「どすこい90」でした。私は体壇の副委員長でしたが、どちらも我々らし



さに溢れた良いテーマだったなと思っております。

1986年2月1日、大雪にもめげずに中学入試をくぐり抜けた我々。3年後に増えた仲間たちとともに酒を酌み交わし、その頃に振り返る際に

必ず思い出すこと、それは中学1年当時の学年主任であられた山口栄蔵先生をはじめ、在学中の6年間に大病を患われたり鬼籍に入られてしまった先生方が多数おられたという悲しい記憶です。特に亡くなるギリギリまで教壇に立たれていた田村晴彦先生の鬼気迫る授業はいまでも忘れられませんが。

そんな我々が課外活動に出かければやはりトラブル続き。中2の遠足は大時化で乗船した船が大変なことに。デッキから生徒達を誘導していた吉田重幸先生は大波に飲まれ、危うく大海原に投げ出されそうになっていました。高I、伊豆に行こうとしたら群発地震で中止。高III修学旅行は雲仙普賢岳火砕流の大災害で大幅ルート変更；他にもここでは書ききれないほどの切ない経験をしています。それは歴史受け持つて下さった先生方も同様だったのでではないでしょうか。

それなのになぜか職員室付近から漂う我々への「アホ学年」という視線。その空気を察した我々は日々の行動を変えざる事なく嬉々として受け入れておりました。辛くとも明るく、時にはパンチの効いた笑顔で吹き飛ばそう！という決意のあらわれだったからです。多分。

なりたての評議員として尾島先輩をはじめ多数の先輩方に面倒見ていただいていたから早四半世紀超。いよいよ来年か、と感慨深いものがあります。

さあ同期のみんな、また一緒にやろうよ。いよいよ来年、俺達の「快汗、どすこい19」だよ！

本年度幹事学年挨拶

第54回総明会実行委員長
平成30年卒 明仁会

後藤 朝英

総明会の諸先輩の方々、後輩の皆さま、第54回総明会総会・懇親会の幹事学年を務めさせていただきます「明仁会」です。今年、「ONE ME I J I（明治はひとつ）」をテーマといたしました。

調布に移転し共学となって新しい明治高校がスタートしてから10年。明治の名のもとに老いも若きも、男も女も、過去も未来も含め一つになろうという意味を込めてテ



マを決めました。

とくに、総会・懇親会への参加人数の少ない若手会員の方々にも興味を持ってもらい、出席いただけないかということで、いろいろな試み・企画を用意いたしました。是非ご期待ください。

さて、昨年4月に、前年度幹事学年である「明愛会」の先輩方にお声掛けをいただき、第54回総明会への活動を開始しました。9月に各役割(役職)を決め、定例会に参加させていただきながら、昨年の総会・懇親会を迎えました。このころはまだ、半ば夢の中にいるような感じで、「こんな大変なことを我々ができるのか?」というのが、懇親会が終わった時の感想です。46才というところ一番忙しい年代。みんな仕事の合間をぬって準備を進めました。ご無沙汰している同期を探し出し、本活動への協力依頼をしながら、さまざまな活動を総明会役員・執行部の皆様、および明愛会先輩方よりご指導いただきながら行っていました。

「明治」の名のもとに、これだけ様々な年代の卒業生が集まる同窓会はほかにありません。この伝統が成せる素晴らしさを我々も実感するとともに、平成40年卒の「快汗、どすこい塾」の皆様へ引き継いでまいります。

最後にこの誌面をお借りして、会報誌への寄付広告にご賛同いただきました、先輩・後輩の皆さま、同期会及び各班・クラブOB会へお招きいただきました先輩の皆様、多大なるご協力を頂き、誠にありがとうございました。

また、本誌作成のためにご協力いただきました、明治高等学校の先生方、現役生徒の

皆様、および総明会を中心とした先輩・後輩の皆様にごの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。多忙にも関わらず、今回の活動に参加・賛同してくれた同期のみなさんにも感謝いたします。

※「明仁会」の由来ですが、「人間として行うべき正しい道を仁義という。つまりお前たちは明治を卒業して人として、正しい道を歩む、そして人生の達人になる、名人になれ。」そういう思いを込められて、6年間人生をご教示いただいた、安部友巳先生に名付けて頂きました。



第54回総明会 御寄付者一覽

(敬称略・九月末現在)

◎総明会行事	明魂会 (昭和57年卒)	フエンシング部OB会
チャリティゴルフ大会	金 十萬六千円	金 四萬円
大会参加者有志一同	明輪会 (昭和58年卒)	ヤマダ大感謝祭
金 十萬四千元	金 六萬円	金 六萬二千元
班・クラブOB会	明心会 (昭和59年卒)	ごとう会 金 四萬八千元
金 十一萬二千元	金 八萬六千元	硬式野球部激励会
	關紺会 (昭和60年卒)	金 五萬四千元
◎学校関係	新世輝 (昭和61年卒)	明治大学職員有志一同
白駿会 金 八萬一千元	金 九萬円	金 一萬円
◎同期会・班クラブ	明猿会 (昭和62年卒)	◎個人
OB・OG会等	金 十萬八千元	金 十萬元
旧雨会 (昭和34年卒)	昭和戊辰乃会(昭和63年卒)	平野 一哉 昭和59年卒
金 一萬元	金 十萬元	金 八萬元
明優会 (昭和40年卒)	平成改元会 (平成元年卒)	小田川玉城 昭和25年卒
金 三萬六千元	金 二十一萬四千元	中河 孝樹 昭和44年卒
男坂倶楽部 (昭和44年卒)	明愛会 (平成2年卒)	比留間竹郎 昭和45年卒
金 十一萬六千元	金 二十六萬二千元	廣野 宏士 昭和47年卒
獅子の会 (昭和45年卒)	明雪会 金 二萬四千元	岡本 雅仁 昭和51年卒
金 九萬元	テニス部OB会	小林 祥悟 昭和51年卒
明紫会 (昭和50年卒)	金 六萬三千元	塚谷 昌哉 昭和54年卒
金 七萬六千元	卯ノ木会 金 八萬二千元	狩野 智雄 昭和56年卒
明々会 (昭和51年卒)	吹奏楽班OB・OG会	染谷 貴男 昭和57年卒
金 六萬六千元	マンドリン部OB有志同	眞野 大 昭和58年卒
男子校根性組(昭和52年卒)	金 四萬二千元	大山 輝芳 昭和59年卒
金 二萬元	明水会 金 四萬四千元	町側 尚則 昭和60年卒
明誠会 (昭和54年卒)	放送班OB会(田村会有志)	赤岩 大輔 昭和62年卒
金 十二萬六千元	金 五萬八千元	安川 琢哉 昭和63年卒
紫魂会 (昭和55年卒)	歴史研究部OB会	北條 勝彦 平成元年卒
金 八萬三千元	金 七萬七千元	小柳 貴裕 平成元年卒
明翔会 (昭和56年卒)	応援団OB会	松尾 健司 平成2年卒
金 五萬一千元	金 八萬七千元	

幹事学年 寄付者一覽

御 礼

青木 貴史	赤城 論士	浅倉 太明	我妻 康博	阿部 道	新井 賢剛	有田 賢臣	石川 貴也	磯部 篤嗣	市川 正志	井上 隆	伊野瀬 寛	今村 敦	岩間 潤	上田 英治	牛尾 靖成	江藤 仁俊	大久保俊治	太田 淳一	大橋恵太郎	小川 吾朗	尾関 祐司	笠村 強	加藤 貴之	門田 源隆	嘉門 英威	川尻 哲也	神林 克明	北見陽一郎	熊田 雄一	栗田 隆	後藤 朝英	小林健太郎	小林 耕治	小森 崇雄	斎藤 秀治	坂田 覚	坂本 肇	櫻井 崇	塩野目 明	篠田健一	篠原 智	下中 祥幸	新澤 洋太
鈴木 郁夫	須部 恭浩	関口 明夫	平 史樹	宅間 大介	田嶋 康行	田中 大助	田村隆太郎	長正路健二	柘 浩一郎	鼓 晃生	寺内 敬	徳富 寛	徳永 巨洋	富沢 康弘	富田 和宏	中川 正章	中山 義明	西場 健介	野澤 幸成	野武 宏至	廣田 拓郎	藤崎 信	保立 光将	松浦 邦彦	松沢 毅	松本 航	松本 拓也	皆川 智治	皆川 智治	宮下 勝宏	宮下 英司	矢口 研	矢代 亘	安中 哲徳	山口 一郎	山田 雄一	山田 繁一	山室 武久	横田 昭敏	吉澤 昭敏			

この度は第54回総明会総会及び懇親会開催、並びに会報誌「紫紺の詩」の発行にあたりまして、大変多くの皆様からご寄付及び広告掲載を賜り、誠にありがとうございます。深く感謝申し上げます。

今年是我々平成3年卒「明仁会」が、総明会総会及び懇親会、また、会報誌の作成にあたりました。色々不慣れなところもありましたが、先輩諸兄の温かいご指導ご支援をいただきながら、ここまで勤め上げられたこと、明仁会一同深く感謝しております。

高校を卒業して27年が過ぎましたが、久しぶりに会う同級生を見て、すぐに当時の記憶がよみがえり、皆と話していると、まるでタイムスリップしたかのような感覚に陥り、すぐに打ち解けて色々な思い出話に浸る。そんな、懐かしくて新鮮な記憶が、また新しい感覚を生み出す。それが、この会を成功させようというモチベーションを生み出しました。

今時、このような大掛かりな同窓会を開催している学校は、日本全国でもそうはないでしょう。ですが今回、実際に携わってみて感じた事は、このような会を持続して続ける事の大変さ、そして、この会を未来に続けて残していくことの難しさを痛感いたしました。

時代は昭和から平成に移り、その平成も来年31年をもって新しい元号に変わります。しかし今年54回を迎える総明会には55回を迎える事になり、時代が変わっても総明会は今後も続いていく事でしょう。ですが、人の価値観というのは不変ではありません。今までも、先輩諸兄はそれと戦い、知恵と労力を絞り、発展させながら続けてきた事は尊敬に値します。しかしながら、その「明治」を思う不変的な心を、これからのように次の世代に伝えていけば良いのか？

今回我々は、その発展的持続の一つの提案として、様々な試みをしていきたいと思ひ、講演会・懇親会を一つの試金石として、皆様にご覧いただきたいと考えております。

11月25日の総明会総会・懇親会場で改めて皆様に御礼させていただきますが、明治中学校・高校並びに総明会の益々の発展を祈念し簡単ではありますが御礼の挨拶とさせていただきます。

明仁会 寄付広告委員長 廣田拓郎

総明会(明治大学付属明治高等学校同窓会) 会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、総明会と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の結束と親睦を図り、且つ母校のためにこれを贊助することを目的とする。

(事業及び会計処理)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

1 母校に対する賛助活動を推進すること。

2 会員名簿を整備、管理すること。

3 会報などの広報物を発行すること。

4 同期会の結成を助成し、奨励すること。

5 支部OB会の開催を助成し、奨励すること。

6 その他、本会の目的を達成するために必要なこと。

② 前項に定める事業はすべて一般会計として処理する。ただし、会長は、理事会の議決と評議員会の承認を得て、前項1号ないし6号に定める一部もしくは全部を特別会計として処理することができる。

(事務局、所在地)

第4条 本会の事務を行うために事務局を設ける。

② 事務局は、明治大学付属明治高等学校内に置く。

第2章 会員

(会員資格)

第5条 本会は、旧制、新制明治中学校、明治大学八丈高等学校もしくは明治高等学校の卒業生ならびに同校に在籍したことのあるものを会員とする。

(入会金及び終身会費)

第6条 会員は、入会の時に入会金及び終身会費を本会に納入するものとする。

入会金及び終身会費の額ならびにその徴収の方法は、理事会が明治大学付属明治高等学校校長(以下「校長」という)の同意を得て定める。

(特別会員)

第7条 母校の教職員であるもの及びその職にあつたものを特別会員とする。

② 特別会員は、本会が行う事業に参加することができる。

第3章 役員

(役員の種類及び定員)

第8条 本会に理事10人以上20人以内及び監事2人を置く。

② 本会に会長1人、副会長3人以内、専務理事1人、事務局長1人、会計1人を置く。

③ 必要であれば、本会に常務理事を若干名置くことができる。

(役員を選任)

第9条 会長及び副会長の選任は、別に定める「会長及び副会長選出規定」に基づいて選定し、理事会及び評議員会の承認を受け、総会の決議をもってこれを選任する。会長及び副会長はその就任と同時に理事となる。但し、

任期中途で会長及び副会長を補充すべき場合は、「会長及び副会長選出規定」に準じて選定し、理事会及び評議員会の承認を得て選任することができる。この場合は選任直後の総会において承認を得るものとする。

② 会長及び副会長以外の理事並びに監事(以下「会長選任役員」という)は、会員の中から、会長が選任する。会長選任役員は、選任後最初の評議員会の承認が得られなかったときは、選任されなかったものとみなす。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員のないように直ちに役員を選任しなければならない。

③ 専務理事、常務理事及び事務局長並びに会計は、副会長の同意を得て、会長が理事の中から選任する。

④ 役員は任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

⑤ 会長は、副会長の同意を得て、いつでも会長選任役員を解任することができる。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員の無いように直ちに役員を選任しなければならない。

⑥ 理事は評議員を兼務できない。

第10条 本会の会務の執行は、理事会がこれを決する。

② 理事会は理事をもって構成する。

③ 理事会は会長がこれを招集する。

④ 理事会の議長は、会長又は会長が指名したものがこれにあたる。

⑤ 理事会の議長は、出席理事の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

⑥ 理事は書面により理事会の決議に加わることができる。

⑦ 監事は、理事会に出席し意見を述べることができる。

第11条 会長は本会を代表し、会務を総理、執行する。

② 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した順位にしたがい会長の職務を代行する。

③ 専務理事は、会長の指揮のもとに会務を総括してつかさどり、かつ事務局を総括する。

④ 常務理事は、専務理事を補佐する。

⑤ 事務局長は、専務理事の指揮のもとに事務局を統括する。

⑥ 会計は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を行う。

⑦ 理事は、会務を分担する。

第12条 監事は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を監査する。

② 監事は、監査の結果を定時総会に報告する。

(会長等の職務)

第13条 本会に名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役を置くことができる。

② 名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役は、本会又は母校に永年にわたり特別に功労のあつたものの中から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

③ 学校法人明治大学の総長、学長は、その在任中、名誉顧問としてこれを推薦する。

④ 明治大学付属明治高等学校の校長は、その在任中、顧問をそれぞれ推薦する。

⑤ 相談役は、会務に永年にわたり功労のあつた者の中から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

⑥ 会計は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を行う。

⑦ 理事は、会務を分担する。

第14条 監事は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を監査する。

② 監事は、監査の結果を定時総会に報告する。

(名誉役員)

第15条 本会に名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役を置くことができる。

② 名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役は、本会又は母校に永年にわたり特別に功労のあつたものの中から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

③ 学校法人明治大学の総長、学長は、その在任中、名誉顧問としてこれを推薦する。

④ 明治大学付属明治高等学校の校長は、その在任中、顧問をそれぞれ推薦する。

⑤ 相談役は、会務に永年にわたり功労のあつた者の中から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

⑥ 会計は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を行う。

⑦ 理事は、会務を分担する。

第16条 監事は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を監査する。

② 監事は、監査の結果を定時総会に報告する。

第4章 総会及び懇親会

(総会の招集)

第14条 定時総会は毎年1回開催し、臨時総会が必要なときに開催する。

- ① 総会は、会長がこれを招集する。
- ② 総会の招集は、本会が発行する会報に掲載し、もしくはその他の方法で会員に通知して行う。

(総会の議事)

第15条 総会は、この会則に定める事項及びその他の重要な事項のうち理事会が提案し、評議員会が必要と認めたる事項を総会における審議事項として決議する。

- ① 総会の議長は、会長又は会長の指名したものがこれにあたる。
- ② 総会の議事は、出席会員の過半数でこれを決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(懇親会の開催)

第16条 懇親会は、会員の懇親を目的として毎年1回開催する。

- ① 懇親会の開催に関する事項は、理事会が決定し、評議員会の承認を得て、会長が会員に通知する。この通知は、総会の召集通知に準じて行う。

第5章 委員会

(委員会の設置)

第17条 本会は、第2条の目的の達成及び第3条の規定に掲げる事業の遂行のために必要な事項を調査、研究、審議し、または実施する機関として委員会を設けることができる。

- ① 委員会は、会則に定めるほか理事会の決議により設置する。
- ② 委員会は、委員長1人及び委員2人以上をもって構成する。

③ 委員長は、理事会の承認を得て会長がこれを委嘱し、委員は、会員及び特別会員の中から会長の同意を得て委員

員長がこれを委嘱する。

- ④ 委員会は、委員長がこれを主宰する。
- ⑤ 委員長は、その就任と同時に理事となる。

第6章 評議員及び評議員会

(評議員)

第18条 本会に、卒業学年毎に2人以内の評議員を置く。同期会は、同期会の会員のうちから評議員を選任して本会に届けるものとする。また、総明会に登録した班部OB会毎に1人の評議員を置くことができる。評議員を選任した場合は、本会に届けるものとする。

- ① 同期会が結成されていないか、もしくは同期会において評議員を選任できない事情があるときは、会長は、当該学年のために同学年の中から仮評議員を選任できる。
- ② 総明会に登録すべき班部OB会が結成されていないか、もしくは班部OB会に評議員を選任できない事情がある場合は、評議員を置くことができる。

③ 同期会の評議員と班部OB会の評議員は兼任できない。

- ④ 同期会の評議員及び仮評議員は、評議員会に出席するほか、本会の事務のうちその属する学年もしくは同期会及び班部OB会の関係で必要な事務を処理する。

(評議員の職務)

第19条 評議員及び仮評議員は、評議員会に出席するほか、本会の事務のうちその属する学年もしくは同期会及び班部OB会の関係で必要な事務を処理する。

- ① 評議員及び仮評議員は、適宜代行者を選任して評議員会への出席、その他の事務処理を代行させることができる。

(評議員会)

第20条 評議員会は、この会則に定める事項及びその他の重要な事項につき議決する。

② 評議員会は、会長が適宜これを招集する。

- ③ 評議員会の議長は、会長もしくは評議員の中から会長が指名したものがあたり、その進行は事務局長が行う。

④ 評議員会の議事は、出席評議員、仮評議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第7章 同期会

(同期会)

第21条 会員は、学年ごとに同期会を組織するものとする。

- ① 同期会は、同期会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。
- ② 同期会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。
- ③ 同期会は、同期会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

第8章 班部OB会

(班部OB会)

第22条 会員は、在学中在籍した班部ごとに班部OB会を組織することができる。

- ① 班部OB会は、OB会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。
- ② 班部OB会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。
- ③ 班部OB会は、OB会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

第9章 会計

(会計の分類と会計年度)

第23条 本会の会計処理は、一般会計と特別会計に区分して行い、特別会計はこ

の会則に定めのある場合の他、理事会において特に定めた会計に関する会計処理、一般会計は特別会計を除いたすべての会計処理とする。

① 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(基金)

第24条 理事会は、本会の財政基盤を安定させ、また第3条に定める事業の遂行資金を形成するため基金を積立てる努力をしなければならない。

- ① 基金は、特別会計(以下「基金特別会計」という)で処理する。
- ② 基金は、入会費、寄付金のうち理事会で基金に組入れることを決議したもの、並びに基金へ組入れることを目的とする寄付金(以下「特別基金」という)は、基金として基金特別会計に計上し、この会則に定めのある場合を除き支弁することはできない。

③ 基金は、財政基盤基金と事業遂行基金をもって構成する。

- ④ 基金への組入金は、財政基盤基金の総額に満つるまで優先してこれに充当する。
- ⑤ 財政基盤基金の総額は、総会の決議により決定しもしくは変更する。この場合、第26条の定め(特別決議を準用する)。

⑥ 財政基盤基金は、原則として取崩すことができない。ただし、総会において承認を得た場合はこの限りではない。この場合、第28条の定め(特別決議)を準用する。

- ⑦ 基金のうち、財政基盤基金の総額を超える額を事業遂行基金とする。
- ⑧ 事業遂行基金は、第3条1項1号に定める事業もしくは理事会で決議した事業に支弁するため、理事会及び評議員会の決議によりこれを取崩

し、当該事業のために支弁すること
ができる。

- ⑩ 会長は、緊急に対処を要すると認め
た事項（以下「緊急処理事項」とい
う）のために、副会長の同意を得て、
事業遂行基金を取崩し緊急処理事
項に支弁することができる。この場
合、会長は、緊急処理事項が生じた
後、最初に開催される総会において、
当該事項の緊急性及び事業遂行基
金取崩しの必要性を説明し、取崩し
について承認を得なければならぬ。
⑪ 事業遂行基金を支弁して行う事業を
検討するため、本会に基金事業委員
会を設置する。第17条4項の定め
にかかわらず、この委員会は委員長1
人と委員8人をもって構成し委員は
理事の中から委員長が選任する。

(経費)

第25条 本会の経費は、入会費（ただし基金
組入れ分を除く）、終身会費及び寄
付金（ただし基金組入れ分を除く）並
びに一般会計に属する財産から生じ
る果実その他特別会計に属さない収
入をもって支弁する。

(予算)

第26条 会長は、会計年度の終了する前に、理
事会の承認を得て翌会計年度の予算
を作成する。翌会計年度の予算は、
評議員会の承認を得て、総会に提出
してその承認を得なければならぬ。
② 前項により、会長は、その会計年度の
最後に開催される評議員会に翌会計
年度の予算を提出し、その承認を得
た場合は、翌会計年度の初めから総
会開催の日までの間、その予算を執
行できるものとする。

(決算)

第27条 本会の収入支出の決算は、監事がこ
れを監査し、会長がこれを総会に提

出して報告しなければならない。
② 基金特別会計の決算報告において
は、財政基盤基金と事業遂行基金を
区別し、それぞれの収支の概要及び
決算時の在り高のほか、特別基金の
累計額を報告するものとする。

第10章 補則

(特別決議)

第28条 本会の会則の改正は、総会における
出席会員の4分の3以上の多数によ
る決議によらなければならない。

(届出)

第29条 会員は、氏名、住所及び職業を変更
したときは本会に届け出るものとす
る。

② 同期会は、同期会員名簿及び役員
名簿を本会事務局に届け出るもの
とする。

③ 班部OB会は、OB会名簿及び役員
名簿を本会事務局に届け出るもの
とする。

附則

(経過措置1)

第1条 (年会費同期会)
前回の会則の改正が施行された平成
11年1月1日以前に会員となつた
者で構成される同期会（以下「年会
費同期会」という）が納入する年会
費については、次に会則改正のある
まで改正前の第7条の定めによるも
のとする。

第2条 (年会費)

同期会の納入する年会費は、第25条
の定める経費に支弁する。

(経過措置2)

第1条 (年会費班部OB会)
班部OB会は、本会を運営する費用
に充てるための年会費を納入するも

のとする。年会費の額及びその納入
方法は、評議員会で定める。
第2条 (年会費)
班部OB会の納入する年会費は、第
25条の定める経費に支弁する。

(施行期日)

この会則の改正は、平成18年12月3
日より施行する。

(参考)

改正前第7条(年会費)
同期会は、本会を運営する費用に充
てるための年会費を納入するものと
する。年会費の額及びその納入方法
は、評議員会で定める。

総明会会長及び副会長選出規定

会則第9条1項に基づき、会長及び副会長
の選出は本規程により行う。

(選出委員会の設置、解散、委員の選出)

第1条 会長及び副会長の選出を行う場合は
「選出委員会」（以下委員会という）
を設置する。

② 委員会は役員改選又は補充の時期
に合わせて、十分な期間を考慮し、理
事会が設置する。

③ 委員会の構成は、委員長1人、委員
6人とする。委員の選出は理事会及
び評議員会で各々3人とする。委員
長は会長が指名したものがこれにあ
たる。

④ 委員会の解散は、総会において会長
及び副会長が選出された時点とする。

(会長、副会長の選出、承認について)
第2条 委員会は、会長及び副会長の選出に
あたり、推薦及び立候補を受け、そ
の者をもって候補者とする。

② 候補者の中より、会長及び副会長候
補者を選出する。選出においては全
員一致を原則とするが、定員に絞り
込めない場合は、その状態で選出終

了とする。

③ 理事会は、委員会より選出された
候補者の承認を行う。

④ 評議員会は、理事会で承認された
候補者の承認を行う。

⑤ 評議員会において承認された会
長、副会長は、総会の決議をもつ
て、これを選任する。

(理事会の承認)

第3条 委員会より選出された会長候補者
が1名の場合、理事会において過
半数の信任をもって承認されたも
のとする。

② 委員会より選出された会長候補
者が2名以上の場合、理事会にお
いて投票を行い、最も得票数の多
い候補者を会長候補者として承
認する。

③ 委員会より選出された副会長候
補者が3名の場合、理事会におい
て過半数の信任をもって承認され
たものとする。

④ 委員会より選出された副会長候
補者が4名以上の場合、理事会に
おいて投票を行い、得票数の多い
順に3名を副会長候補者として
承認する。

(評議員会の承認)

第4条 理事会より選出された会長及び副
会長候補者は、評議員会において
過半数の信任をもって承認された
ものとする。

(会長、副会長の資格)

第5条 会長及び副会長は、総明会会員と
して20年以上在籍し、かつ評議員
又は理事を経験していることを資
格とする。

この規定は、平成26年11月16日より施行
するものとする。

編集後記～に替えての編集日誌

12月某日 紫紺館にて、前年度幹事学年の明愛会より明仁会への幹事学年引き継ぎ式。いよいよ2018年11月の総明会式典・懇親会に向けての本格的なキックオフ！ 最初に一年を通した全体の流れの説明があった後、会報は遠藤前委員長より具体的な作業内容の解説が。って、月1回開催の広報委員会に、寄稿文の依頼・発送および回収、もちろん取材に大校正会etc. えっ、そんなにやることあるのですか！ 話をうかがっている途中でお腹が痛くなってきた…。トイレ行って来ていいですか？

1月某日 会報の特集内容を精査する広報委員会の第1回会合。20人を超える先輩方にご出席いただく。貴重な時間を割いていただき、ありがたいことです。で、行われることといえば、嵐のダメ出し。そうですよね、出直して参ります…。と、落ち込みつつも、その後の新年会では大いに飲む！ 大いに励まされる！

3月某日 いよいよ本格的な取材のスタート。この日は、3月で退任される田中徹太郎先生の退任インタビューで調布校舎へ。生徒会本部の顧問としてお世話になった徹太郎先生が定年かー。時のたつのは早い。って、先生、書けない話ばかりス…。「続きは、今度、ゆっくり飲みながらー」。はい！

4月某日 第4回広報委員会。ようやく特集内容が、幹事学年テーマに基づいた、「『ONE MEIJI ～明治はひとつ～』を繋げる“学校”」と「卒業生・在校生が繋げる『ONE MEIJI ～明治はひとつ～』」の2本立てで決まる。やったー、今夜は飲むぞー！ 真面目に議論したあとの酒は美味しい(いや、進行遅れ気味なんだから、早く取材の段取りしろ、俺)！

5月某日 この4月に就任されたばかりの、明治大学国際日本学部の鈴木賢志学部長(S62年卒)に取材。鈴木先輩は何を隠そう(隠してませんが)4代前の会報委員長なのです。取材もそこそこ(いや、きちんとやりましたよ)に、会報担当者のお悩み相談みたいになってしまった。

7月某日 いつも後輩に優しいアートディレクター鳥村先輩から「こんなに進行の遅い学年は初めて。これでは納期の責任は持てません。(以下略)」と優しい文面で、恐ろしい内容のメールが。読んだ瞬間、固まる。速攻で手元にある素材をまとめて

グーグルドライブにアップ、同期に編集会議召集の知らせ、そして鳥村さんにお詫びの電話。本当にすみませんでした…。

8月某日 特集企画「安部友巳先生 27年目の特別授業」実施のため、何回目かの調布校舎。同期が30人集まり、大盛況！ 活気のある授業となった。これで、取材はすべて終了！ さあ、まとめますか！

9月某日 紫紺館にて最終となる2回目の校正会。この日も20人以上の先輩・同期が参加してくれたお陰で作業は順調に進み3時間ほどで終了。で、やっぱり飲みに行くわけです。会の終わりしなかに広報副委員長の小林先輩より、さりげなく「今年の会報、(まあまあ)良く出来ていると思うよ」とのお言葉。ありがとうございます！ 調子にのらず最後まで頑張ります。

9月末日 ふじ・プリントの田嶋先輩に校正紙をまとめてお渡しする。これにて会報委員として出来ることはすべて終了。かわいいわが子です、どうぞ、よろしく願いいたします。

会報委員長 山口 一郎

第54回 総明会実行委員会 明仁会

実行委員長 後藤 朝英	式典委員長 熊田 雄一	会報委員長 山口 一郎
実行副委員長 加藤 貴之	式典委員 青木 貴史 浅倉 太明 我妻 康博	会報副委員長 矢代 亘
事務局長 富沢 康弘	上田 英治 中村 正章 山田 雄一	会報委員 岩間 潤 牛尾 靖成 尾関 祐司 小林 耕治 桜井 崇 松本 拓也
事務局 栗田 隆 中山 将 松沢 航	寄付広告委員長 廣田 拓郎	広報・HP・撮影担当 太田 淳一
会計 門田 源隆	寄付広告副委員長 小林健太郎	
会計監査・監事 大久保俊治	就活会委員長 伊野瀬 寛	
ゴルフ委員長 市川 正志	就活会副委員長 松浦 毅	

発行：明治大学附属明治高等学校・中学校同窓会・総明会
〒182-0033 東京都調布市富士見町4-23-25
明治大学附属明治高等学校内
TEL.042-444-9100
<http://www.meiji-soumeikai.com/>

編集長：山口 一郎
編集：矢代 亘／青木 貴史／岩間 潤／牛尾 靖成
尾関 祐司／小林 耕治／桜井 崇
松本 拓也

アートディレクター：鳥村 武史(昭和59年卒)

制作進行：田嶋 慎治(昭和63年卒)

印刷：ふじ・プリント

2018年10月1日発行

お礼とお詫び

この会報誌発行にあたり、多くの総明会の皆様から、ご寄稿及び貴重なお写真の提供をいただきました。広報委員会一同心よりお礼申し上げます。紙面の都合上、全てを掲載することができませんでした。この場を借りてお詫び申し上げます。また、文章中においても、万人が読みやすい表現に統一をはかるため、広報委員の責任で割愛・表現の変更をさせていただきました。広報委員全員で文章を校正致しましたが、至らぬ点もあるかと思えます。何卒ご了解いただきますようお願い申し上げます。※本誌掲載の記事、写真、イラスト、図表の無断転載は固くお断りいたします。乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

住所変更時のお願い

総明会では、総明会会報・総明会からのお知らせが皆様のお手元に、一通でも多く確実に届くよう各学年の評議委員を通じて総明会会員名簿の管理を行っております。

お引越し等で住所が変わられた方はお手数ですが、左記総明会事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

連絡先：
総明会 事務局長 **平野 一哉**
TEL 047-351-1511
FAX 047-354-7070
(勤務先：株式会社もとゆき 代表取締役)
E-mail : k_hirano@motoyuki.jp

